

中国運輸局 御中

令和5年度訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業（実証事業）
「日帰りツアー造成によるFIT旅行者の旅ナカ動向調査事業」

東武トップツアーズ広島支店

目次

1. 事業概要	2
2. 業務内容	
(1) 調査事業	5
①FIT旅行者に関する調査	
②宿泊施設ヒアリング調査	
③コンテンツ調査	
(2) 実証ツアーの造成	4
①実証ツアーの造成	
②実証ツアー周知の提案及び実施	
(3) 実証ツアーの実施及び分析	29
①実証ツアーの実施	
②実証ツアーの分析	
(4) 報告会の実施	83
(5) 事業全体のまとめ	88

1. 事業概要

1. 事業概要

事業内容

(事業背景)

- ・訪日外国人旅行者数は令和4年10月11日の水際措置緩和以降、順調に回復。
- ・令和5年6月には207万3,300人と3年5ヶ月ぶりに200万人を超え、中国を除くとコロナウイルス感染症拡大前の93%まで回復。
- ・今後2025年に大阪・関西万博や瀬戸内国際芸術祭等の観光の起爆剤となるイベントが多数開催されるため、更なる訪日外国人旅行者の増加が見込まれており、なかでも訪日外国人旅行者の旅行形態として、FIT（個人旅行）化が進んでいる。
- ・FITは、欧米豪市場で多い傾向にあり、とりわけ中国地方においては、広島が欧米豪市場からの訪日外国人旅行者の割合が高い。そのため、広島においてFIT旅行者の宿泊滞在期間の延長を促す取組の質的強化が必要。

(事業内容と事業目的)

- ・上記背景を踏まえて、広島を訪れるFIT旅行者を対象とした過去のデータや文献等を活用の上分析し、FIT旅行者の中国地方での広域周遊を促すような日帰りツアーを造成することで、中国地方における訪日外国人の宿泊滞在期間の延長及び旅行消費額向上に繋げることを目的とする。

(メインターゲット)

- ・広島に1泊以上滞在し、旅ナカで行程の変更可能な、英語が話せるFIT旅行者とする。

2. 業務内容

(1) 調査事業

①FIT旅行者に関するデータ・文献調査について

広島エリアにおける訪日外国人の特性や旅行動向を調査するため、下記のデータ・文献を分析対象とする。

調査・分析対象のデータ・文献

- ◎ 広島エリアにおける周遊型インバウンド観光振興の未来戦略 (2019.3)
- ◎ 令和2年度観光地域動向調査事業
「平和都市を訪れる外国人観光客の消費及び滞在に関する動向調査」報告書
- ◎ 令和2年日本人・外国人観光地点パラメータ調査 外国人調査
- ◎ 日本政策投資銀行「関西・瀬戸内 インバウンド観光の広域周遊活性化に向けて 2023.4」
- ◎ 外国人観光客の中国地域内周遊に関する市場調査 (平成29年3月)
- ◎ 広島経済同友会 観光振興委員会
「～ゲストハウスへのアンケート調査から探る広島の可能性と課題～」
- ◎ 広島市経済観光局観光政策部 広島市観光概況
- ◎ 広島県観光連盟(インバウンドG) WITHコロナ インバウンド戦略 (-R7 (2025) 年目標)

※文献選定理由

⇒広島エリアにおける訪日外国人観光客の旅行動向や消費動向についての調査が充実しており、ツアー造成の際に参考になると考えられるため。

基本的な統計情報

- ◆ 令和3 [2021]年 広島県観光客数の動向
- ◆ 令和3年広島県観光客数の動向-Ⅲ-観光客数統計表
- ◆ 訪日外国人消費動向調査 2019年年間値の推計

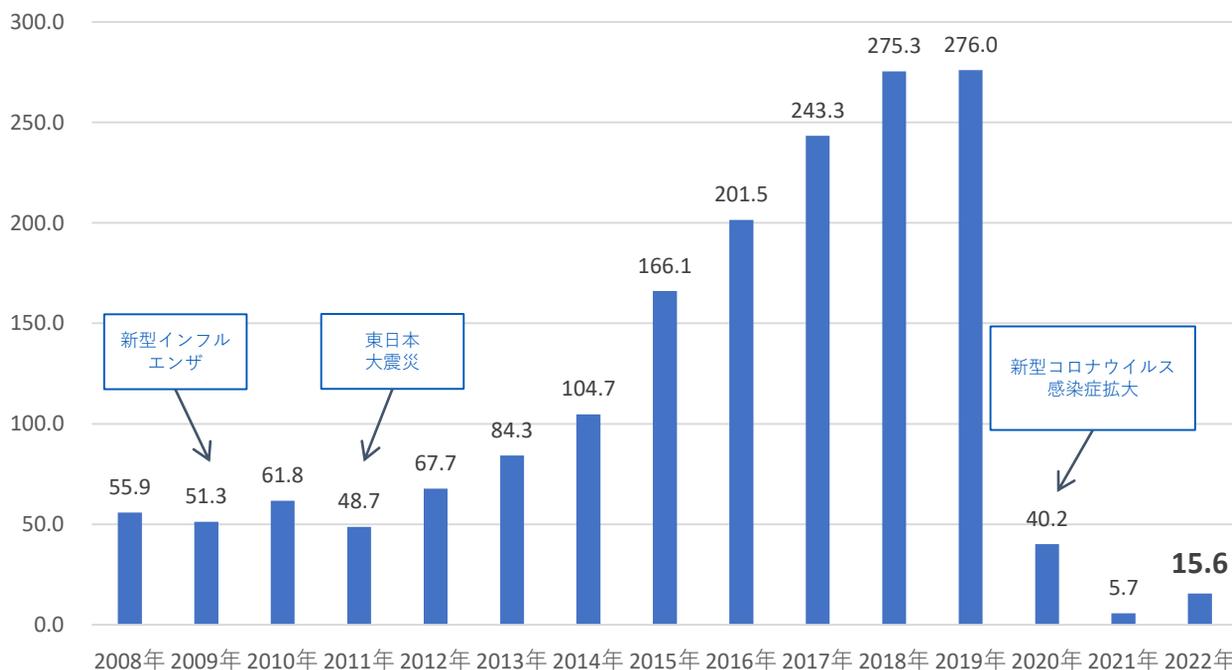
基本的な統計情報とかけあわせ、訪日外国人FIT旅行者の特性と旅行動向を調査・分析。

01 広島を訪れる外国人観光客の概況

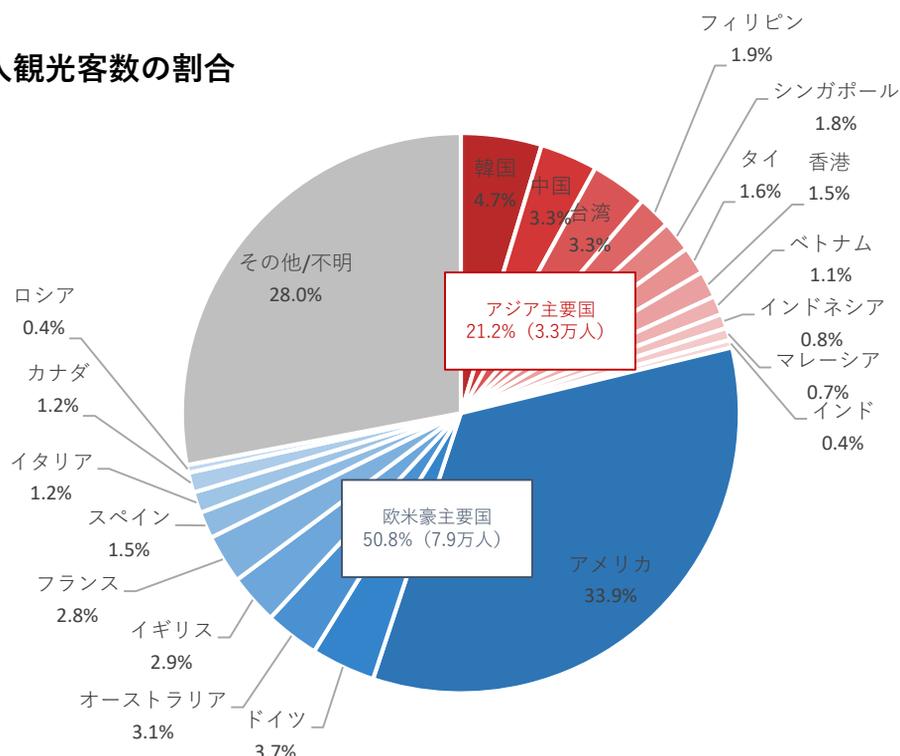
広島県における2022年の外国人観光客数は15.6万人で、前年と比べて9.9万人（+174.7%）増加したが、感染症拡大前の2019年と比較すると260.4万人（▲94.4%）減少している。地域別に外国人観光客の割合をみると、欧米豪主要国からは50.8%と約半数を占める。

外国人観光客数の状況

（単位：万人）



市場別外国人観光客数の割合



出典：一般社団法人広島県観光連盟「令和4（2022）年 広島県観光客数の動向」

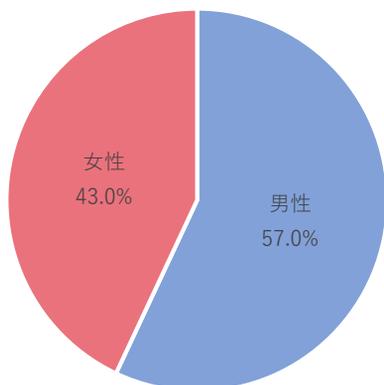
02 訪日外国人観光客の広島観光の特徴

性別は「男性57%、女性43%」、年代は「20・30歳代」が70.9%を占める。広島県内に宿泊する方が全体の72.8%、平均宿泊数は2.6泊、宿泊施設は「ホテル（56.5%）」がもっとも多い。旅行人数は「2人（56.6%）」が最多、グループ構成は「友人（61.0%）」または「家族（40.4%）」。**20～30代の2人組で、友人または家族と、広島県内のホテルで2～3泊する**、という旅行者が最多となった。

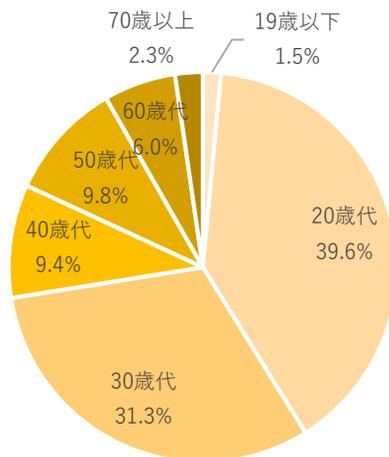
外国人観光客の属性

(N=265)

性別

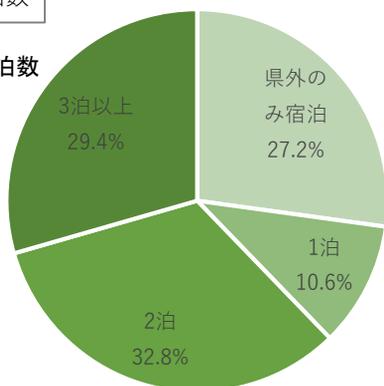


年代

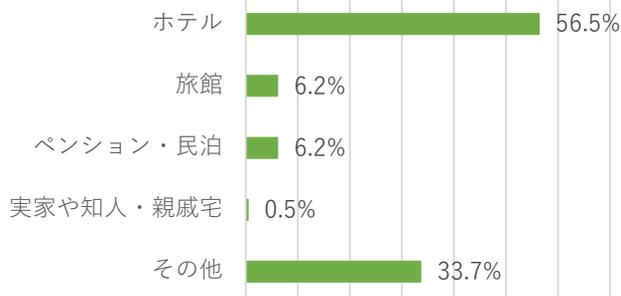


広島県内宿泊数

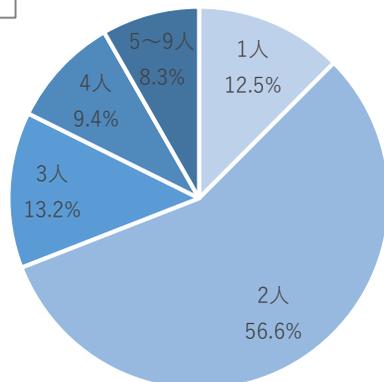
※県内平均宿泊数
:2.6泊



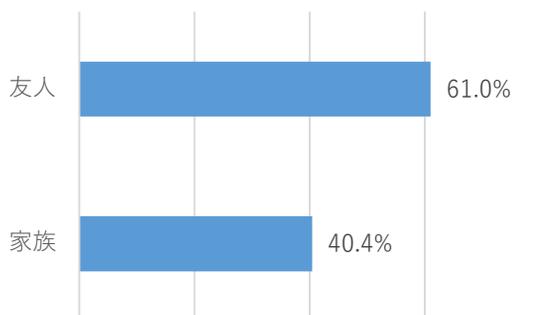
宿泊施設



旅行人数



グループ構成



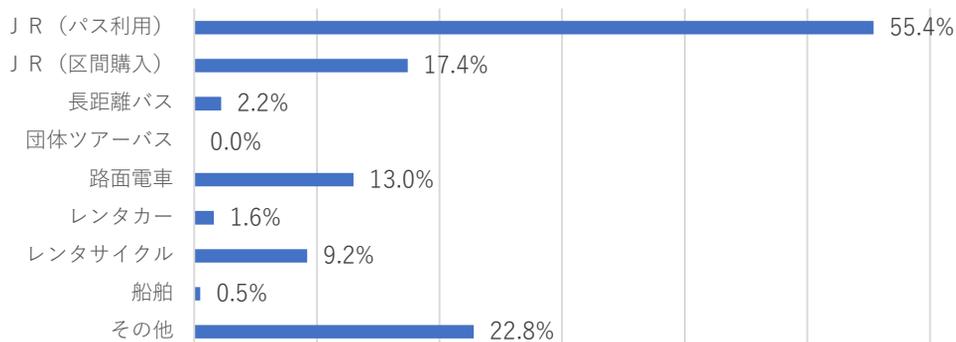
02 訪日外国人観光客の広島観光の特徴

広島県内の移動は「JR（バス利用）（55.4%）」が最多。以下、「JR（区間購入）（17.4%）」「路面電車（13.0）」とつづく。訪問観光地点数は「2箇所（48.3%）」が最多。訪問観光地は「広島平和記念資料館（53.8%）」が最も多く、以下「厳島神社（35.7%）」「広島城（25.6%）」とつづいた。外国人観光客は主に**公共交通機関を使って移動し、広島平和記念資料館や厳島神社、広島城などの観光地を1～3箇所訪れる**、という旅行者がほとんどである。

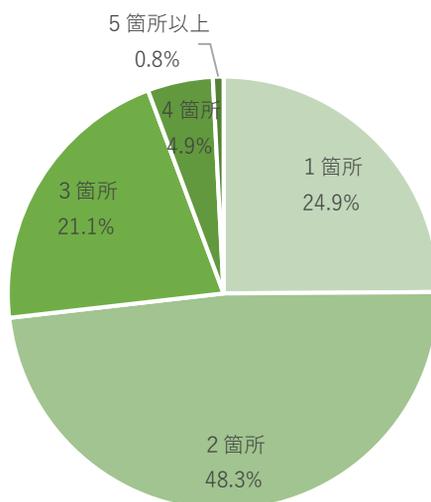
外国人観光客の観光動向

(N=265)

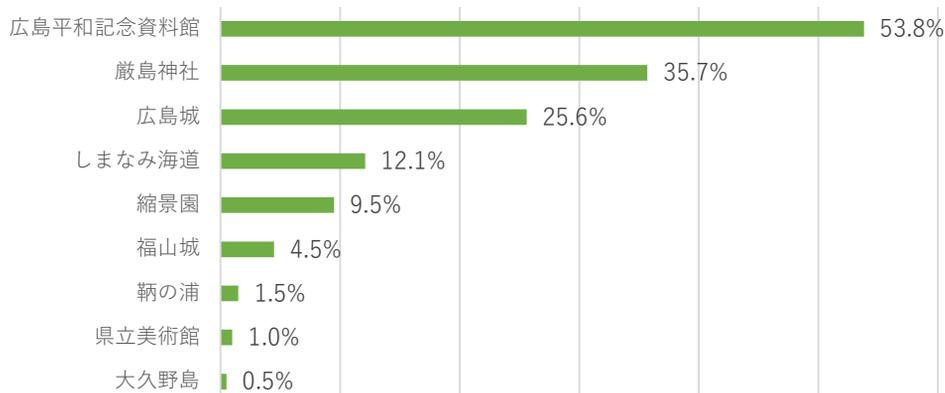
広島県内観光地間の移動



訪問観光地点数



訪問観光地



出典：広島県商工 労働局観光課「令和2年日本人・外国人観光地点パラメータ調査 外国人調査」

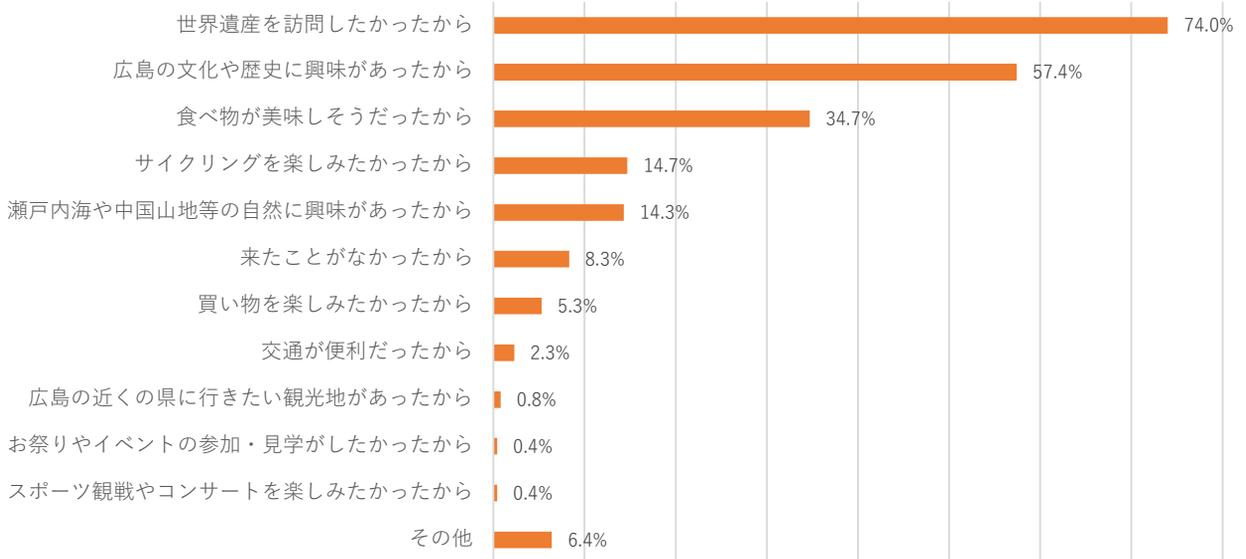
02 訪日外国人観光客の広島観光の特徴

広島を旅行先として決定した理由は「世界遺産を訪問したかったから（74.0%）」が最多。以下、「広島の文化や歴史に興味があったから（57.4%）」「食べ物が美味しそうだったから（34.7%）」とつづく。国籍別にみると、アジア圏と比べて欧米圏でより「伝統文化/歴史的施設」を訪問理由としている割合が高い。外国人観光客の旅行目的は、**世界遺産など「歴史・伝統文化」が多く、欧米圏でよりその傾向が顕著**となった。

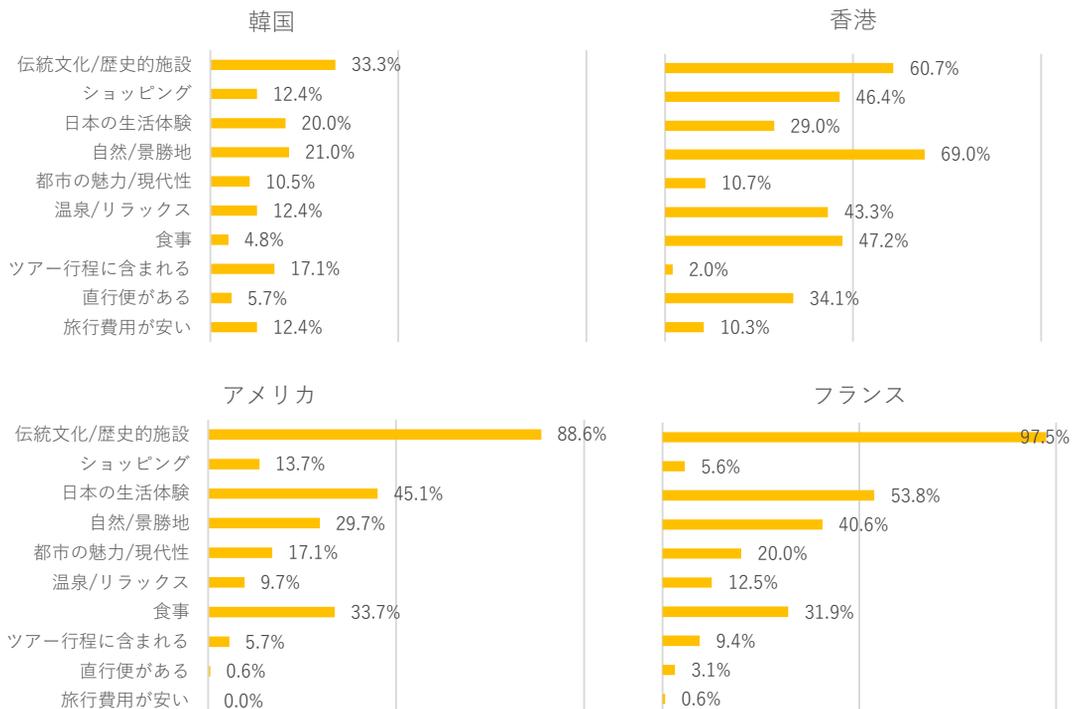
外国人観光客の旅行目的

(N=265)

広島県を旅行先として決定した理由



※参考：中国地域を訪れる動機（主な国籍別）



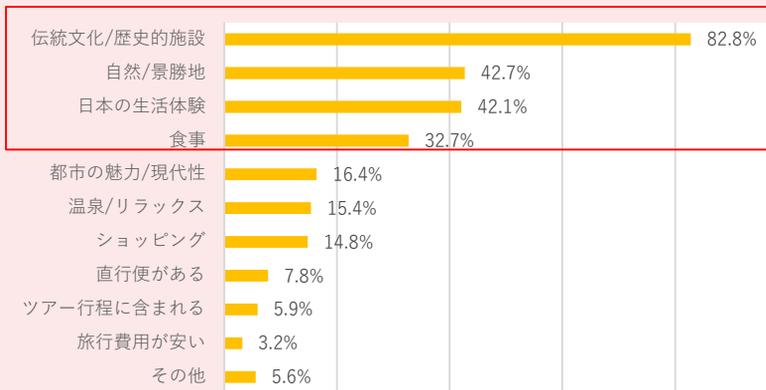
出典：広島県商工 労働局観光課「令和2年日本人・外国人観光地点パラメータ調査 外国人調査」
外国人観光客の中国地域内周遊に関する市場調査（平成29年3月）

03 訪日外国人観光客の興味・関心項目

中国地域の旅行動機として、「伝統文化/歴史的施設」「自然/景勝地」「日本での生活体験」「食事」などが上位として挙げられた。一方で「ショッピング」を目的とする方は少なく、**その土地に実際に訪れないとできない経験が好まれる傾向**にある。潜在的なニーズとしては、自由な旅程の中で地元住民と交流したり、観光地化されていないようなローカルな場所に行くといった体験が好まれる傾向にあり、**観光客としてではなく、その土地の住民と同じように食事やイベントを楽しみたいというニーズ**が感じられる。

顕在的ニーズ

中国地域を訪れる動機（全体）



「伝統文化/歴史的施設」を目的として訪れている人が8割強。次いで、「自然/景勝地」、「日本の生活体験」、「食事」となっている。

「ショッピング」を目的とする人は14.8%と少ない。

キーワードは、**「文化・歴史」「自然」「食」**

潜在的ニーズ

（ヒアリング調査より）

- 観光客（Tourist）として思われたくないという側面
- 観光客があまり行かない場所、ローカルの人と一緒に、ローカルの場所で食事、イベントに参加したい
- 予定がぎっしりと詰まった観光はあまり好まない
- 思ってもみなかった出会いを楽しむ傾向
- 地元の人との交流を大変好む
- その土地に実際に訪れないとできない経験が好まれる
- 「体験」がキーワードとなっている
- 宿泊よりもアクティビティにお金を使いたいと感じている

アジア圏からの観光客が短期間の旅程中にできるだけ多くの観光地を周遊したいというニーズがある一方で、欧米系の旅行者は自然、アクティビティを好み、自由な旅程を好む傾向。行程の中で地元住民との交流を望む声が多く、観光地化されていない場所に行きたいというニーズもある。

キーワードは、**「体験」「ローカル」「交流」**

出典：外国人観光客の中国地域内周遊に関する市場調査（平成29年3月）

令和2年度観光地域動向調査事業「平和都市を訪れる外国人観光客の消費及び滞在に関する動向調査」報告書

03 訪日外国人観光客の興味・関心項目

顕在的なニーズとしては、「文化・歴史」「自然」「食」といったキーワードを元に、外国人観光客全般からすでに高い人気があるコンテンツのほか、新しいコンテンツの情報発信や受け入れ態勢を整え、多様なニーズに対応することが重要。潜在的なニーズとしては、観光地化されているスポット以外に訪れたい、現地ならではの体験をしたいという需要が見えてきた。また、ローカルな体験を通じて地元の住民と交流したいというニーズも非常に高い。地元の人と交流できたという思い出は強く印象に残り、再訪意向の向上にも繋がる。

顕在的ニーズのキーワード

文化・歴史

原爆関連のピースツーリズムや宮島は有名だが、神楽や寺社仏閣といった、それ以外のコンテンツに対する情報発信が重要。ローカルなアートやスピリチュアルに関するスポットも人気が高い。

自然

瀬戸内海や中国地域独自の自然の景観の魅力のほか、ウォーキング、植物観察・森林浴、ハイキング、登山・トレッキング・トレイルランなど自然の中でのアクティビティに関するニーズも高い。

食

地元食材を使った郷土料理といった、その土地ならではの食事を楽しむというニーズがあると同時に、飲食店の多言語メニュー表記や、ベジタリアンなどフードダイバーシティへの対応といった受け入れ態勢の整備も重要。

潜在的ニーズのキーワード

体験

お寺での写経体験といった文化的体験や、日本酒蔵めぐりなどの飲食体験、お祭りなど地元イベントへの参加など現地に行かなければ体験できない「コト消費」へのニーズが高い。

ローカル

観光客があまり行かない場所、地元の人と一緒に、ローカルの場所での食事やイベントに参加したいと感じている。観光客（Tourist）とは思われたくなく、現地の人と同じように街を楽しみたいというニーズがある。

交流

地元で暮らしている人たちとのリアルな触れ合い体験などを通じて地元住民と交流したいというニーズは、特に欧米系の旅行者で非常に高い。地元の人と交流できたという経験から「また訪れたい」という再訪意向も高まる。

04 広島（中国エリア）周遊観光における課題

広島（中国エリア）における外国人観光客のヒアリング調査から、「二次交通（周遊交通）の問題」「広島県内の宿泊客が少ない」「観光地の知名度の低さ」「言語・飲食店対応」といった課題が浮かび上がってくる。言語・飲食店対応といったインフラを整え、旅行の計画段階における積極的な情報発信で観光地の魅力を伝え、訪問候補地を追加してもらうことで滞在期間を延ばしていくことが必要と考えられる。

広島（中国エリア）観光における課題（ヒアリング調査を元に作成）

二次交通（周遊交通）の問題

- ・ 地方観光地における公共交通のアクセスが悪い
- ・ JRの本数が少なく、行きたい時間に電車が来るかわからない
- ・ 乗換や乗り継ぎに不安がある、有名な観光地まで直接行ける方法が望ましい
- ・ JRやバス、路面電車を自由に乘れる周遊バスが必要

⇒ 交通問題のハードルを越え、「そこまで行きたい」と思わせる理由や魅力の発信が必要

広島県内の宿泊客が少ない

- ・ 日帰りでも巡れる
- ・ JRパスの利便性が良すぎるため、近隣の関西や福岡から日帰り圏内
- ・ 夜のエンターテインメントが少ない

⇒ 平和記念資料館・宮島以外のスポットや、夜でも楽しめるコンテンツ（夜神楽、飲食店等）の情報発信をすることで、滞在期間を延ばし、宿泊客確保に繋げる

観光地の知名度の低さ

- ・ 広島という地名を知っている人は多いが、広島に何があるかは意外と知られていない
- ・ 滞在日程が限られているため、知名度のない所へは行かない
- ・ 動画や写真など観光客を引き付けるインパクトが必要

⇒ 1～2日で十分に巡れるという予定を組まれないよう、旅行の計画段階で積極的な情報発信が必要

言語・飲食店対応

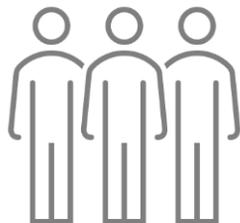
- ・ 言語に不安がある
- ・ 市街地における案内板がない
- ・ 現地での手続きや多言語対応があるのかわからない
- ・ ベジタリアン、アレルギー対応の面からもメニューや材料の英語表記、写真の掲載が必要
- ・ ハラルメニューなど多様な宗教・信条に対応

⇒ トラベルコーディネーター（ガイド）の存在が有効

05 広島（中国エリア）周遊観光のターゲットペルソナ

広島・中国地域周遊観光ツアー造成にあたり、対象地域は日本旅行日数が比較的長い「欧米豪」からの旅行者で、自由な旅程を組みやすい「個人旅行（FIT）」を主要ターゲットとする。主要ターゲットのうち、年代やグループ構成、訪日回数、興味・関心項目から「新たな魅力発見型」「自然・アクティビティ体験型」「魅力の深堀型」の3つのタイプを設定し、それぞれに適したツアーを提案する。

周遊ツアーターゲットのペルソナ



◎対象地域：**欧米豪**

◎旅行形態：**個人旅行（FIT）**

- ✓ 自由な旅程を好む
- ✓ 自然や体験、アクティビティを好む
- ✓ 観光地化されていない場所にも行きたい
- ✓ 世界中の歴史・文化・自然に関心が高い
- ✓ 遠い日本まで来るので旅行日数は長い
- ✓ 素晴らしい経験にはお金を惜しまない
- ✓ その土地に行かなければできない経験
- ✓ 地元の人との交流を望む
- ✓ 思いがけない出会いを楽しみたい

想定される周遊ツアー



新たな魅力発見型

定番スポットから脱却し、観光地化されていない場所も含め、広島・中国地域の新たな魅力を発見する



自然・アクティビティ体験型

アクティビティを通じて瀬戸内海や中国地域の豊富な自然を体感し、アクティブに楽しむ



魅力深堀型

訪日リピーターで日本の歴史や文化、自然への知的好奇心が高く、素晴らしい経験にはお金を惜しまない

05 広島（中国エリア）周遊観光のターゲットペルソナ

それぞれのペルソナに合わせたツアーコンテンツとして、**新たな魅力発見型**は、「観光地化されていない場所」や「地元の人との交流」を目的とし、定番観光スポットから脱却した新しい魅力を発信する。**自然・アクティビティ体験型**は主に20～30代を対象とし、瀬戸内海や中国地域の自然の中でアクティビティを楽しみながら地元の人との交流を図る。**魅力深堀型**は、訪日リピーターで歴史や文化に対する知的な好奇心が高い層を対象に、より深い魅力を知っていただけるようなコンテンツを提案する。

新たな魅力発見型

- ✓ 旅行人数：1～複数人
- ✓ 年代：全年代
- ✓ グループ構成：友人/家族と
- ✓ 訪日回数：初回/2回目以上
- ✓ 観光地化されていない場所に行きたい
- ✓ 地元の人と同じように街を楽しみ交流したい

◎キーワード

文化
歴史

食

体験

ローカル

交流

◎ツアーコンテンツ候補



西条の酒蔵ガイドツアー



鞆の浦



里山地域の生活体験



三次もののけミュージアム

自然・アクティビティ体験型

- ✓ 旅行人数：1～複数人
- ✓ 年代：20～30代
- ✓ グループ構成：友人/家族と
- ✓ 訪日回数：初回/2回目以上
- ✓ 瀬戸内海や中国地域の自然を満喫する
- ✓ アクティビティや体験を楽しむ

◎キーワード

自然

体験

ローカル

交流

◎ツアーコンテンツ候補



とびしま海道サイクリング



常清滝



江田島シーカヤック



三段峡

魅力深堀型

- ✓ 旅行人数：1～複数人
- ✓ 年代：全年代
- ✓ グループ構成：友人/家族と
- ✓ 訪日回数：2回目以上
- ✓ 知的な好奇心が高い
- ✓ 素晴らしい経験にはお金を惜しまない

◎キーワード

文化
歴史

体験

ローカル

◎ツアーコンテンツ候補



神勝寺



尾道



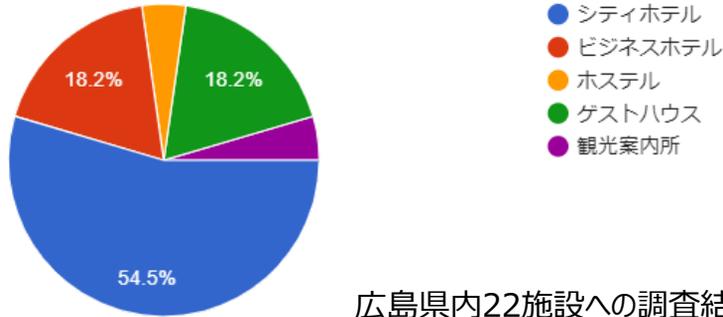
石見銀山



国宝瑠璃光寺五重塔

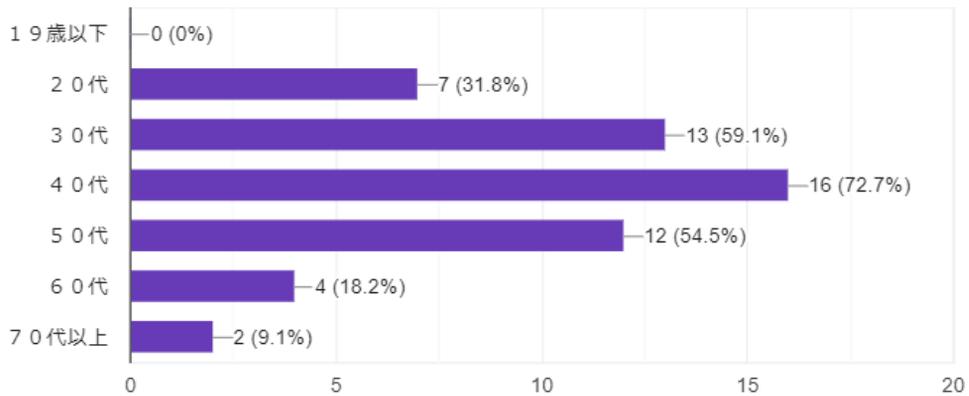
②訪日外国人観光客に関する宿泊施設等ヒアリング調査

施設カテゴリ

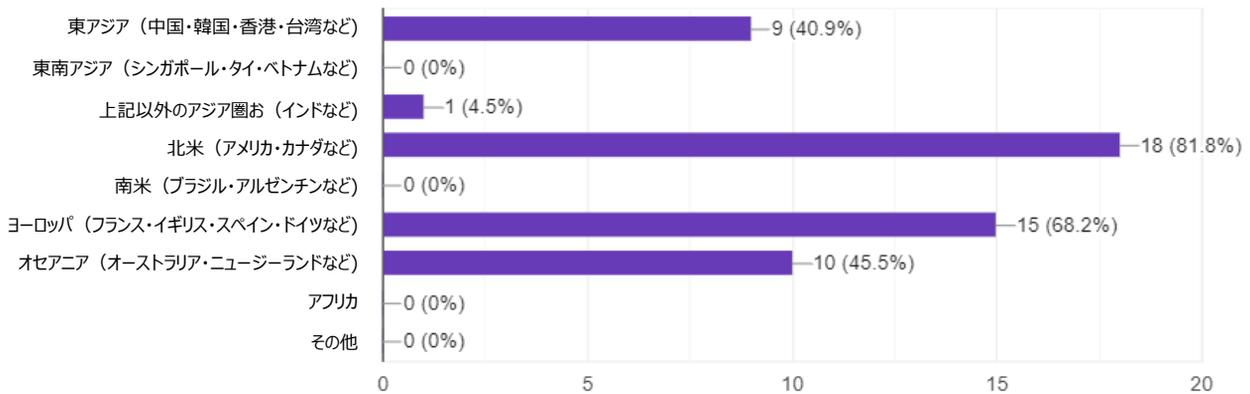


広島県内22施設への調査結果

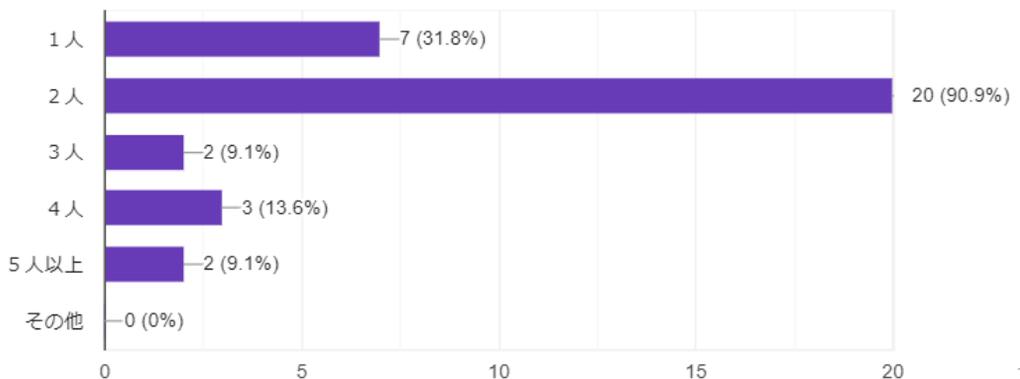
Q1. 特に多い年代をお選びください（複数回答）



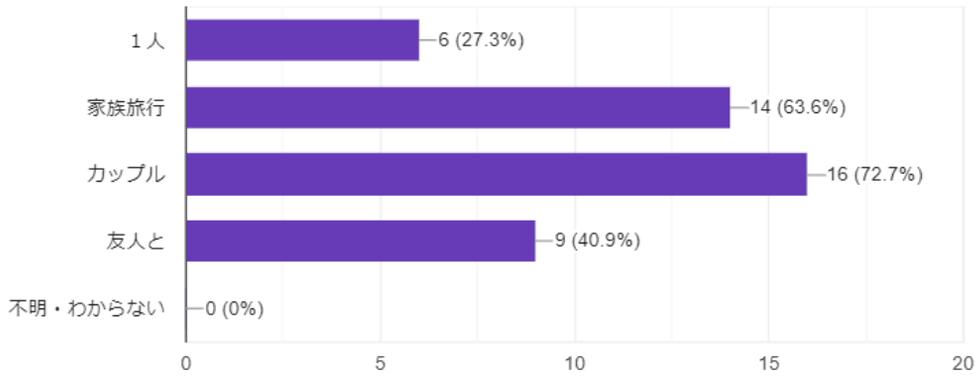
Q2. 特に多い国籍・地域をお選びください（複数回答）



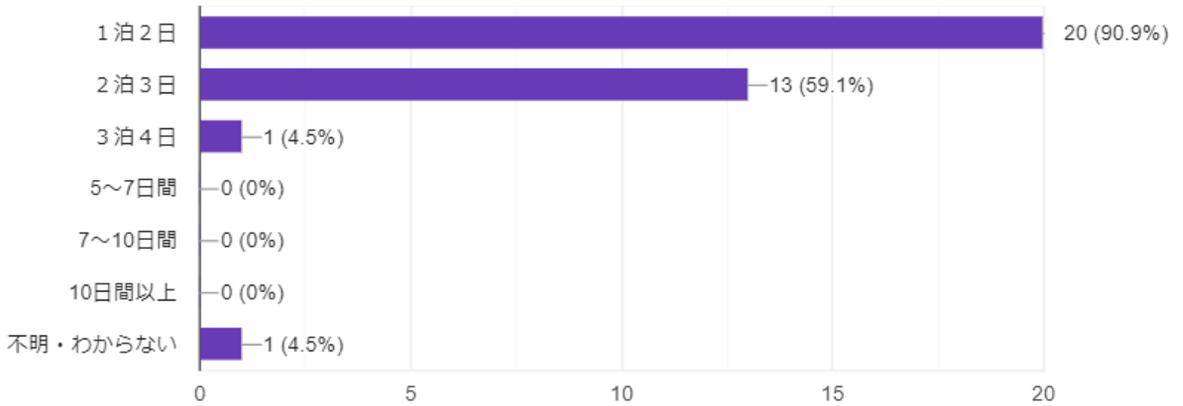
Q3. 特に多い旅行人数をお選びください ※ツアー等団体旅行を除く（複数回答）



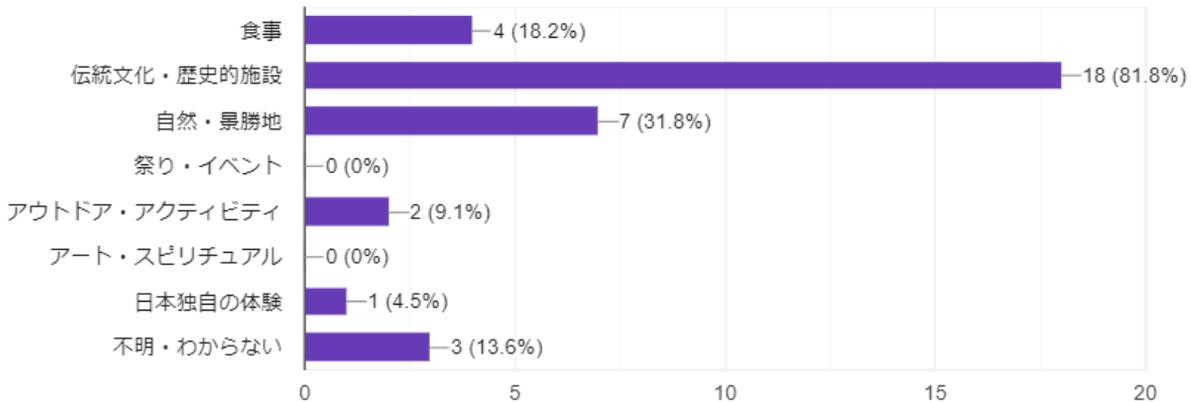
Q4. 特に多い属性をお選びください ※見た目や雰囲気判断していただいて構いません（複数回答）



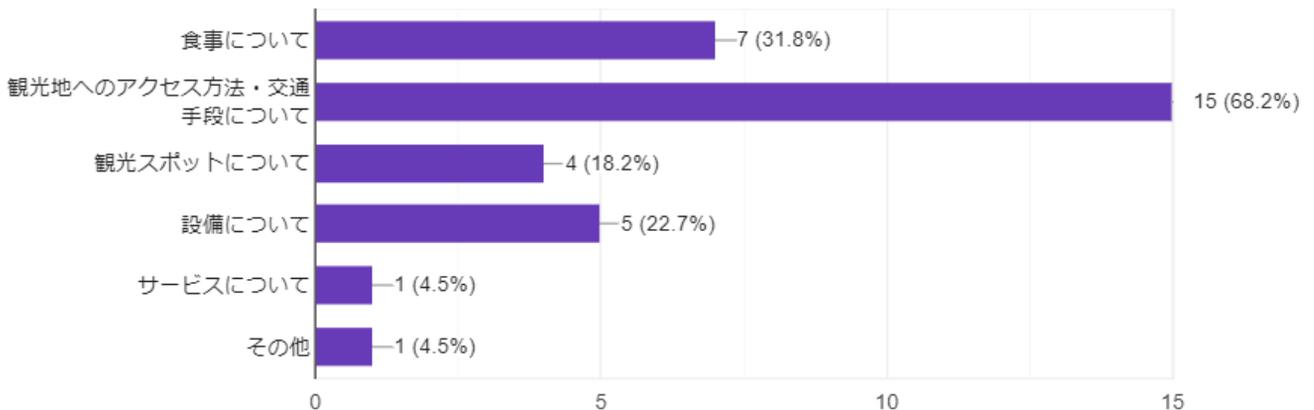
Q5. 特に多い滞在期間をお選びください（複数回答）



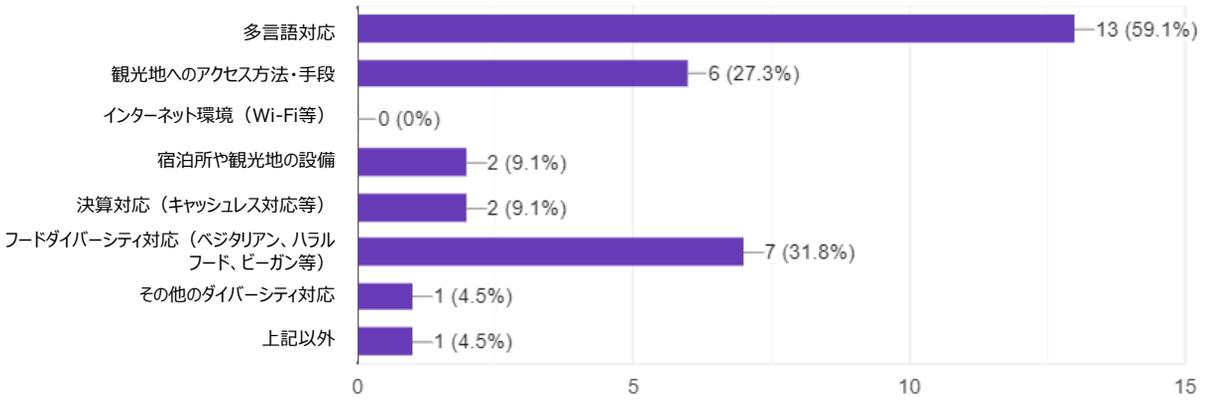
Q6. 外国人観光客の旅行目的として、どのような目的が多いと思いますか？（複数回答）



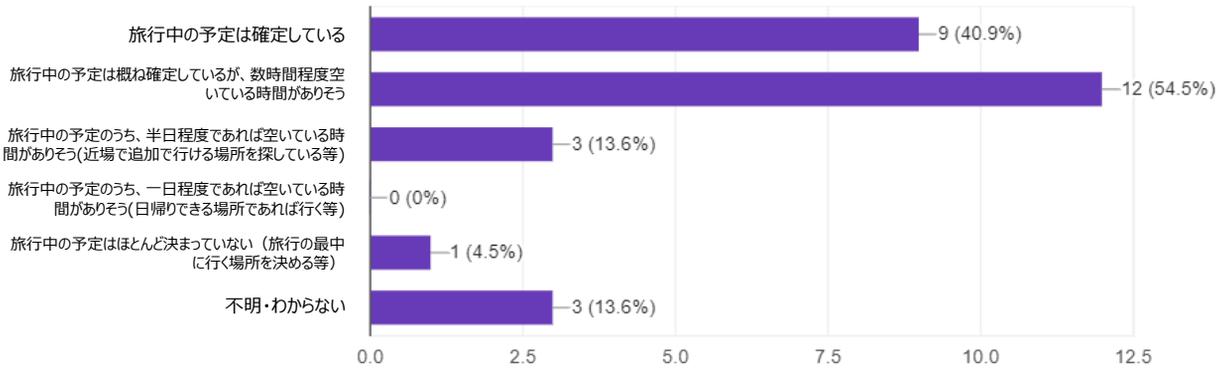
Q7. 外国人観光客からの問い合わせとして多いのはどのような内容ですか？（複数回答）



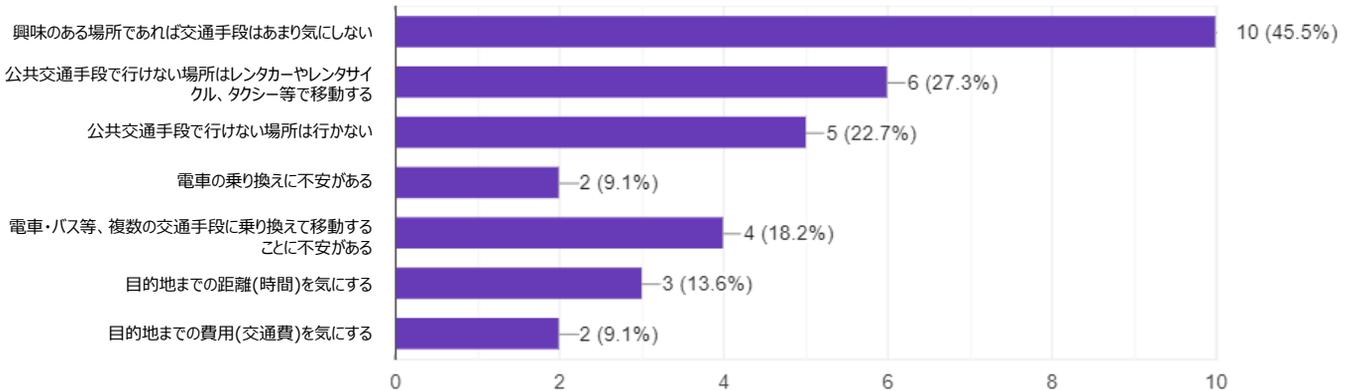
Q8. 外国人観光客の観光においてハードルとなっているのはどのようなことだと思いますか？（複数回答）



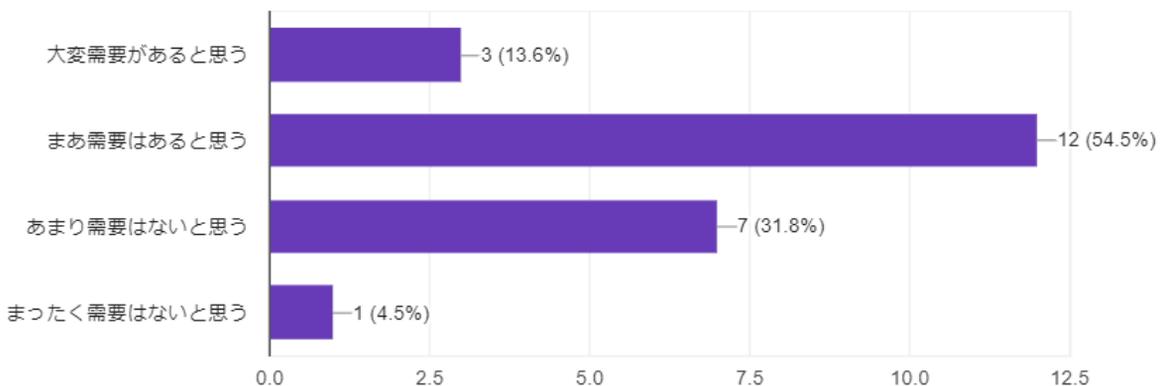
Q9. 外国人観光客は滞在中にどのように過ごされていますか？（複数回答）



Q10. 外国人観光客は滞在中の移動はどのようにされている方が多いですか？（複数回答）



Q11. 広島中心エリア以外で、中国地域の地方を周遊するツアーがあれば需要があると思いますか？



Q12. 広島中心エリア以外の中国地域の地方を周遊するツアーとして、どのようなものであれば人気が出ると思いますか？

歴史的なもの・岩国（錦帯橋）・西条酒蔵

サイクリングツアー → 交通機関へのバイク持込の緩和

2次交通の解消・行きにくい場所へのサポートが必要

↳ 三段峡（年間を通じて）・世羅花めぐり・井仁の棚田・帝釈峡・萩・元乃隅稻成神社など、呉や江田島でも外国人には行きにくい

アートツアー

スキーバスツアー

クルーズ半日（瀬戸内をめぐる旅）

大久野島・山賊

フリートーク

【ホテル】

- 日本人宿泊者より訪日外国人の方が、ある程度自分たちでプランを持って来日（来広）している。
- ホテル側でも宿泊客へのコンテンツ販売等は取り組みたいが、現在の人出不足では予約代行・管理までの把握は難しい
- 宅配便・荷物移動の問い合わせが多い。荷物のサポートで周遊への一定の効果があるのでは。
- 食を理由に広島へ訪問するイメージは無いが、ベジタリアン・ビーガン等専門の飲食店が少ない。
- インフォメーションで紙媒体の情報は、ほとんど手に取らない。ネットでの事前周知が必要と共に、チラシ等の紙媒体の案内は手渡しする等の事業者のサポートが必要。
- 例えばパリ旅行に行くとして、パリを差し置いて6時間もかけて地方を回ろうとは思わないですし、可能な限り移動だけの時間を減らし、パリ市中で楽しめることを探したくなるものだと思います。そういった視点で考えると、広島自体が大阪拠点の旅行者にとってはすでに地方観光をしているつもりである可能性が高いので、さらにその周辺の地方に足を延ばす事を目指すのは受け入れ側の準備も大変かつ旅行者にとっても大変なことで想像します。趣旨とは反してしましますが、まずは盛り上げきれているとはいえない広島市近辺の観光資源である宮島・岩国をつなげたベーシックな周遊の促進からではないかと感じます。それが盛り上げられて初めてその先に地方へ出られるような気がしました。まずは原爆関連を中心に集客している広島県に、観光の厚みをつくれると魅力的な旅行先となるかと考えます。以上、関係者様御一同ご承知のことだろうと思いましたが、改めて考えた時に、まずは基本に戻ることが大事かと再認識しましたため、このように回答させていただきました。

【ゲストハウス・ホステル】

- 滞在は1泊～2泊が中心 他2週間～1ヶ月もあり
- 山陰・四国へは周遊していない様子（JRバスが利用できない為）
- 広島へ来る方は真面目な方が多い。（歴史に関心・興味あり）
- 自然系・ハイキング・湖畔（釣り）等のアクティブが多い。特にヨーロッパ系に人気（広島市のような120万都市＋自然が隣接している都市は少ない。）
- カード決済の施設が少ない。
- 自転車の利用（レンタル：広島市シェアサイクル・ぴーすくる）は人気が無い。（アプリ、会員登録など訪日外国人の手続きはハードルが高い。）その為、移動は徒歩中心。4～5Kmでも徒歩を苦にしない。
- ゲストハウスに宿泊客層には金額面を重視したプランが効果的。
- 食へのインフォメーション 例）ビーガン提供レストランのリスト化（自治体による統一性があるとベスト）

【観光案内所】

- 自然系・キャンプ等のアクティブな体験の問合せは多い。
人気の方面：三段峡（年間通して）・大久野島・岩国・呉・竹原
- 大阪への移動時間（帰路フライト前）までの余暇の過ごし方の相談が多い。半日強のプランが効果的。
↳ Q9の回答にも表れている。
- 温泉地の情報依頼も多い
- 貸切バスツアーは訪日外国人にハードルが高い（申込×切出発3～5日前などの制限）
- ワンコインバス：広島⇄島根県（500円）は人気があるが、訪日外国人の周知は一部にとどまっている。
- 欧米系では無いが、降雪の見学等の問合せも多い。（アジア系）
- 計画（予め来広へのプランの有無）消費金額なども両極端。目指すターゲットによる施策が必要。

③コンテンツ調査について

コンテンツ案

	日本三大酒処「西条」の 酒蔵ガイドツアー	しまなみ海道サイクリング	鞆の浦 初の海外クルーズ 船 寄港に注目
			
所在地	広島県東広島市西条本町17-1 (西条酒蔵通り観光案内所)	広島県尾道市 (尾道港レンタサイクル ターミナル)	広島県福山市鞆町鞆 (鞆の浦観光情報センター)
交通 アクセス	JR西条駅より徒歩約7分	JR尾道駅より徒歩約7分	JR福山駅よりバス約30分
概要	営業時間：10時～16時 休業日：第1・3水曜/年末年始	営業時間：7時～19時 ※12月～2月は8時～18時	営業時間：10時～17時 (鞆の浦観光情報センター)
特徴	広島県西条は兵庫県の灘、京都府の伏見とともに「日本三大銘醸地」と呼ばれる酒どころ。江戸時代に陸路の中継地として栄え、さらに酒造りに適した気候と地下水の恩恵で「酒都西条」と呼ばれる一大銘醸地となった。 西条酒蔵通りには現在でも7つの蔵元が並び、伝統の酒造りを続けている。赤煉瓦の煙突・なまこ壁・西条格子といった独特の風情を醸す街並みや、美酒鍋・酒スイーツなども楽しむことができる。	広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ「しまなみ海道」は、自然美溢れる景色が楽しめる全長約70kmのサイクリングロードで、「サイクリストの聖地」とも呼ばれ、CNNの「世界の最も素晴らしい7大サイクリングコース」の1つに選ばれた。6つの島々をつなぐ橋は、規模や形式の異なるバラエティに富んだ橋が架けられている。尾道・今治以外にも計10か所のレンタサイクル・ターミナルがあり、一部区間のサイクリングも可能。沿線には各所に博物館やお城など観光スポットも点在している。	アニメ映画「崖の上のポニョ」の舞台としても知られる瀬戸内海の景勝地「鞆の浦」。江戸時代から残る常夜燈や町家が今も大切に保存されており、伝統的な風情を残している。江戸時代初期、鞆城を築いた福島正則が、城下町整備の一環で「寺町通り」を造営。各宗派のお寺がほぼ一直線に並べられており、小さな範囲にこれだけの寺社が見られる町は珍しい。 2023年は外国客船の寄港を7回予定。
クチコミ	<ul style="list-style-type: none"> 各酒蔵では、販売の他に試飲ができる場所もあり、日本酒好きには聖地のような場所 なまこ壁の白壁、赤レンガの煙突といった感じで、歩くだけでも風情がある界隈 観光案内所が「くぐり門」と名前が付いたユニークな形の建物には入っている 観光案内所は無料で気軽に利用できる事と、お土産屋さんも兼ねているため利用価値が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 夕日は今まで見たものの中でもトップ3に入る まるで鏡の様な海に山が浮いている様な美しい姿は一見の価値あり 島に降りたら道の駅や土産売り場もあり、しまなみ海道の橋も下から大きく見えて新鮮 体力に合わせて行く島や、コースを選べる 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代に遡るような民家・商家の佇まいや、江戸時代の灯台とは想像もつかない大きな常夜灯を入れた鞆の浦の景色が素晴らしい 港町好き、歴史好き、猫好きにはお勧めのスポット 石灯笼から眺める港の光景はこれまで巡った日本のスポットの中でも5本指に入るほどお気に入り 狭い路地、古民家が続く町並み、石造りの船着き場、歩くと江戸時代にタイムスリップしたよう
受け入れ 態勢	Wi-Fi対応/洋式トイレ/キャッシュレス/クレジット決済/WEB予約 ※店舗による	多言語対応*1/Wi-Fi対応*2/ WEB予約 *1)英語版情報MAP 『Go Shimanami』 *2)尾道市Wi-Fiフリースポット えひめFree Wi-Fi	多言語対応/Wi-Fi対応/洋式トイレ キャッシュレス/クレジット対応

コンテンツ案

歴史的魅力に溢れた 文化財群 尾道

もののけの住む三次・E-BIKEツアー

			
所在地	広島県尾道市 (尾道駅観光案内所)	広島県三次市三次町1691番地4 (三次もののけミュージアム)	広島県三次市三若町2396 (川西郷の駅)
交通 アクセス	JR尾道駅	JR三次駅より路線バス約10分	JR三次駅より路線バス約30分
概要	営業時間：9時～18時 (尾道駅観光案内所)	営業時間：9時30分～17時 休業日：毎週水曜、年末年始	営業時間：5時30分～25時 (川西郷の駅)
特徴	尾道は中世の開港以来、瀬戸内随一の良港として繁栄。尾道三山と尾道水道の間の狭小な空間に多くの寺社や庭園、住宅が造られ、入り組んだ路地・坂道とともに中世から近代の趣を今に残す箱庭的都市が生み出された。 今年の8月にも新たに3つの建築物が国の登録有形文化財に登録され、全295件となった。	三次市三次町は、江戸時代以降、現代にいたるまで、絵本や絵巻、漫画の題材にもなり、全国の広い範囲にわたって伝承している妖怪物語「稲生物怪録」の舞台となった地。 もののけミュージアムには、妖怪研究家の湯本豪一氏が蒐集したコレクションを中心に妖怪資料が展示されている。	三次市川西地区は、どこか懐かしくも美しい田園風景が残るエリア。石積みの田園風景、オオサンショウウオも棲む豊かな川、そして少し足を伸ばせば牧場やみよし風土記の丘（古墳群）なども点在するサイクリングコース
クチコミ	・尾道水道の眺めは、造船所・行き交う船・穏やかな海で時間が止まったようで、とても落ち着く ・千光寺の展望台から尾道水道としまなみ海道が一望でき気持ちいい。 また、信仰の対象であった「鏡岩」や伝説が残る「玉の岩」も魅力的 ・古い建物を活用したり、おしゃれな店があったり。一休みしながらぶらついて、土産やグルメも楽しめた	・妖怪の資料や模型がたくさん展示されていて、妖怪好きは大満足 ・チームラボが関わっているので、入り口からデジタルな世界が広がっている ・チームラボの妖怪遊園地では、妖怪の塗り絵が部屋の壁面に映し出され、子供達に大人気	・道中は車に乗っていてもわからない春の柔らかな風やにおい、鳥のさえずりに耳を傾けながら自然を満喫
受け入れ 態勢	多言語対応／Wi-Fi対応／ キャッシュレス対応※店舗による	多言語対応*1／洋式トイレ／ WEB予約 *1)ミュージアム展示ガイドアプリ 3か国語（英・中・韓）対応	—

コンテンツ案

	COOL JAPAN AWARD2019 神勝寺	西日本有数の名勝 三段峡	地域の生活体験 安芸太田町
			
所在地	広島県福山市沼隈町大字上山南91	広島県山県郡安芸太田町柴木	広島県山県郡安芸太田町
交通 アクセス	JR福山駅よりバス約30分 下車後、徒歩15分（送迎有）	広島バスセンター（市内）より 高速バス約75分	広島バスセンター（市内）より 高速バス約70分
概要	営業時間：9時～17時 休業日：不定休	●黒淵渡舟：平日10時～16時30分 土日祝9時～16時 ●猿飛渡舟：10時～15時	—
特徴	境内には、滋賀県から移築した17世紀の堂宇や、アートパビリオン「洗庭」、臨済宗中興の祖と言われる白隠禅師の禅画墨蹟の常設展示館「莊厳堂」、天明の大火以前の表千家のお茶室を再現した「秀路軒」など、約7万坪の境内に様々な伽藍が点在する。 お庭の散策、お茶室での一服、建築や美術の鑑賞、坐禅、写経など、ここでの様々な体験すべてを通じて、禅とはなにかを感じるための場。 307件もの応募のなかから「COOL JAPAN AWARD 2019」に選ばれた。	西日本有数の「峡谷凝縮美」が楽しめる全長約16kmにも及ぶ大峡谷。遊歩道や切り立つ岩の間を人力の船で渡る渡し船もあり、様々な景観を楽しむことができる。フランスの旅行専門誌「ブルーガイド」では、世界遺産の宮島や原爆ドームに続き、『三ツ星』を獲得し、国の特別名勝にも指定されている。	広島県の北西部に位置する、安芸太田町。 昔からもの作りが盛んに行われてきた太田町では工芸品をつくる手仕事の音が聞こえ、斜面に切り出された棚田での米作りは日本の「懐かしい風景」を見ることができる。 安芸太田町の農泊は、一緒に郷土料理を作ったり、江戸時代から続く工房で日用品づくりの体験をするなど、安芸太田町の「ふつうの毎日」を見て触れて体験できる、贅沢な田舎体験。
クチコミ	・景色がどこを切り取っても美しい中で、気軽に写経や、座禅、瞑想、散策が楽しめる ・わびさびの雰囲気があり、ほっと一息つけるような落ち着きが感じられる場所 ・表千家のお茶室で楽しむお抹茶や雲水が食べる本格的なうどんが人気 ・夕方以降は庭園がライトアップされて幻想的	・名前にふさわしいような壮大な風景だった ・正面口から黒淵までの片道50分ほどのルートは、遊歩道がきれいに整備されており、多少のアップダウンはあるものの、歩きやすい場所です。 ・夏でも緑豊かで涼しく、平坦な道が多く歩きやすいため、真夏のトレッキングにもいいところ ・船頭さんの説明を聞きつつ、川を渡るの秘境感もあってワクワクする	—
受け入れ 態勢	多言語対応*1/キャッシュレス/ クレジット決済/WEB予約 *1)オーディオガイド2か国語 (英・中) 英語対応スタッフ常駐	WEB予約 *ガイドツアー	—

コンテンツ案

	西洋文化と美観地区 倉敷	日本遺産吉備路 サイクリングを巡る	津和野百景巡る サイクリングツアー
			
所在地	岡山県倉敷市中央1-4-8 (倉敷館観光案内所)	荒木レンタサイクル (岡山県総社市駅前2丁目1-5)	釜井商店 (島根県鹿足郡津和野町 後田イ49-6)
交通 アクセス	JR倉敷駅より徒歩15分	JR総社駅前	JR津和野駅前
概要	営業時間：9時～18時 (倉敷館観光案内所)	営業時間：9時～18時 ※11～2月は17時まで	営業時間：8時～18時
特徴	白壁の蔵屋敷、なまこ壁、柳並木など、趣ある景観が楽しめる「倉敷美観地区」。「倉敷帆布」「倉敷デニム」といった倉敷ブランドのお店や「大原美術館」「アイピースクエア」などの文化施設も集まる。また、世界的生命デザイナー・石井幹子氏プロデュースの「倉敷美観地区夜間景観照明」も日中とは異なる景色が楽しめる。観光案内所も、1917年に役場として建てられた洋風木造建築（倉敷市指定重要文化財）。	「吉備路」は、岡山市北西部から総社市にかけての一带の総称で、ロマン溢れる史跡群とともに美しい田園風景が望める地域。21kmにもおよぶ吉備路自転車道が整備されており、総社駅を出発し、造山古墳や作山古墳をはじめ、備中国分寺五重塔・吉備津彦神社など、かつて古代吉備国の中心地であったと伝わる地域を、里山の風景を楽しみながらサイクリングで巡ることができる。	日本遺産にも登録されている「津和野百景図」。約160年前に描かれた、幕末の津和野の100の情景（日常の営み・行事やお祭り・四季の風物詩）が、現代にも残されている。美しい城下町と、里山の自然も愉しめるサイクリングツアー。
クチコミ	<ul style="list-style-type: none"> 水路沿いや周辺に素敵な建物が多数残っていて散策するのがとても楽しい 景色もよく、映える写真も沢山撮れる 街歩きしているだけで楽しい 美味しいものを食べ歩きしたり、古き良き雰囲気のある空間を思う存分楽しめる 渡し船は語り部の船頭さんが、川を漕いで案内してくれて、もったいないくらい良い経験 	<ul style="list-style-type: none"> 田園風景が続くのどかな景色を楽しみながらのサイクリングが気持ちいい 高低差がなく車も走っていないので走りやすい 路面もよく手入れされている 看板、道路に描かれた案内など、ルートがわかりやすく、道もほとんど平坦なので、サイクリング慣れしていない人でも安心 田園に囲まれているので、季節によって楽しめる植物が変わる。紅葉の季節は最高 	<ul style="list-style-type: none"> ※太鼓谷稲成神社 ・社殿も大きく、境内から津和野のまちが一望 ・京都の伏見稲荷のような、たくさん赤い鳥居が綺麗 ※殿町通り ・武家屋敷が立ち並ぶ石畳の通りは津和野を象徴する景観で、掘割水路で優雅に泳ぐ色鮮やかな鯉が印象的 ・タイムスリップしたような気分になる
受け入れ 態勢	多言語対応*1/Wi-Fi対応/ 洋式トイレ キャッシュレス/クレジット決済 *1)観光案内マップ4か国語 (英・仏・中・韓) 対応	多言語対応*1 *1)サイクリングマップ3か国語 (英・中・韓) 対応	Wi-Fi対応*1 *1) Tsuwano Free Wi-Fi /町内8スポット

コンテンツ案

	石見銀山から読み解く 世界史	国宝瑠璃光寺五重塔 (70年振りの葺き替え)	雪舟コレクション 山口県立美術館
			
所在地	島根県大田市大森町イ1597-3 (石見銀山世界遺産センター)	山口県山口市香山町7-1	山口県山口市亀山町3-1
交通 アクセス	大田市駅よりバス約30分	JR山口駅よりコミュニティバス 約15分	JR山口駅より徒歩約15分
概要	営業時間：8時30分～17時30分 休業日：毎週火曜、年末年始	営業時間：観光案内所 9時～18時 ※ライトアップ：日没後～22時	営業時間：9時～17時 休業日：毎週月曜、年末年始
特徴	石見銀山は、2007年に世界遺産に登録されたアジアで初めての鉱山遺跡。最盛期には世界の産銀量の約3分の1を占めた日本銀のかんりの部分が石見銀山で産出されたものと考えられている。「灰吹き法」という製錬技術により、良質な銀を大量に生産することができた。現在でも、坑道跡(=間歩)の他、製錬工房跡や住居跡などが多数残っている。 石見銀山世界遺産センターでは、16世紀の東西交易における石見銀山の役割や歴史を学べる資料のほかVRで非公開エリアの視聴コーナーもある。また、丁銀キーホルダーなどの体験も可能(毎週水・木曜)。	山口を拠点にかつて西国一の力を持った守護大名・大内義弘公を吊うために、弟・大内盛見が計画し、1442年に建立。現存する五重塔のうちで10番目に古く、奈良の法隆寺五重塔、京都の醍醐寺五重塔とともに「日本三名塔」に数えられる山口市唯一の国宝。 2023年春より約70年ぶりの檜皮葺屋根の全面葺き替え工事が行われている(～2026年3月予定)。園内には他にも、幕末に薩長の藩士らが密談を重ねた「枕流亭」や美しい茶室「露山堂」などの維新ゆかりの地や、長州藩13代藩主・毛利敬親が山口に居城を移して以降の毛利家墓所など史跡が点在する。	1979年(昭和54年)に開館。雪舟と雲谷派や、山口県にゆかりのある作家の作品を主に常設展示するほか、特別展も開催。水墨画作品の最高峰ともいわれる「山水図巻(1486年,雪舟作)」も収蔵されている。 ※雪舟…室町時代に活躍した画家・禅僧。30代で山口に移り有力守護大名である大内氏のもとで活動。遣明船の一員として明に渡った際、本場の水墨画にふれ、帰国後に独自の画風を追求した。晩年は山口を拠点に活動し、国宝指定の6点はいずれも晩年の作品。
クチコミ	<ul style="list-style-type: none"> ・どの展示もわかりやすく説明されているが、第一展示室「世界史に刻まれた石見銀山」が印象深かった ・最初に世界遺産センターに行き、全体を理解した上で大森の町並みや間歩に行ったほうが良い。思っていたより広い範囲に見どころが点在している ・世界遺産センターと大森地区の移動はバスも可能だが、レンタサイクルがおすすめ。世界遺産センター・大森地区・坑道・製錬所跡・旧川島家武家屋敷なども散策できる。とにかく内容が濃く、じっくり回るなら1日かかる。 ・ガイド同伴でなければいけない坑道のツアーがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・池と庭園と、背後の山ともあいまった美しさは、本当に素晴らしいとしか言いようがない ・新緑の時も、紅葉の時も、近くから見ても、遠くから見ても、まわりの季節の木々に映える五重塔は重厚で心落ち着く景色 ・境内には、五重塔だけでなく沈流亭や露山堂といった日本の歴史にかかわった建物があったり、うぐいす張りの石置など、見どころも多い ・京都ほどの紅葉は見られないが、その分混雑しすぎておらず快適 ・無料駐車場と24時間見学可 	<ul style="list-style-type: none"> ・町の中心部でありながら、緑あふれる落ち着いた閑静な雰囲気 ・上質な作品をゆったり鑑賞できる施設 ・グッズ販売コーナーは個性的なアイテムがあり面白い ・展示作品が多く、カフェもあり静かで落ち着ける場所 ・美術館の庭に彫刻作品や大きなボトルなど様々なアートがあって見て楽しめる
受け入れ 態勢	多言語対応*1/Wi-Fi対応/ キャッシュ レス/クレジット決済/WEB予約 *1)リーフレット4か国語 (英・中・韓・台)対応	—	Wi-Fi対応

2. 業務内容

(2) 実証ツアーの造成

①実証ツアーの造成

01 ツアー企画開発視点

前述の調査・分析結果から得られたペルソナとツアー傾向（再掲）

周遊ツアーターゲットのペルソナ

想定される周遊ツアー



◎対象地域：**欧米豪**

◎旅行形態：**個人旅行（FIT）**

- ✓ 自由な旅程を好む
- ✓ 自然や体験、アクティビティを好む
- ✓ 観光地化されていない場所にも行きたい
- ✓ 世界中の歴史・文化・自然に関心が高い
- ✓ 遠い日本まで来るので旅行日数は長い
- ✓ 素晴らしい経験にはお金を惜しまない
- ✓ その土地に行かなければできない経験
- ✓ 地元の人との交流を望む
- ✓ 思いがけない出会いを楽しみたい

新たな魅力発見型

定番スポットから脱却し、観光地化されていない場所も含め、広島・中国地域の新たな魅力を発見する

自然・アクティビティ体験型

アクティビティを通じて瀬戸内海や中国地域の豊富な自然を体感し、アクティブを楽しむ

魅力深堀型

訪日リピーターで日本の歴史や文化、自然への知的好奇心が高く、素晴らしい経験にはお金を惜しまない

欧米豪専門家 NKB森田氏の視点

INTERACTIVE COMMUNICATION
NKB INC.



現 株式会社NKB 米豪豪エキスパート
元 日本ミシュランタイヤ株式会社 社長室長・ガイド事業部担当
森田 哲史氏

観光庁「広域周遊観光促進のための専門家派遣事業」の専門家として選定

日本最大級のインバウンドサイト「LIVEJAPAN」のノウハウに加え、森田氏のミシュランガイド責任者の経歴をふまえたインバウンド旅行のエキスパートとしての知見を提供。北海道道南・道東エリアにおいてもアドベンチャーツーリズムの観光ルート開発の実績あり。

欧米豪FITが日帰りツアーに求める4要素

その土地の自然に浸る

その土地の歴史・文化
を味わう

ゆったりした
スケジュール

土地の人との触れあい

前述した調査・分析結果から導き出した“ペルソナ”に、
欧米豪専門家であるNKB森田氏（元ミシュラン）の
ロジック・経験を組み合わせたツアー企画を造成。

①実証ツアーの造成

02 ツアー企画

広島からの日帰りコース案 06 広島駅⇔天の岩座(あまのいわくら)神宮⇔大土山 テーマ:古代日本の聖地を歩いてみるコース (石器時代から人々が聖地として崇めていた山を歩く)

ストーリーテリング

□ 山岳信仰

- ✓ 日本列島にいた人々は、石器時代から大きな岩の上が神が降り立つところ(神の依代)と信じてきた。
- ✓ 数多くの石器時代・縄文時代の遺跡が発見されている。
- ✓ 山岳信仰は修験道に繋がり、6世紀に入って来た仏教と融合し、神仏習合になっていった。
- ✓ 全国に24社しかない神宮の社号を持つ神社がこんな山の中にひっそりと祀られている。



広島からの日帰りコース案 02

広島駅⇔山口⇔湯田温泉

テーマ: 山口市内散策と水墨画と温泉に浸るコース
(瑠璃光寺と山口県立美術館、イエズス会ザビエルが布教した町を訪ねる)

ストーリーテリング

□ 瑠璃光寺

- ✓ 五重塔は15世紀半ばに完成(1442年)・大内氏が(周防国)領主だった時代
- ✓ 大内氏が納めていた時代(15~16世紀)は、朝鮮との交易もあって山口はとても栄えていた。
- ✓ 大内氏の先祖を辿れば百済の王朝(朝鮮半島の一国)だった。

□ 山口県立美術館

- ✓ 15世紀に栄えていた山口に雪舟(1420-1506)がやって来た。
- ✓ 雪舟は備中国(岡山県)出身の僧侶で水墨画家。京都を経て周防山口に大内氏の招きでやって来る。大内氏(大内政弘)の援助で明(中国)に渡り水墨画を極める。
- ✓ 雪舟のコレクションで有名な山口県立美術館には、畳の上から水墨画を鑑賞できる展示室がある。

□ 山口カトリック教会ザビエル記念聖堂

- ✓ イエズス会フランシスコ・ザビエル(1506-1552)が16世紀半ば頃山口にやって来た。
- ✓ イエズス会は山口で布教活動を始め、日本で初めての教会を建てた。

広島からの日帰りコース案 08

広島⇔西条・呉

テーマ: 日本酒を通じて、広島の気候と多様な食文化を感じる
酒ツーリズム「西条・呉」蔵見学コース

ストーリーテリング

- 西条: 日本三大酒どころで知られる西条の蔵見学ツアー。
- 呉: 千福三宅本店や、音戸の榎酒造など寒冷地と違った酒造りを行ってきた呉の酒蔵ツアー。
- 両市の代表的な酒蔵に協力していただき、1日で、同じ広島県内の気候の違う酒蔵を見学し、日本酒という古くから醸造方法が確立している飲み物を通じて、日本における酒の文化、広島県内の気候の違いによる食文化の多様な魅力に触れていただく。

②実証ツアー周知の提案および実施

オフラインでの周知場所について

チラシ設置のお願い・周知のお願い先

カテゴリー	施設名・運輸機関名
ビジネスH	ホテル法華クラブ広島
ビジネスH	スマイルホテル広島
シティH	リーガロイヤルホテル広島
シティH	ホテルグランヴィア広島
ビジネスH	広島ワシントンホテル
ビジネスH	広島グランドインテリジェントホテル
ビジネスH	広島インテリジェントホテルアネックス
ビジネスH	ホテルマイステイズ広島平和公園前
ビジネスH	ホテル広島ガーデンパレス
ビジネスH	チサンホテル広島
ビジネスH	オリエンタルホテル広島
ビジネスH	ホテルビスタ広島
ビジネスH	広島市文化交流会館
ビジネスH	ヴィアインプライム広島新幹線口〈紅葉の湯〉
ホステル	W e B a s e 広島
ビジネスH	三井ガーデンホテル広島
ビジネスH	広島東急R E I ホテル
ビジネスH	コンフォートホテル広島大手町
ゲストハウス	ゲストハウス広島マングタック
ゲストハウス	エバーグリーンホステル
シティH	ヒルトン広島
シティH	グランドプリンスホテル広島
シティH	A N A クラウンプラザホテル広島
飲食店	お好み焼き 八誠
案内所	広島市観光案内所・広島バスセンター・総合案内所

①実証ツアーの造成

03 ツアー企画開発視点

欧米豪には、わかりやすいツアー企画のストーリーと説明がさらなる満足につながるため、ツアーにおいて、移動中のバスの中などにおいて、ツアーに関するプレゼンテーション（ツアーのテーマ、テーマの掘り下げ、ツアー関連紹介）を実施することが重要となる。

ツアー企画のポイント作成 およびプレゼンテーション実施（どちらも英語）

- 1. Yamaguchi Prefectural Art Museum
- 2. About current exhibition
- 3. Yasuo Kazuki

- 1. Sake in Kanji
- 2. Roots of Sake
- 3. What is Sake made from ?
- 4. Sake Making



Mori school collection



- Artists from the late 17th century to the end of the Edo period
- A school that specialized in animal paintings

酒 Sa Ke

シ → [Water Drop] → [Mashu] → 酒

酉 → [Mashu] → 酒

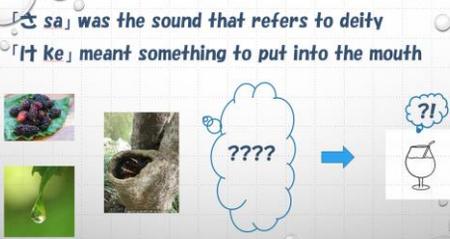


Suiboku-ga : Sumi-e

水墨画 : 墨絵



「sa」 was the sound that refers to deity
「付 Ke」 meant something to put into the mouth



and more...

2. 業務内容

(3) 実証ツアーの実施および分析

①実証ツアーの実施

01 1回目ツアー

FIT1名（国籍：アメリカ/オークランド 1名）
モニター4名（国籍：アメリカ 2名/カナダ 1名/ニュージーランド 1名）
観光関連事業者1名（当日欠席）

天の岩座神宮＋大土山トレッキングツアー

- ・石器時代からの日本の古代を感じる
- ・日本人の基層信仰：自然崇拜と先祖崇拜
- ・古代の中国地方に思いを馳せる
- ・トレッキング（身体的活動を伴う）

日程：2023年12月10日(日)

集合場所：広島駅2F JR中央口 おりづる時計前

募集人員：10名（最少催行人員：1名）

募集条件：訪日外国人旅行者の方

旅行代金：3,000円

食事条件：昼食1回

添乗員：同行



時間	行程
8:30	広島駅2階 JR中央改札口外「おりづる時計」前に集合
8:30-8:45	ツアーの説明・出発
10:00	休憩・道の駅 三矢の里あきたかた にて
11:00～14:00	トレッキング開始～お昼12:00頃（お弁当） ～トレッキング終了（3h）
15:00～15:30	天の岩座神宮
16:00	休憩・向原農村交流館やすらぎ アンケート記入
17:00	広島駅到着 解散 アンケート回収

①実証ツアーの実施

01 1回目ツアー

チラシ作成

TOBU TOP TOURS

1-Day Trek to Ama-no-Iwakura Shrine and Mt. Ozuchi

Outline of Tour

This tour features a walk and spiritual tour to the sacred mountain that has been venerated since the Stone Age.

Since prehistoric times, the people of the Japanese archipelago have believed that deities (kami) descend to Earth on the top of large rocks. (Such a place is known as a yorishiro, meaning a tangible object, such as a tree or rock, that is worshipped as a substitute for a divine spirit.)

Numerous ruins and relics from the Stone Age, and Jomon, Yayoi, and Kofun periods have been discovered in this area.

These old mountain beliefs evolved into Shinto (mountain asceticism). This religion later blended with Buddhism, which arrived in Japan in the 6th century CE, resulting in a syncretic fusion of Shintoism and Buddhism.

It is interesting to note that despite its out-of-the-way location in the mountains of Hiroshima, this site (Ama-no-Iwakura Jingu) is one of only 24 Shinto shrines in Japan to carry the name jingu.



忘れられた古代日本の聖地を歩く

聖地参詣

Spiritual Tour

広島 in Hiroshima

Sunday
December 10, 2023

meet at 8:30 a.m., depart at 8:45 a.m., return at 5:00 p.m.

The tour will not be cancelled due to rain (it will be cancelled only in the case of stormy weather).

Meeting Place

In front of "Orizuru" clock outside Central Gate on 2nd floor (2F) of JR Hiroshima Station (8:30 a.m.)

Important Information

- The tour includes a light trek so wear comfortable shoes.
- A bento box lunch will be provided.
- It will be cold, so bring warm clothing.



The Tour Guide: Tetsushi Morita

Profile

He works for Nihon Koshien, Inc. Co., Ltd. in Japan, reading the "President" a Office and Michian Guide, Daisen. He is a designated expert for the project to dispatch experts for the promotion of extensive sightseeing conducted by the Japan Tourism Agency. He conducts research on how to convey the appeal of Japanese culture and history to Westerners. To address the growing demand for adventure tourism, he works actively as a tour planner for several regions in Japan.

Entry

<https://forms.gle/vatdAUCKZVF57mnl6>



About the Tour Destination

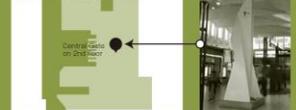
The fact that there is a prestigious jingu Shinto shrine in a location like this in Hiroshima is surprising. Shinto shrines given the name jingu generally defies a member of Japan's imperial family, but here at Ama-no-Iwakura Jingu, there are no shrine buildings. There is only an iwakura, a rock on which a deity descended to Earth (yorishiro). The name of the deity that descended here is Amaterasu Omikami, who is considered to be the ancestor of Japan's imperial family. It is probably because of this connection that the name jingu is used for this site. It is remarkable

that a very simple, primordial Japanese Shinto "shrine" in such a remote and unlikely place is so significant. There are reportedly 88,000 Shinto shrines in all of Japan, of which only 24 are designated jingu. The fact that Ama-no-Iwakura Jingu is one of these 24 indicates the remarkable importance of this place. Numerous sites with evidence of ritual activity dating back to the Stone Age have been discovered in the surrounding area, proving that this has been a sacred site since ancient times.



Time	Itinerary
8:30	Meet in front of the "Orizuru" clock outside Central Gate on the 2nd floor (2F) of JR Hiroshima Station
8:30 8:45	Explanation of tour, departure
10:00	Break at Mitsuya-no-Sato Roadside Station in Akikakata
11:00 14:00	Start hiking, lunch at about 12:00 (bento box lunch), and trekking (total 3 hours)
15:00 15:30	Ama-no-Iwakura Shrine
16:00	Break at Mukaihara Rural Exchange Center, Yasuрай. Fill out questionnaire.
17:00	Return to JR Hiroshima Station, collection of questionnaires, end of tour

JR Hiroshima Station



Meeting Place
In front of "Orizuru" clock outside Central Gate on 2nd floor (2F) of JR Hiroshima Station (8:30 a.m.)

01 1回目ツアー

LIVEJAPAN掲載

<https://livejapan.com/en/in-tokyo/in-pref-other/in-pref-hiroshima/article-a2000878/>

想定PV2,000~3,000に対して4,384PV（約1カ月）という結果となった。ツアー当日の12月10日までの数値はPV：4,244、UU：3,479となっていることから、実施前までに多くのユーザーに閲覧されていた。アクセス国の多くは日本からのアクセスになっていることから、国内にいる外国人の多くが英語記事を読んだということがいえる。

※日本語訳

広島で体験する新たなスピリチュアル&トレッキングツアーの魅力！

本ツアーの魅力
魅力のポイント

日本列島にいた人々は、石器時代から大きな岩の上が神が降り立つところ（神の依代）と信じてきた。辺には数多くの石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代の遺跡・史跡が発見されている。山岳信仰は修験道に繋がり、6世紀に入って来た仏教と融合し、神仏習合になっていった。全国に24社しかない神宮の社号を持つ神社が、広島の中の山の中にひっそりと祀られているのも興味深い

■本ツアー企画の見どころ

広島のコんなところに「神宮」がある。神宮とは皇室に所縁のある方を御祭神として祀られている社（やしろ）ですが、ここ天の岩座神宮には宮に相当する社がなく、神が依代（よりしろ）として降臨される「磐座（いわくら）」が祀られているだけです。この岩に降臨された神が「あまてらすおおみかみ」で、天照大御神が天皇の祖とされることから皇室に所縁があるということで「神宮」なのでしょうが、それにしてもあまりにも人里離れた場所にある、日本の神社の原型に近い形の非常にシンプルな「神宮」です。日本には8800社の神社があって、その中で神宮の社号を持つ神社はわずか24社しかないそうですが、そのうちの1社がこの天の岩座神宮なわけです。天の岩座神宮はそれだけ重要な場所であったことが分かります。事実この周辺からは石器時代からの祭儀跡が数多く発見されていて、古代からの聖地であったことが伺えます。

The screenshot shows a webpage layout for a travel article. At the top, there's a navigation bar with 'LIVE JAPAN PERFECT GUIDE', 'Tokyo', and 'Visiting'. Below that, a breadcrumb trail reads 'HOME > Tokyo and Surroundings > Other prefectures > Hiroshima' and a sub-header 'Discover the Allure of a New Spiritual and Trekking Tour Experience in Hiroshima'. The main content area features a large image of a wooden torii gate in a natural setting. Below the image, the article title 'Discover the Allure of a New Spiritual and Trekking Tour Experience in Hiroshima' is displayed, along with the publication date '30 November 2023' and social media sharing icons. A small disclaimer states '*This article includes advertising content.' The article title is repeated in red: 'Spiritual Tour: 1-Day Trek to Ama-no-Iwakura Shrine and Mt. Ozuchi'. A 'Highlights' section follows, containing three bullet points about the site's history, its evolution into Shugendō, and its status as a 'jingu' (spiritual site). Below this is a section titled 'About the Tour Destination' with two paragraphs of text. At the bottom, there are two more images: a full view of the torii gate and a close-up of a large rock formation.

①実証ツアーの実施

01 1回目ツアー

LIVEJAPAN掲載



Tour Details

・ 8:30 AM	Meet in front of the "horizuru" clock outside Central Gate on the 2nd floor (2F) of JR Hiroshima Station
・ 8:30 AM - 8:45 AM	Explanation of tour, departure
・ 10 AM	Break at Mitsuya-no-Sato Roadside Station in Akitakata
・ 11 AM - 2 PM	Start hiking, lunch around noon (bento box lunch), end trekking (total 3 hours)
・ 3 PM - 3:30 PM	Ama-no-Iwakura Shrine
・ 4 PM	Break at Mukaihara Rural Exchange Center, Yasuragi. Fill out questionnaire
・ 5 PM	Return to Hiroshima Station, collection of questionnaires, end of tour

Tour Date and Time

- ・ Date: Sunday, December 10, 2023.
- ・ Time: Meet at 8:30 AM, depart at 8:45 AM, and return at 5 PM.
- * The tour will not be canceled due to rain (it will be canceled only in the case of stormy weather).

Tour Guide Profile



Tetsushi Morita, previously leading the President's Office and Michelin Guide Division at Nihon Michelin Tire Co. Ltd., is an acknowledged expert for the Japan Tourism Agency's extensive sightseeing promotion initiative. His expertise lies in researching and conveying the appeal of Japanese culture and history to Westerners. He also designs and organizes tours across Japan, catering to the rising interest in adventure tourism.

For Inquiries & Bookings

TOBU TOP TOURS Hiroshima Branch
・ Phone: 050-9002-5442
・ Address: Meiji Yasuda Seimei Hondori Building 6F, 6-11 Hondori, Naka-ku, Hiroshima City, Hiroshima 730-0035

[Book this tour online here](#)



※日本語訳

■本ツアーの内容について

- ・ 8:30
広島駅2階 JR中央改札口外「おりづる時計」前に集合
- ・ 8:30～8:45
ツアーの説明・出発
- ・ 10:00
休憩・道の駅 三矢の里あきたかたにて
- ・ 11:00～14:00
トレッキング開始～お昼 12:00ごろ（お弁当）
- ・ 15:00～15:30
天の岩座神宮
- ・ 16:00
休憩・向原農村交流館やすらぎ
アンケート記入
- ・ 17:00
広島駅到着 解散
アンケート回収
実施日時
2023年12月10日（日）集合8:30 出発8:45～17:00戻り

集合場所

JR広島駅 2F中央改札口外「おりづる時計」前 AM8:30

ツアーガイド紹介 森田哲史氏

元 日本ミシュランタイヤ株式会社 社長室長・ミシュランガイド事業部担当
観光庁「広域周遊観光促進のための専門家派遣事業」の専門家にも選定されており、日本の文化・歴史をどのように欧米の方々に伝えれば、魅力が伝わるのかを研究している。
また、アドベンチャーツーリズムのニーズの高まりに合わせて、日本国内でも複数の地域のツアー企画者として活躍している。

■エントリー申込

- ・ お問い合わせ先：東武トップツアーズ 広島支店 担当 入江・中本
〒730-0035 広島県広島市中区本通6-11 明治安田生命本通ビル6F
TEL：050-9002-5442

① 実証ツアーの実施

01 1回目ツアー

ツアー企画のポイントとプレゼンテーション



①実証ツアーの実施

01 1回目ツアー

ツアー実施

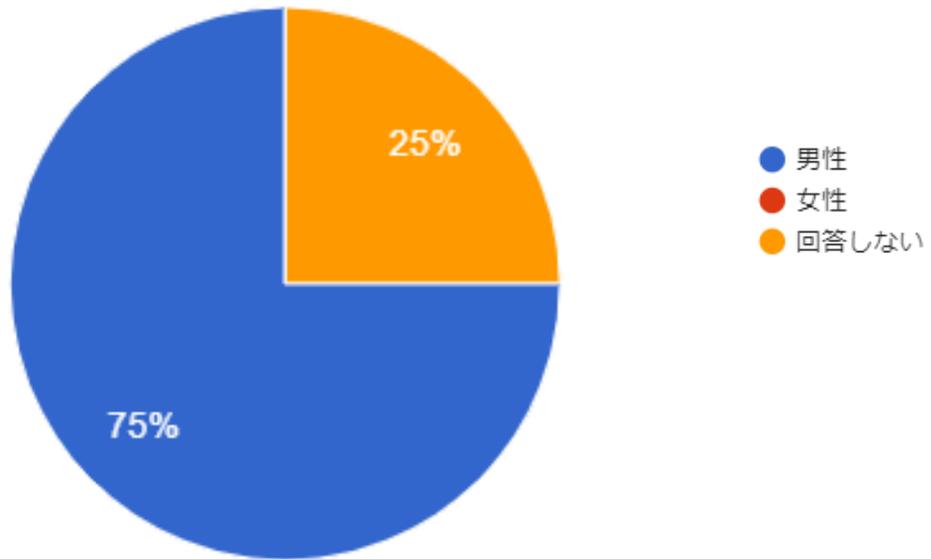


アンケート回答者属性

- 回答者数：**モニター4名**（国籍：アメリカ 2名／カナダ 1名／ニュージーランド 1名）

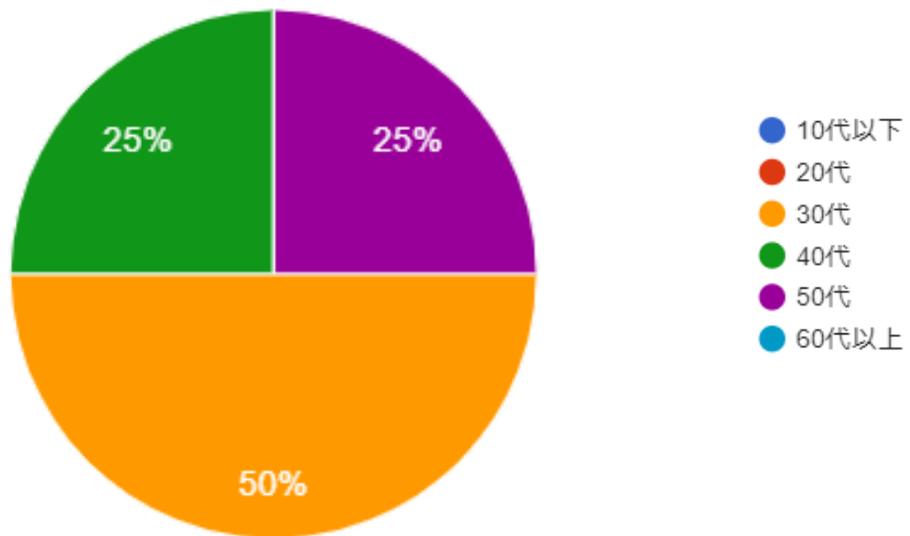
性別

4件の回答



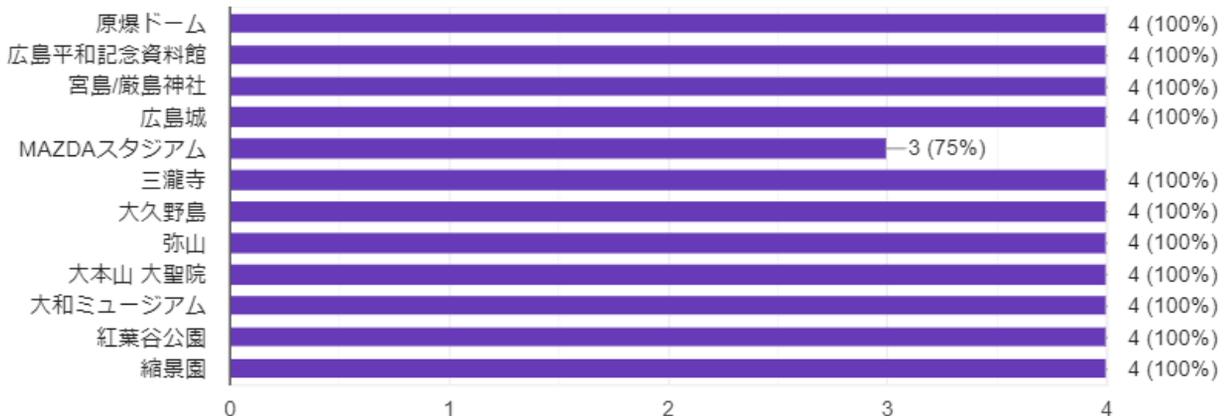
年代

4件の回答



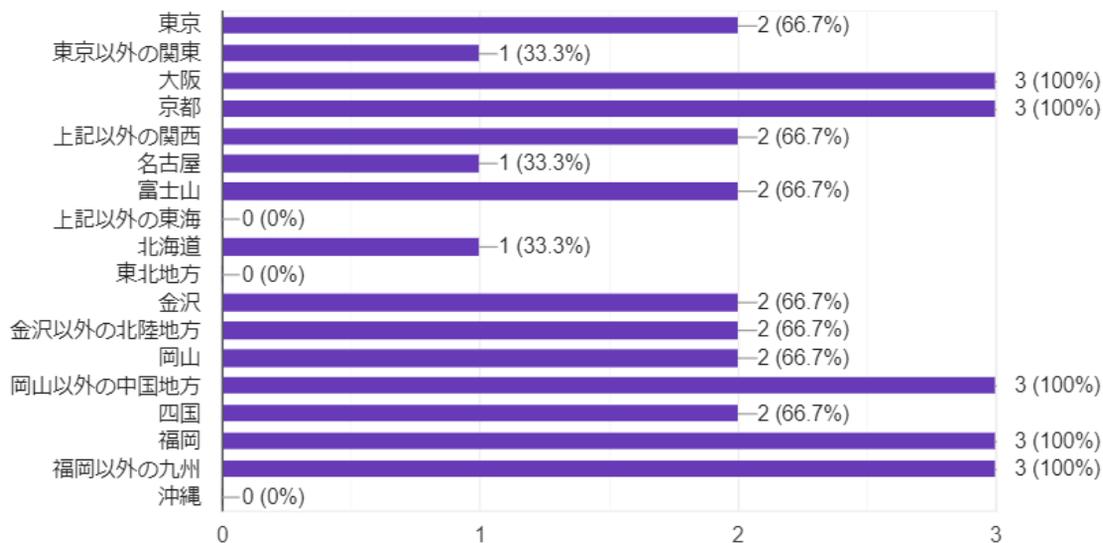
外国人旅行者におススメしたい場所について教えてください / 広島県内（いくつでも）

4件の回答



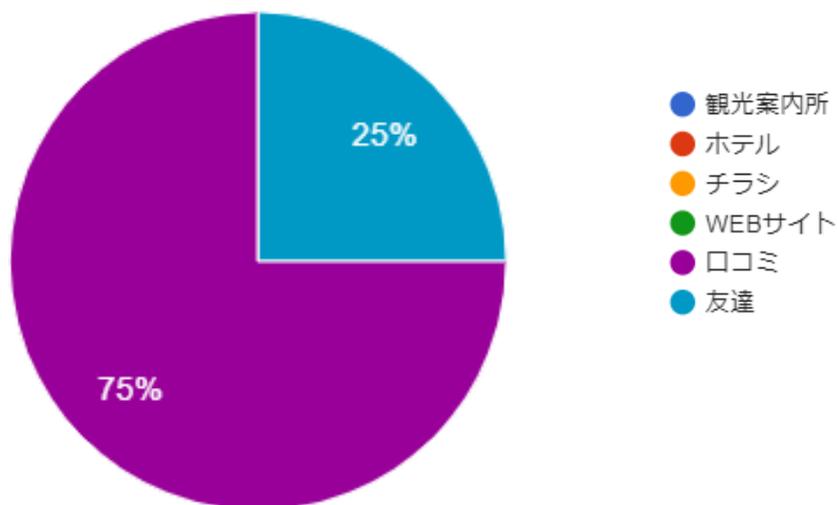
外国人旅行客におススメしたい場所について教えてください / 広島以外（いくつでも）

3件の回答



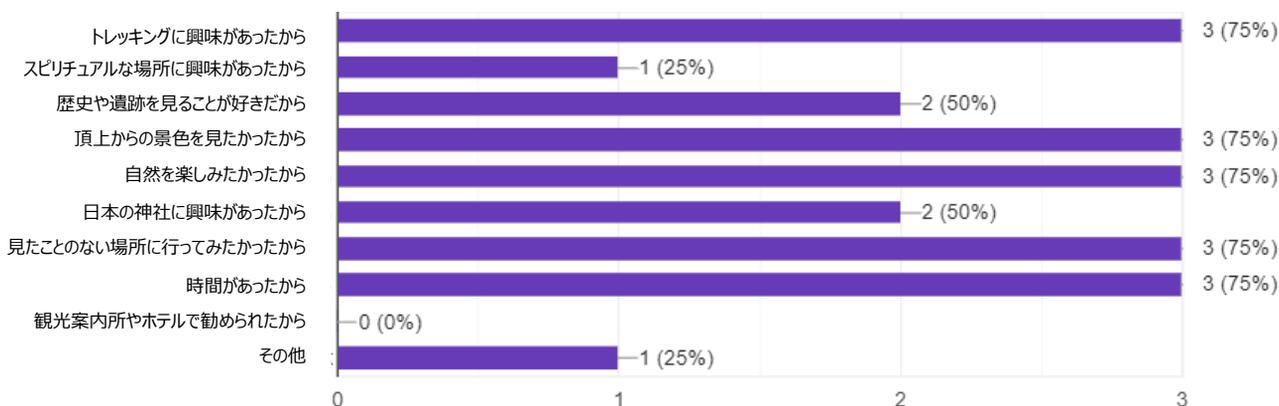
今回のツアー企画を何で知りましたか？

4件の回答



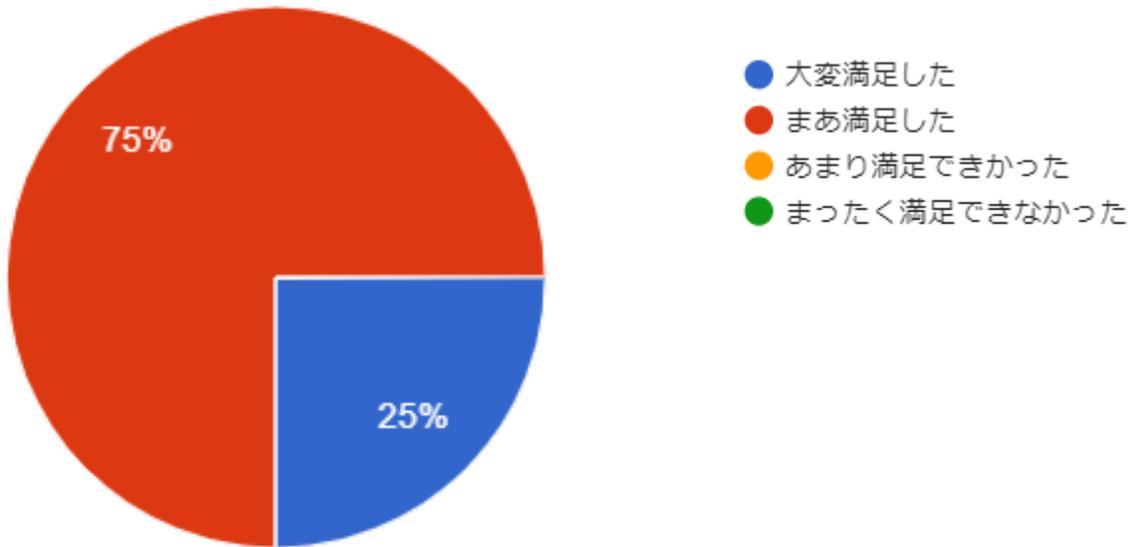
今回のツアーに参加した理由を教えてください。（いくつでも）

4件の回答



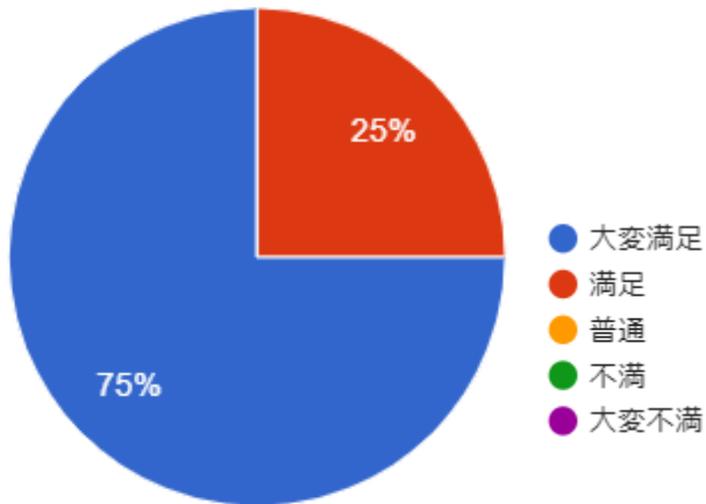
今回のツアー全体の満足度を教えてください。

4件の回答



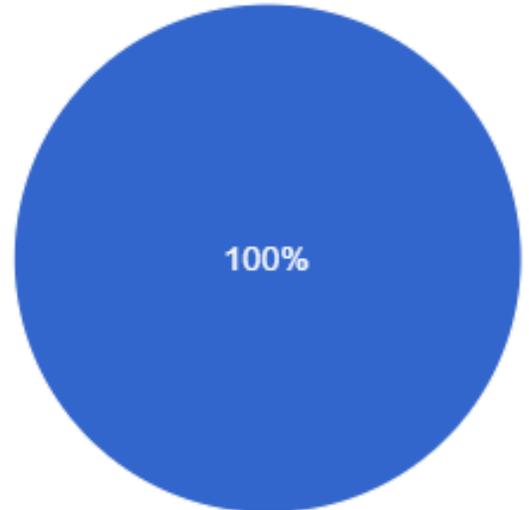
集合場所のわかりやすさについての感想を教えてください

4件の回答



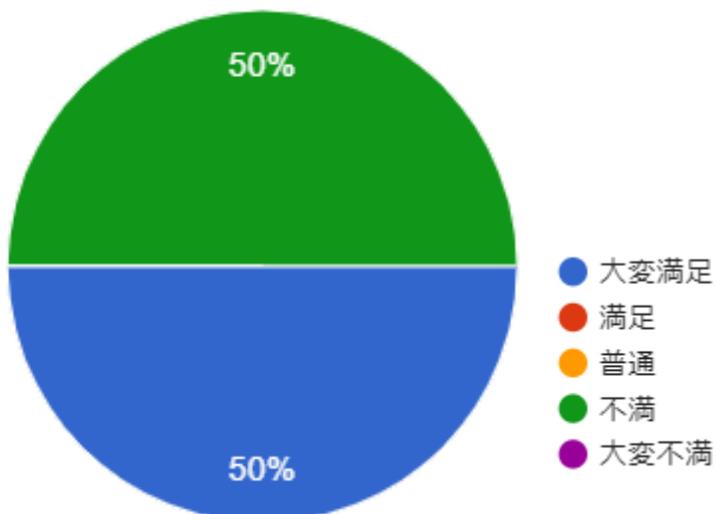
移動手段の快適さについての感想を教えてください

4件の回答



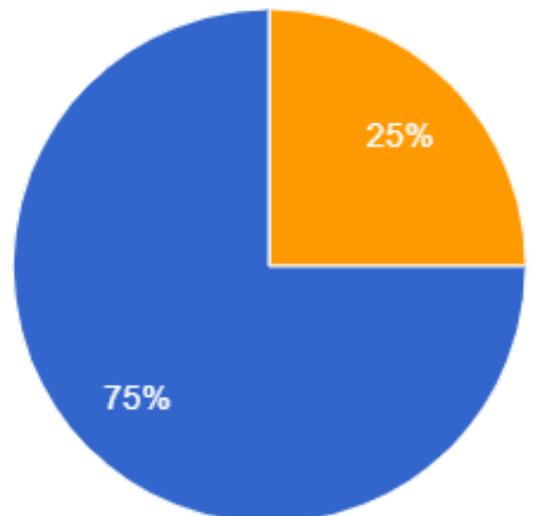
移動時間の長さについての感想を教えてください

4件の回答



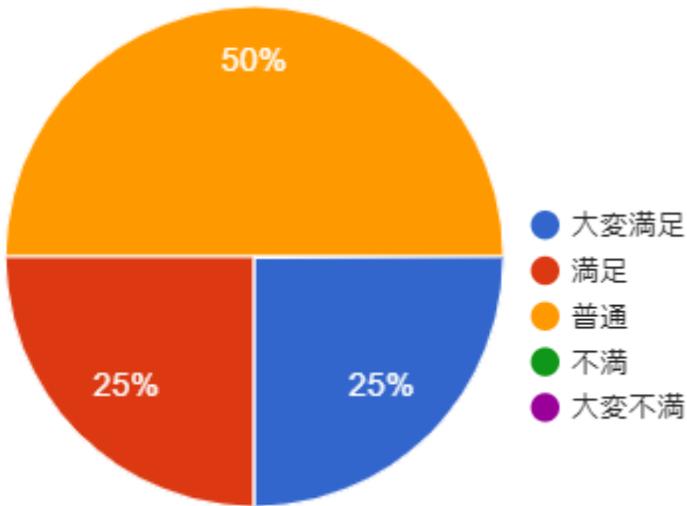
休憩場所の快適さについての感想を教えてください

4件の回答



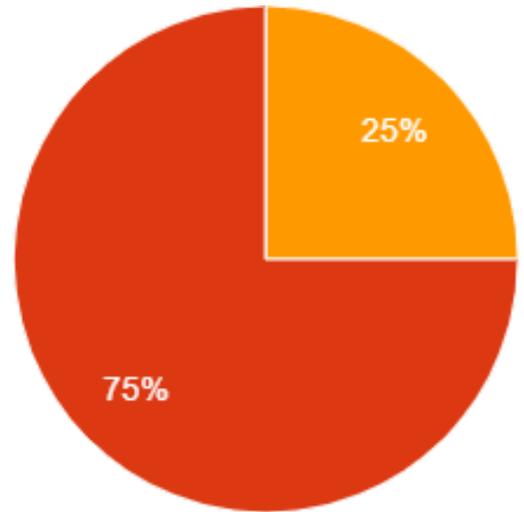
トレッキングツアーについての感想を教えてください

4件の回答



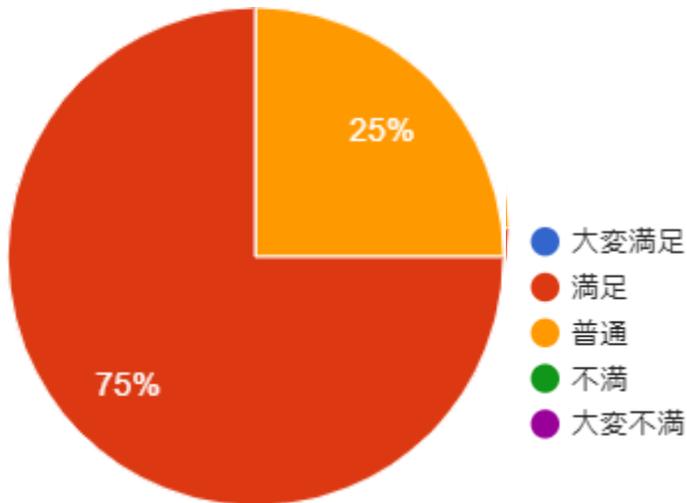
食事についての感想を教えてください

4件の回答



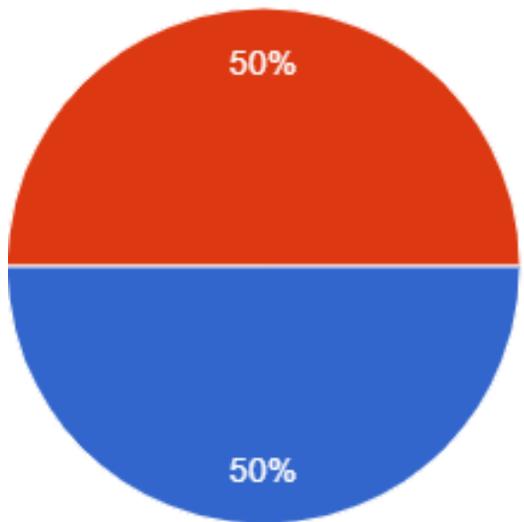
天ノ岩座神宮についての感想を教えてください

4件の回答



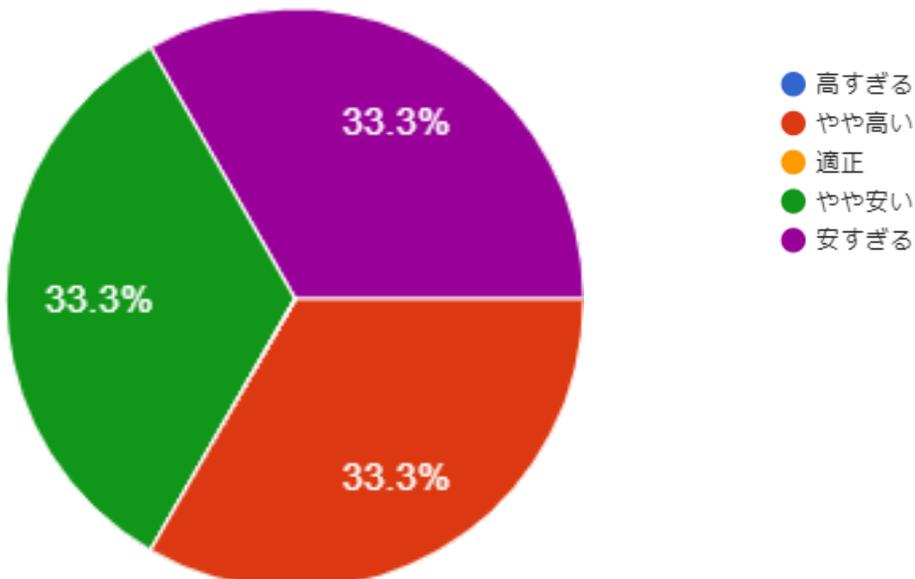
ガイドについての感想を教えてください

4件の回答



今回のツアー参加費についての感想を教えてください

3件の回答



アンケート回答者属性

- 回答者数：**FIT1名**（国籍：アメリカ/オークランド 1名）
- ・性別：女性　・年代：50代
- ・国籍：アメリカ/N2　・居住地：オークランド
- ・滞在日数：20～30日未満
- ・同行者数：0人(自分ひとり)
- ・訪日目的 ①食・グルメ
②ショッピング
③美術館・博物館
④歴史・文化体験
⑤ショッピング
- ・今回の訪日旅行で本ツアー以外に訪れた場所について教えてください
①原爆ドーム
②広島平和記念資料館
③宮島/厳島神社
④その他 呉ミュージアム&ビーチ
- ・今回のツアー企画を知ったきっかけ：口コミ
- ・今回のツアーに参加した理由を教えてください
①スピリチュアルな場所に興味があったから
②日本の神社に興味があったから
③見たことのない場所に行ってみたかったから
- ・今回のツアー全体の満足度を教えてください：まあ満足した
- ・集合場所のわかりやすさについての感想を教えてください：大変満足
- ・移動手段の快適さについての感想を教えてください：大変満足
- ・移動時間の長さについての感想を教えてください：大変満足
- ・休憩場所の快適さについての感想を教えてください：満足
- ・トレッキングツアーについての感想を教えてください：満足
- ・食事についての感想を教えてください：大変満足
- ・天ノ岩座神宮についての感想を教えてください：満足
- ・ガイドについての感想を教えてください：大変満足
- ・今回のツアー参加費についての感想を教えてください：安すぎる

第1回目ツアーアンケート 全体の自由記述一覧

ツアー参加理由（自由回答）

- ・娘とここの人々と一緒に素敵な経験をしたかったのです
- ・参加者向けのリーフレットも観光情報として役立つと思います。
また、短いビデオ/パワーポイントのプレゼンテーションは視覚的に魅力的で、ガイドトークを理解するのに役立ちます。
- ・見ること

今回のツアーの感想や要望、課題などご自由にお書きください。（自由回答）

- 午前8時から午後2時までは少し長すぎます。
 - 都市から閉ざされた素敵なトレイルがたくさんあります。
 - 頂上の眺めはまあまあでした。
 - 退職した日本人にとってツアーはおそらく最も魅力的でしょう。
 - 神石が一番楽しかったです、歴史が面白かったです。
- (もし私がユニークなツアーを作るとしたら、第二次世界大戦の古い銀行家がいたという理由で江田島の萬壇を選ぶかもしれませんが。あるいは、美しくて近いという理由で三滝寺を選ぶかもしれませんが。安芸太田には美しい滝やおいしい食べ物のある道の駅がある素晴らしいハイキングコースがたくさんあります)

- ガイドは2人います、前方1人、後方1人。
- トレイルが整備されていない長いハイキングのため、ハイキング装備を持たない観光客には十分に注意してください。
- 山の麓ではトイレ施設が不足しており、特に困っている人もいます。
- ランチは少しずつ、おやつやオプションを追加すると良いでしょう。
- 8時間はほとんどの人にとって長すぎると思われます。4~5時間の方が良いです。または、地元の訪問先を見つけてください。
- アイデアは気に入っていますが、御蔵岳、極楽寺、江田島、三滝寺などの方が良いと思います。

1. とても楽しかったです。市内からの休憩に最適な場所にあり、日帰りツアーに最適なタイミングです。
2. 混合グループはツアー全体の中で最高の部分でした。それは人々がお互いを知り、将来一緒に冒険するための絆や友情を築くのに役立ちます。
3. 個人的にも職業的にも、ツアーガイドとしてぜひ参加したいです。ツアーの情報を準備してお手伝いしたいと思います。ぜひお会いして、お茶やコーヒーを飲みながら詳しくお話できれば幸いです。ありがとう。

最後の風下トレッキングは少し滑りやすかったのですが、最後は少し急いでいるように感じました。
出発時間は15:30~16:00になるかもしれません

準備についてより明確なアイデアを教えてください。

- 想定される温度範囲
 - どの程度の技術が必要ですか？
 - どれくらいの体力が必要ですか？
- 多くのハイキングガイドがこれを行っています。
- 季節的な危険（雪、クマなど）
- 旅行者はこれらのことを正確に想像できないかもしれません。

①実証ツアーの実施

02 2回目ツアー

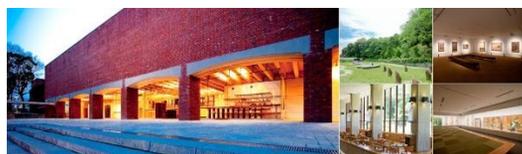
モニター 7名 (国籍：ベトナム1名/ラオス1名/台湾3名/チュニジア1名/ベナン1名)
観光関連事業者 3名

山口市内サイクリング散策と“雪舟”作品に浸る

- ・雪舟と15世紀の日本と山口
- ・水墨画と禅（瞑想）と庭
- ・日本画を味わう with 学芸員
- ・サイクリング



日程：2024年1月21日(日)
集合場所：広島駅2F JR中央口 おりづる時計前
募集人員：10名（最少催行人員：1名）
募集条件：訪日外国人旅行者の方
旅行代金：5,000円
食事条件：昼食1回
添乗員：同行します。



時間	行程
8:45	集合 広島駅 各自でお集まりください
9:00 11:10	出発（途中休憩1回） 山口市内 到着
11:20 ~	常栄寺 昼食 山口県立美術館
15:00	
15:15	出発（途中休憩1回）
17:00	解散 広島駅

①実証ツアーの実施

02 2回目ツアー

チラシ作成

TOBU TOP TOURS

Discover the works of Japanese painter, **Sesshu Toyo**, on a cycling tour around Yamaguchi City

Tour Outline

- Embark on a cycle tour to see the works of Sesshu Toyo, a Muromachi period (1336 - 1392) monk and painter who revolutionized Japanese ink painting and gained his place as the most famous ink artist in Japanese art history.
- Joshiji Temple is believed to have been the villa of feudal lord Ouchi Masahiro, who had Sesshu build the organic garden. This masterpiece of a Japanese garden is akin to a landscape painting overflowing with calm serenity and the spirit of Zen.
- The Yamaguchi Prefectural Museum of Art houses works by Sesshu and the Unkoku School, which succeeded Sesshu's style of painting. It also exhibits many works by artists associated with Yamaguchi Prefecture.

Sunday January 21, 2024
meet at 8:45 a.m., depart at 9:00 a.m., return at 5:00 p.m.

How to apply
Application Form
OR Please apply directly to the tour conductor at the meeting place on 21st Jan.
The trip fee will be collected at Hiroshima Station on the day of the trip.

Entry <https://forms.gle/vaidAUCKZVF57mnlB>
or TOBU TOP TOURS Hiroshima Branch

The Tour Guide: Tetsushi Morita

Profile
Tetsushi Morita, previously leading the President's Office and Michelin Guide Division at Nihon Michelin Tire Co. Ltd., is an acknowledged expert for the Japan Tourism Agency's extensive marketing promotion initiative. His expertise lies in researching and conveying the appeal of Japanese culture and history to Westerners. He also designs and organizes tours across Japan, catering to the rising interest in adventure tourism.

Suiboku-ga' Ink Painting and Sesshu Toyo

suiboku-ga (ink painting), in which pictures are using many shades of ink, originated in China the Tang dynasty (7th to early 10th

century). The art form was introduced to Japan by Zen Buddhism in the mid-Kamakura period (13th century), where it flourished as a creative expression of Zen. Buddhist monk Sesshu was the eminent Suiboku-ga master of the Edo period (1336 - 1573). He was born in Iga, Kyoto, and then moved to Yamaguchi as Suo Province at the time, where he

received the patronage of the feudal Ouchi clan. At the age of 48, he traveled to China, where he honed his skills, and after returning to Japan, he expanded his activism to various parts of the country. He has six works that have been designated as national treasures - the most of any individual Japanese painter. All of these were painted when Sesshu was in his mid-60s, showcasing an incredible creativity that did not wane until his final years.

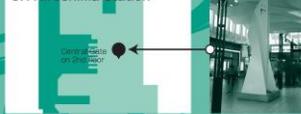


A painting of Sesshu, "Coloring on Silk by Sesshu Toyo", copied by Unkoku Toyo.



Yamaguchi Prefectural Museum of Art, which houses works by Sesshu and the Unkoku School, which succeeded Sesshu's style of painting.

JR Hiroshima Station



Meeting Place
In front of "Orizuru" clock outside Central Gate on 2nd floor (2F) of JR Hiroshima Station (8:45 a.m.)

Precautions

- Please wear comfortable clothes for this cycling tour. - Lunch (packed lunch) will be provided once during the day. - In case of inclement weather, the tour may be changed from cycling to bus/walking.

Schedule	
8:45	Hiroshima Station
9:00 11:10	Depart (One break time will be taken) Yamaguchi city arrival
11:20 15:00	Joshiji Temple Lunch Yamaguchi prefectural Art Museum
15:15	Depart (One break time will be taken)
17:00	Dismissal at Hiroshima Sta.

Cost

¥5,000

The following items are included in the above tour fee: - Charter bus fee (Tsubame Kotsu) - Guide fee - Lunch - Cost of one accompanying tour guide Items not included in the above tour fee: - Meals not listed in the itinerary - Personal expenses such as phone communication fees, spending money, etc.

Contact

TOBU TOP TOURS Co.,LTD. HIROSHIMA Branch
6-11 Hondori Naka-ku Hiroshima-city Hiroshima
730-0035 Japan
TEL : 050-9002-5442 FAX : 082-542-1333
Mail : yuki_nakamoto@tobutoptours.co.jp

02 2回目ツアー

LIVEJAPAN掲載

<https://livejapan.com/en/in-tokyo/in-pref-other/in-pref-yamaguchi/article-a0005460/>

想定PV2,000~3,000に対して4,132PV、英語記事だけで想定PVを超えている結果となっている。

ツアー当日の1月21日までの数値はPV：3,836、UU：3,011となっていることから、実施前までに多くのユーザーに閲覧されていた。

こちらも多くは日本からのアクセスになっていることから、国内にいる外国人の多くが英語記事を読んだということがいえる。

※日本語訳

ツアー告知『山口市内サイクリング散策と“雪舟”作品に浸る』

■ ツアー概要

- 日本の水墨画を革新した、日本美術史上、水墨画でもっとも有名な室町時代の絵師「雪舟」の作品をサイクリングで巡るツアーとなります。
- 常栄寺は、守護大名大内政弘の別荘として、画僧雪舟に築庭させたものと伝えられており、まるで風景画のような“禅”の心を感じる日本庭園の代表作ともいえる。
- 山口県立美術館は、雪舟や雪舟の画風を継いだ雲谷派の作品が収蔵されているほか、山口県ゆかりの美術家たちの作品が多く展示されている。

■ 水墨画と雪舟

主に墨の濃淡を使って絵を描く水墨画は、唐（とう：7～10世紀初頭の中国王朝）の時代に中国で生まれ、鎌倉時代中期に禅宗を通じて日本に伝わります。以来、水墨画は禅の精神を表すとされ、盛んに描かれてきました。「雪舟」（せっしゅう）は、室町時代の水墨画の大家であり、画僧（がそう：僧籍にある画家）。岡山で生まれ、京都、そして山口（当時：周防国）で守護大名大内氏の庇護をうけます。48歳の時に、本場中国へ渡って腕を磨き、帰国後は日本各地へと活躍の場を広げました。国宝に指定された作品は、個人の画家としては最多の6点を数えます。そのすべてが60歳半ばを過ぎてから描かれた物ばかりで、創作意欲は最晩年まで衰えることはありませんでした。

The screenshot shows a webpage for a cycling tour. At the top, it says 'LIVE JAPAN PERFECT GUIDE' and 'Tokyo Visiting'. Below that, there's a breadcrumb trail: 'HOME > Tokyo and Surroundings > Other prefectures > Yamaguchi'. The main title is 'Tour Announcement: Discover the works of Japanese painter, Sesshu Toyo, on a cycling tour around Yamaguchi City'. The date is '19 January 2024'. There are social media icons for Facebook, Twitter, YouTube, Instagram, and LinkedIn. The article text starts with 'Enjoy a mesmerizing cycle tour on January 21, 2024, with expert guide Tetsushi Morita, exploring the Zen-inspired art of Sesshu Toyo in Yamaguchi City. Visit Jyoei-ji Temple's tranquil garden, a Sesshu masterpiece, and marvel at his influential ink paintings at the Yamaguchi Prefectural Museum of Art. This day-long adventure combines artistic discovery with the serene beauty of Yamaguchi's landscapes.' There's a note: '*This article includes advertising content.' Below that is a 'Tour Outline' section with three bullet points: 1. Embark on a cycle tour to see the works of Sesshu Toyo, a Muromachi period (1336 - 1392) monk and painter who revolutionized Japanese ink painting and solidified his place as the most famous ink artist in Japanese art history. 2. Jyoei-ji Temple is believed to have been the villa of feudal lord Ouchi Masahiro, who had Sesshu build the ornate garden. This masterpiece of a Japanese garden is akin to a landscape painting, overflowing with calm serenity and the spirit of Zen. 3. The Yamaguchi Prefectural Museum of Art houses works by Sesshu and the Unkoku School, which succeeded Sesshu's style of painting. It also exhibits many works by artists associated with Yamaguchi Prefecture. There are two images: one of a traditional Japanese building with a garden, and another of a traditional Japanese building with a garden. Below the images is a caption: '*Suiboku-ga' Ink Painting and Sesshu Toyo'. The text continues: 'Suiboku-ga (ink painting), in which pictures are painted using many shades of ink, originated in China during the Tang dynasty (7th to early 10th century). The art form was introduced to Japan through Zen Buddhism in the mid-Kamakura period (1185-1333), where it flourished as a creative expression of Zen. Buddhist monk Sesshu was the most prominent Suiboku-ga master of the Muromachi period (1336 - 1573). He was born in Okayama, Kyoto, and then moved to Yamaguchi (known as Suo Province at the time), where he received the patronage of the feudal Ouchi clan. At the age of 48, he traveled to China, where he honed his skills, and after returning to Japan, he expanded his activism to various parts of the country. He has six works that have been designated as national treasures - the most of any individual Japanese painter. All of these were painted when Sesshu was in his mid-60s, showcasing an incredible creativity that did not wane until his final years.'

①実証ツアーの実施

02 2回目ツアー

LIVEJAPAN掲載



* A portrait of Sesshu, "Coloring on Silk by Sesshu Toyo", copied by Unkoku Toaki.



* Yamaguchi Prefectural Museum of Art, which houses works by Sesshu and the Unkoku School, which succeeded Sesshu's style of painting.

Tour Guide, Tetsushi Morita (Profile)



Tetsushi Morita, previously leading the President's Office and Michelin Guide Division at Nihon Michelin Tire Co. Ltd., is an acknowledged expert for the Japan Tourism Agency's extensive sightseeing promotion initiative. His expertise lies in researching and conveying the appeal of Japanese culture and history to Westerners. He also designs and organizes tours across Japan, catering to the rising interest in adventure tourism.

Tour Date and Time

- ・ Sunday, January 21, 2024, meeting at 8:45 AM
- ・ Departure at 8:45 AM - Return at 5 PM

Cost

- ・ 5,000 yen

The following items are included in the above tour fee:

- ・ Charter bus fee (Tsubame Kotsu)
- ・ Guide fee
- ・ Lunch
- ・ Cost of one accompanying tour guide

Items not included in the above tour fee:

- ・ Meals not listed in the itinerary
- ・ Personal expenses such as phone communication fees, spending money, etc.

Meeting place

In front of "Orizuru Clock" outside the central ticket gate on the 2nd floor of JR Hiroshima Station at 8:45 AM.

※日本語訳

※「絹本着色雪舟等楊像」雪舟の肖像画で雲谷等益（うんこく とうえき）が模写

※雪舟や雪舟の画風を継いだ雲谷派の作品が収蔵されている山口県立美術館

■ツアーガイド紹介 森田哲史氏（プロフィール）

元 日本ミシュランタイヤ株式会社 社長室長・ミシュランガイド事業部担当

観光庁「広域周遊観光促進のための専門家派遣事業」の専門家にも選定されており、日本の文化・歴史をどのように欧米の方々に伝えれば、魅力が伝わるのかを研究している。

また、アドベンチャーツーリズムのニーズの高まりに合わせて、日本国内でも複数の地域のツアー企画者として活躍している。

■実施日時

2024年1月21日（日）集合8:45 出発8:45～17:00戻り

■金額

¥5,000円

（上記旅行代金に以下のものが含まれます。）

- ・ 貸切バス代（つばめ交通）
- ・ ガイド費用
- ・ 昼食1回
- ・ 添乗員1名の同行費用

〈上記旅行代金に含まれないもの〉

- ・ 日程表に記載のない食事代
- ・ 通信費、お小遣いなど個人的費用

■集合場所

JR広島駅 2F中央改札口外「おりづる時計」前 8:45

①実証ツアーの実施

02 2回目ツアー

ツアー企画のポイントとプレゼンテーション

1. Who is Sesshu ?
2. What is the 15th Century worldwide ?
3. 15th Century in Japan
4. Why Yamaguchi ?
5. What is the Ink-Painting (Suiboku-ga) ?
6. What is the relationship between Zen and Suiboku-ga ?

Except for one area of Japan



Lord of Ouchi

NAGATO : Yamaguchi Pref.
SUOH : Yamaguchi Pref.
IWAMI : Shimane Pref.
AKI : Hiroshima Pref.
CHIKUSHI : Fukuoka Pref.



The capital is Yamaguchi City

SESSHU



1420 - 1506
Monk
Painter Artist
Garden Designer

Trade was flourishing between Yamaguchi and Continent



15th Century in Europe



Decline of the catholic church



The beginning of the Age of Exploration



Renaissance



1452-1519



Lord of Ouchi

Welcomed to Yamaguchi from Kyoto
Order their villa's garden design
Support for 3 years stay in China



Sesshu



15th Century in Japan



Neutralization of the power of the Shogun

Local rebellion
Urban fighting in Kyoto



Suiboku-ga : Sumi-e

水墨画 : 墨絵



雪舟について学ぶ

～山口での文化発展、禅と水墨画の関係性～

雪舟がどのような人物で、日本文化において何を成し遂げてきたのか、雪舟が生きた15世紀のヨーロッパにも触れ、日本と世界の同時期の違いについても説明を交え、行った。また、水墨画・墨絵について、原料や所作等にも触れた。

①実証ツアーの実施

02 2回目ツアー

ツアー実施

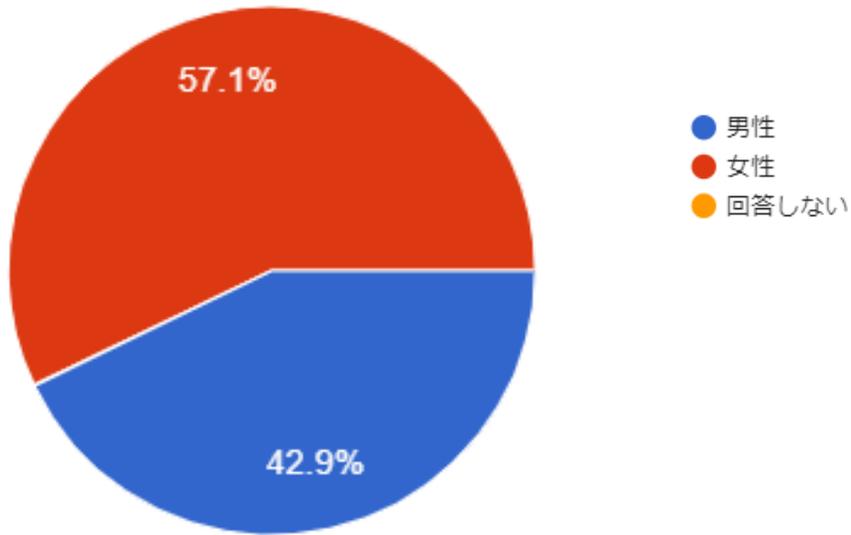


アンケート回答者属性

● 回答者数：モニター7名（国籍：ベトナム1名/ラオス1名/台湾3名/チュニジア1名/ベナン1名）

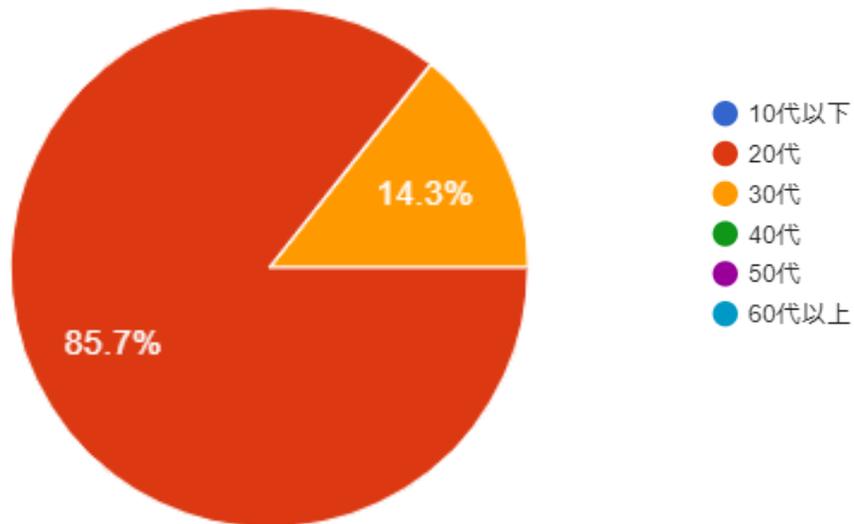
性別

7件の回答



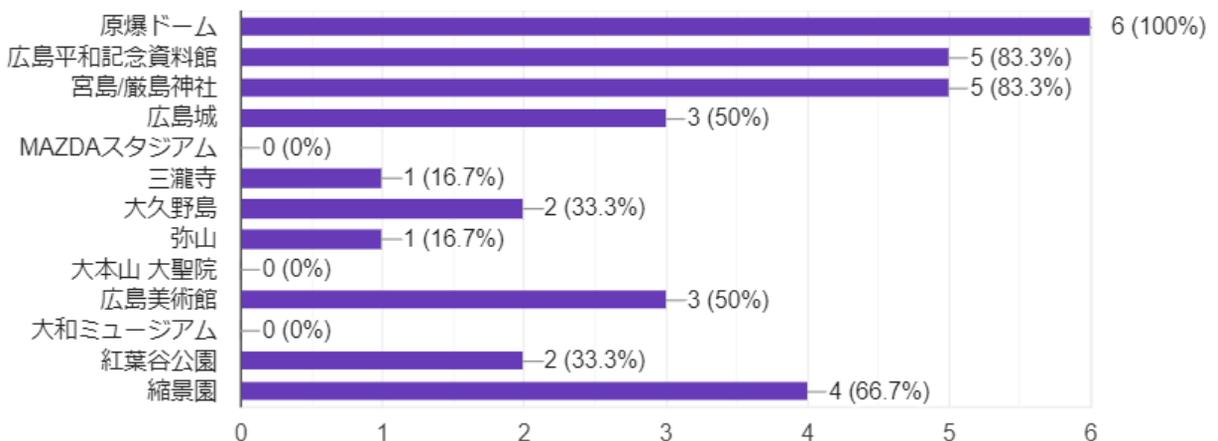
年代

7件の回答



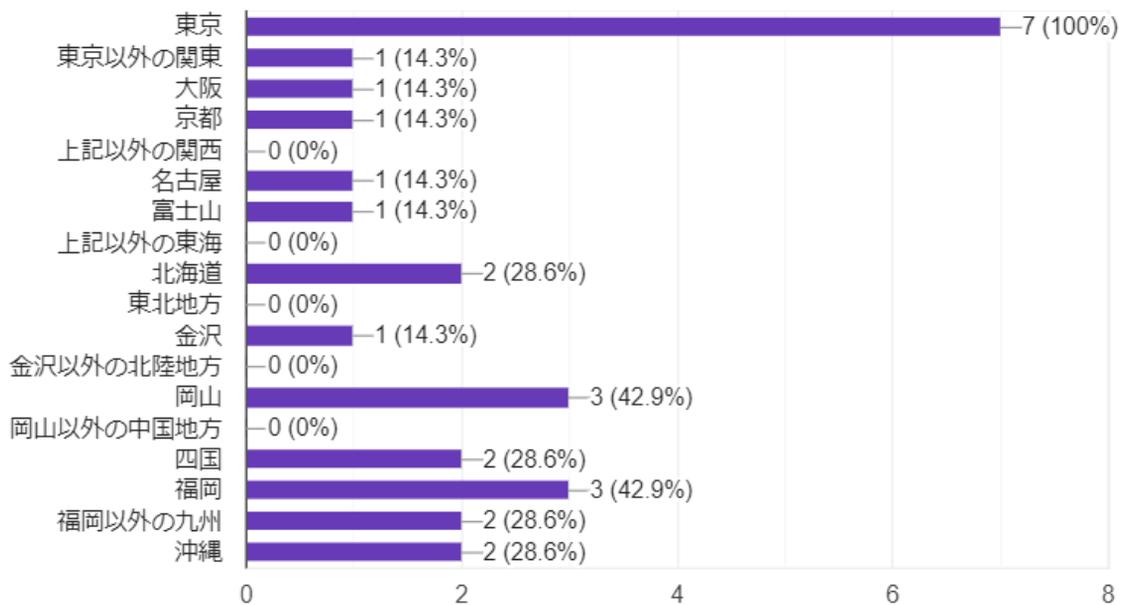
外国人旅行者におススメしたい場所について教えてください / 広島県内（いくつでも）

6件の回答



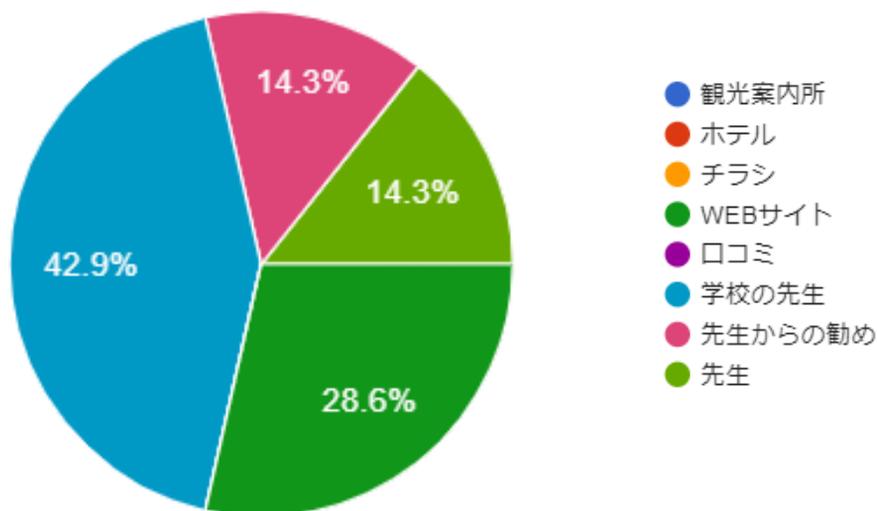
外国人旅行客におススメしたい場所について教えてください / 広島以外（いくつでも）

7件の回答



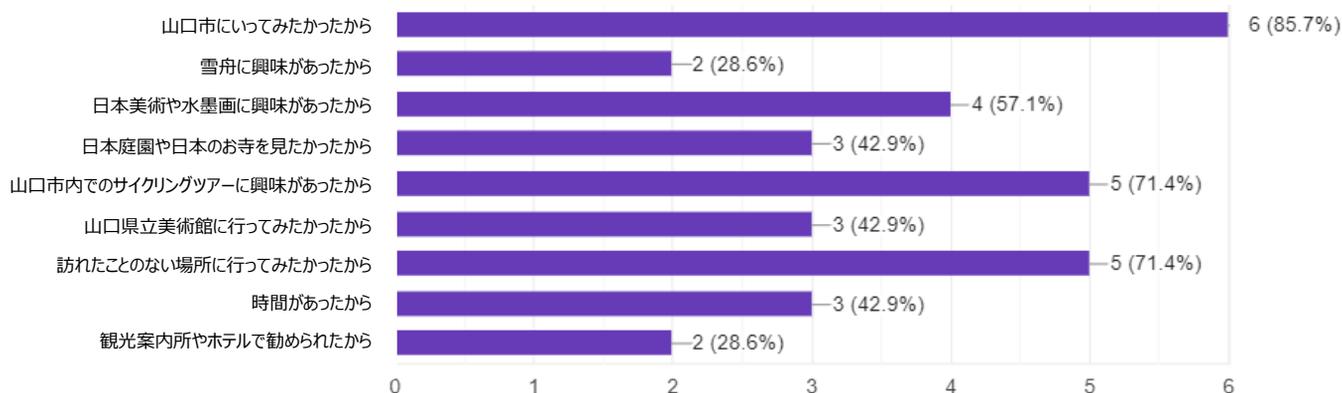
今回のツアー企画を何で知りましたか？

7件の回答



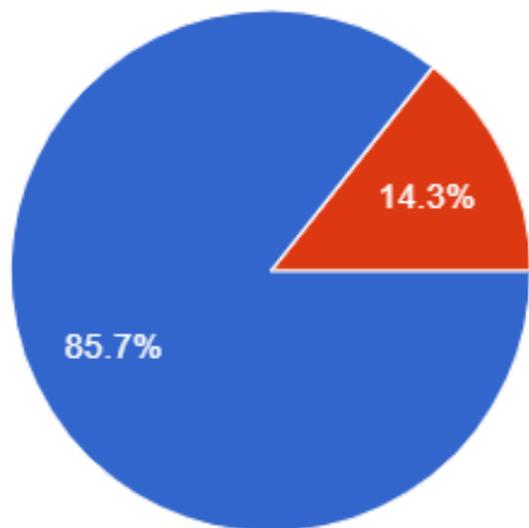
今回のツアーに参加した理由を教えてください。（いくつでも）

7件の回答



今回のツアー全体の満足度を教えてください。

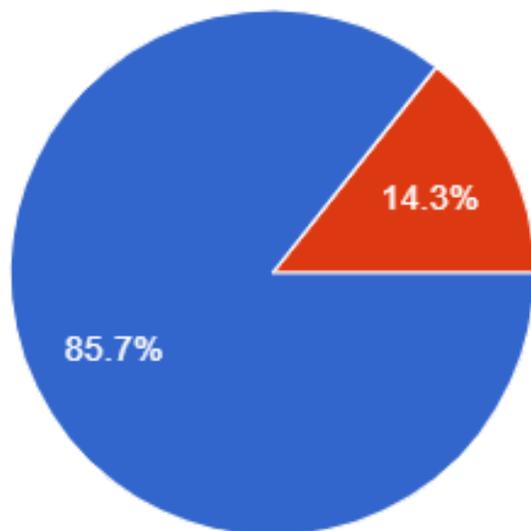
7件の回答



- 大変満足した
- まあ満足した
- あまり満足できなかった
- まったく満足できなかった

集合場所のわかりやすさについての感想を教えてください

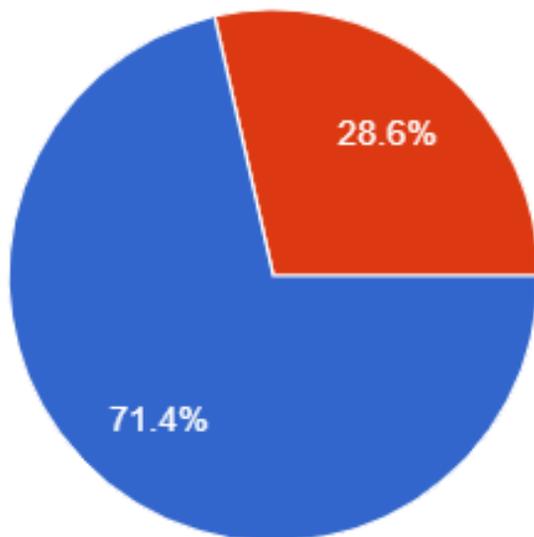
7件の回答



- 大変満足
- 満足
- 普通
- 不満
- 大変不満

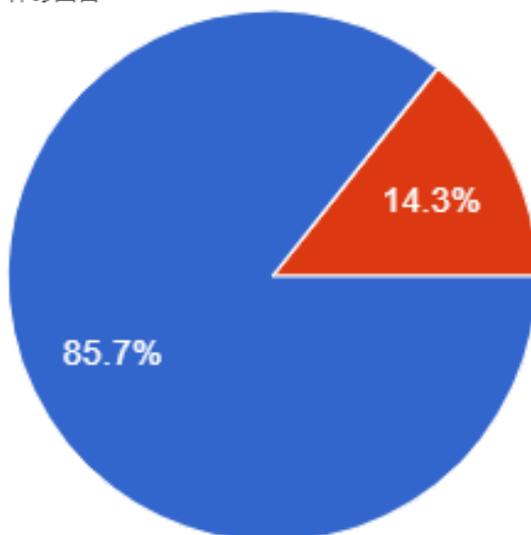
移動手段の快適さについての感想を教えてください

7件の回答



移動時間の長さについての感想を教えてください

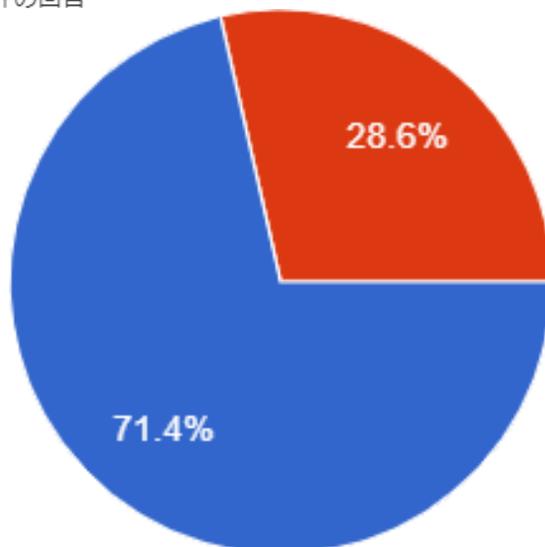
7件の回答



- 大変満足
- 満足
- 普通
- 不満
- 大変不満

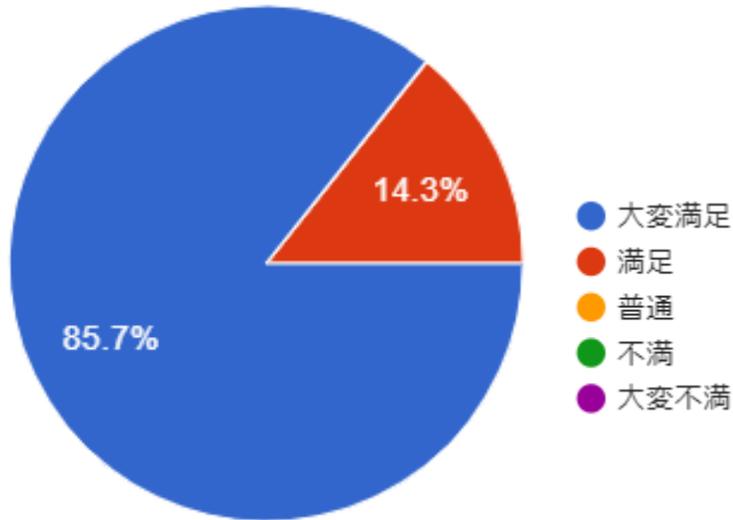
常栄寺についての感想を教えてください

7件の回答



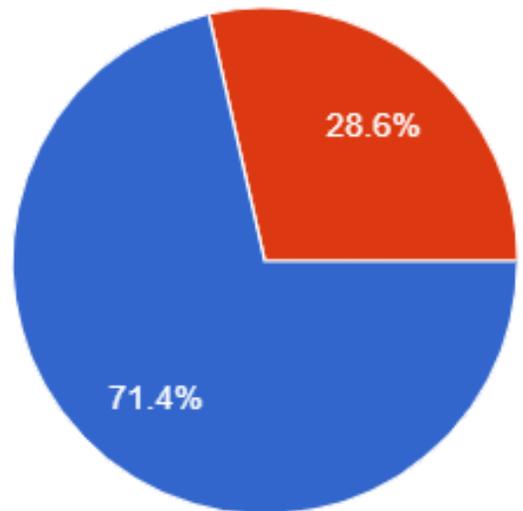
食事についての感想を教えてください

7件の回答



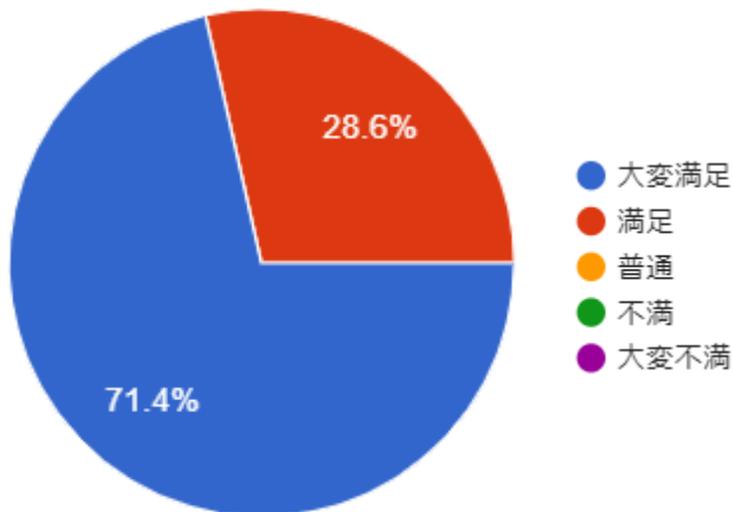
山口県立美術館についての感想を教えてください

7件の回答



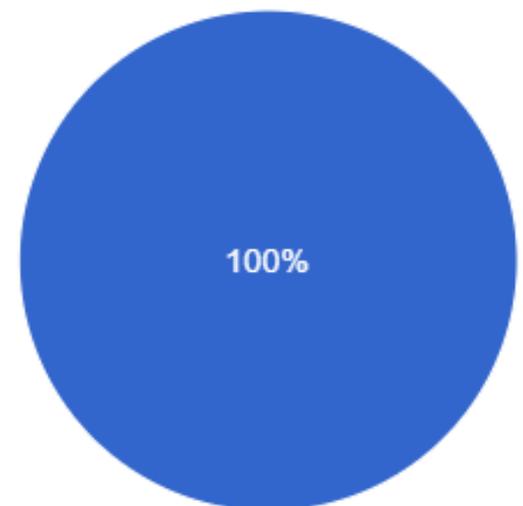
山口市内のサイクリングツアーについての感想を教えてください

7件の回答



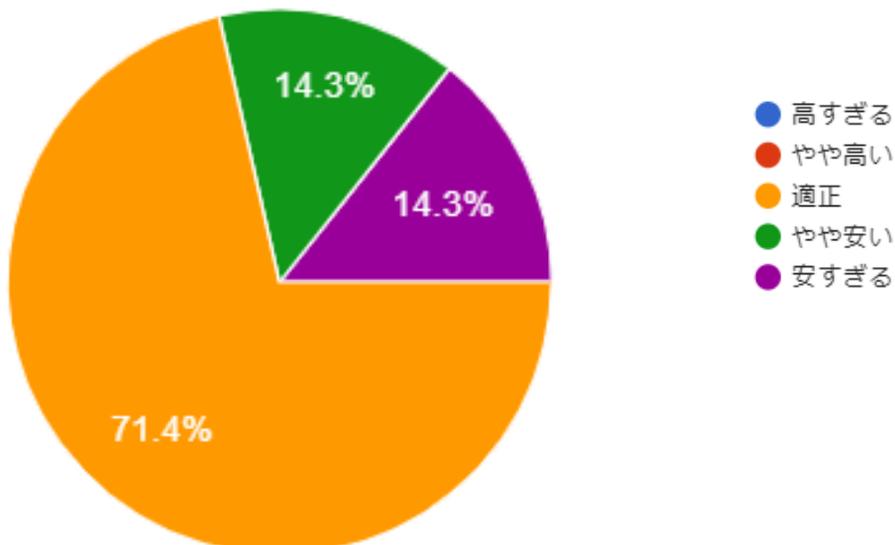
ツアーガイドについての感想を教えてください

7件の回答



今回のツアー参加費についての感想を教えてください

7件の回答

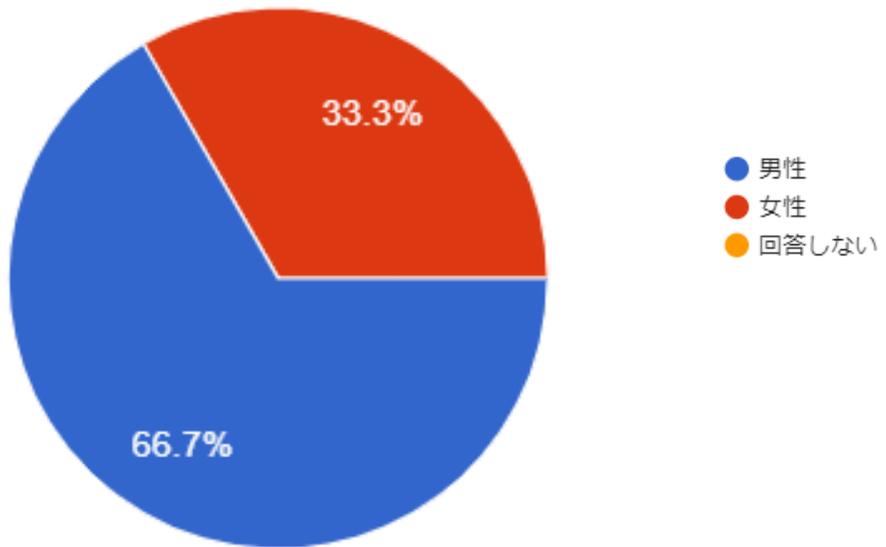


アンケート回答者属性

● 回答者数：観光関連事業者3名

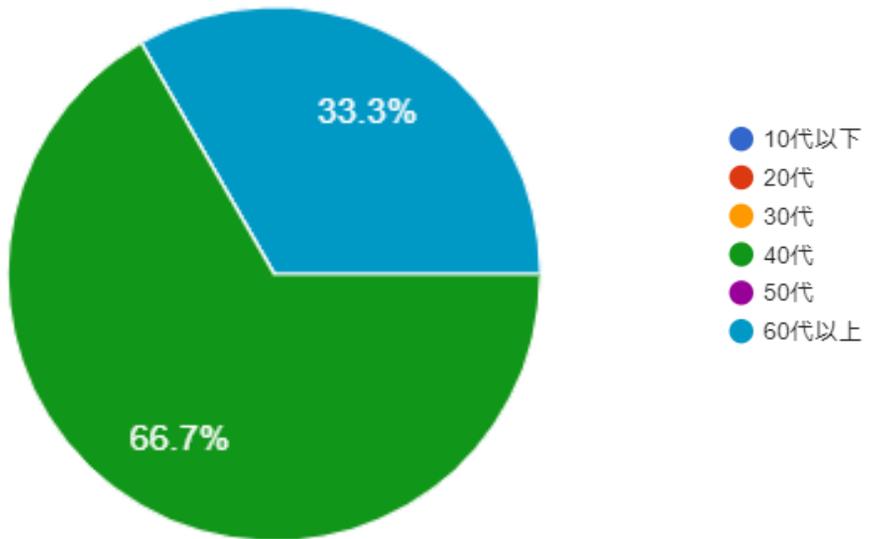
性別

3件の回答



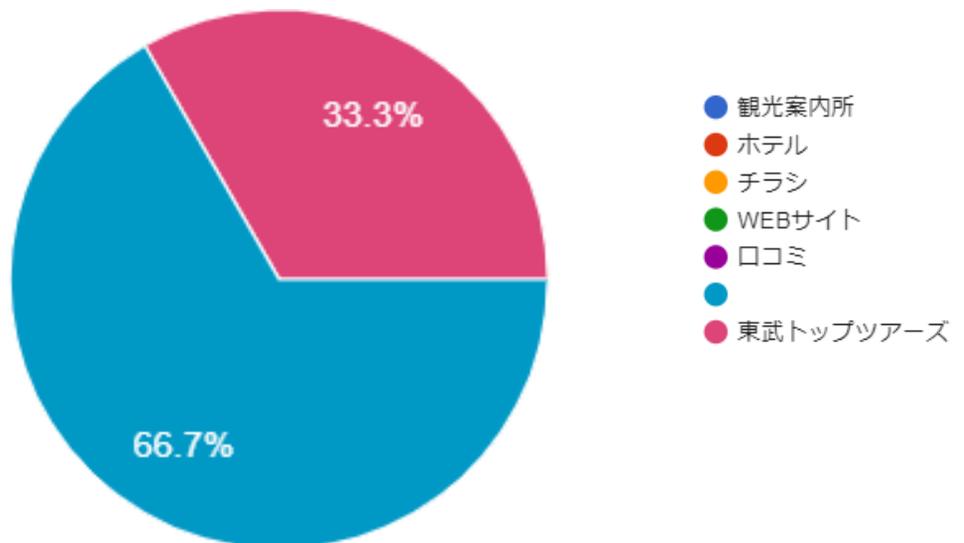
年代

3件の回答



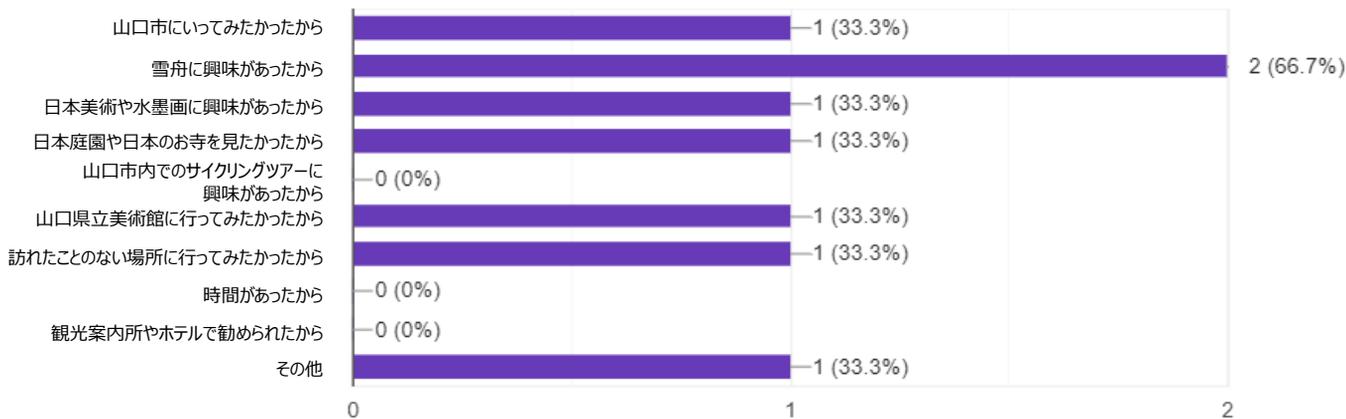
今回のツアー企画を何で知りましたか？

3件の回答



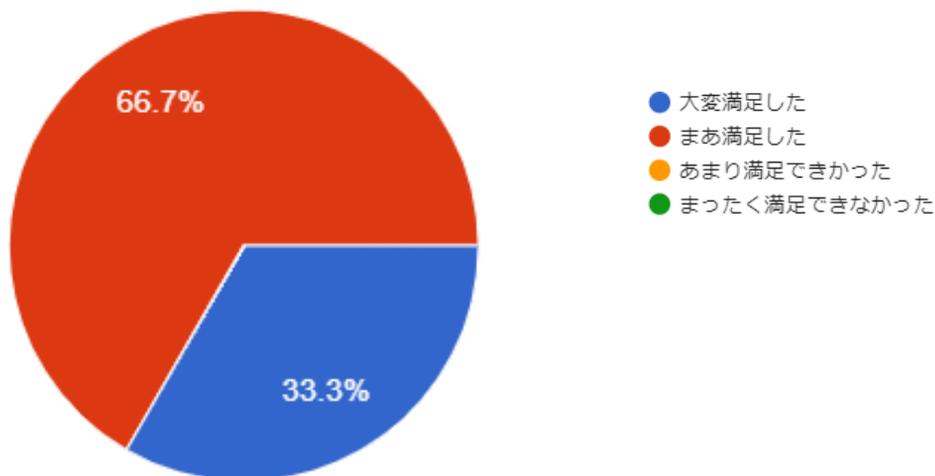
今回のツアーに参加した理由を教えてください。（いくつでも）

3件の回答



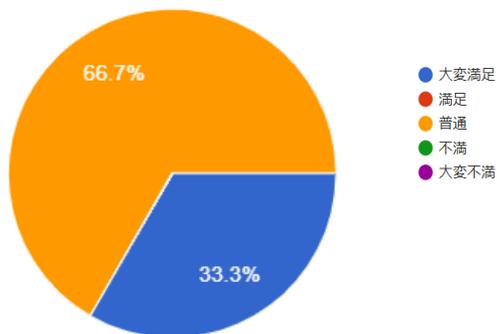
今回のツアー全体の満足度を教えてください。

3件の回答



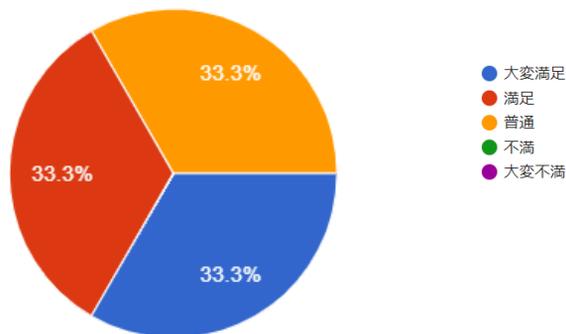
集合場所のわかりやすさについての感想を教えてください

3件の回答



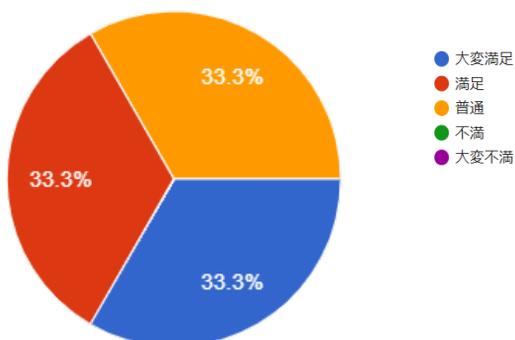
移動手段の快適さについての感想を教えてください

3件の回答



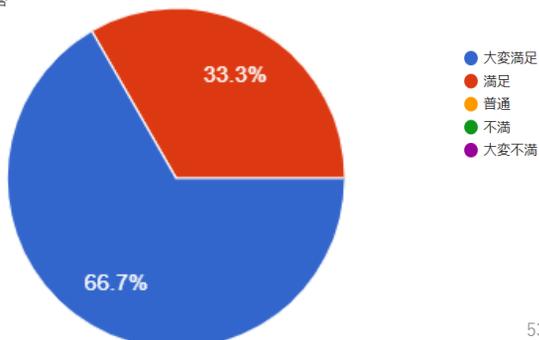
移動時間の長さについての感想を教えてください

3件の回答



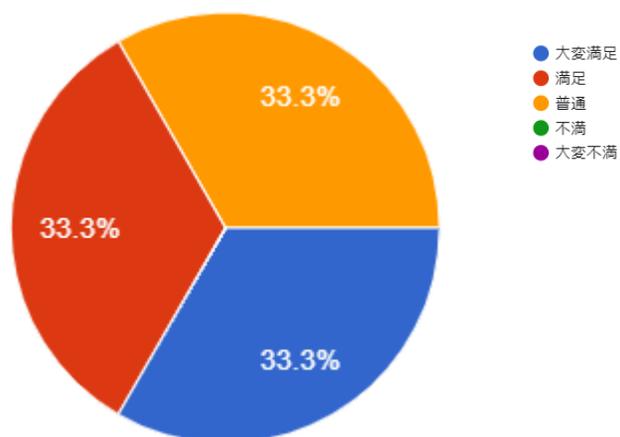
常栄寺についての感想を教えてください

3件の回答



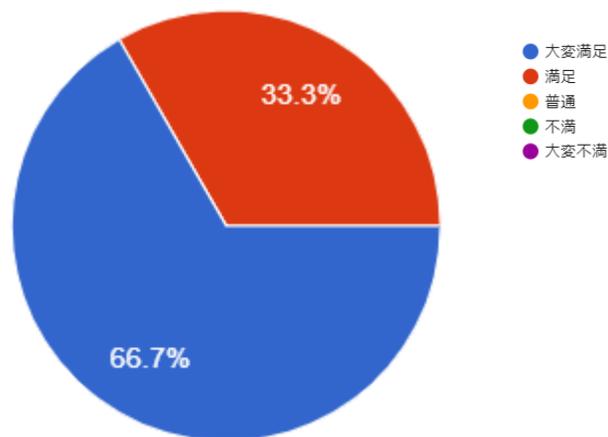
食事についての感想を教えてください

3件の回答



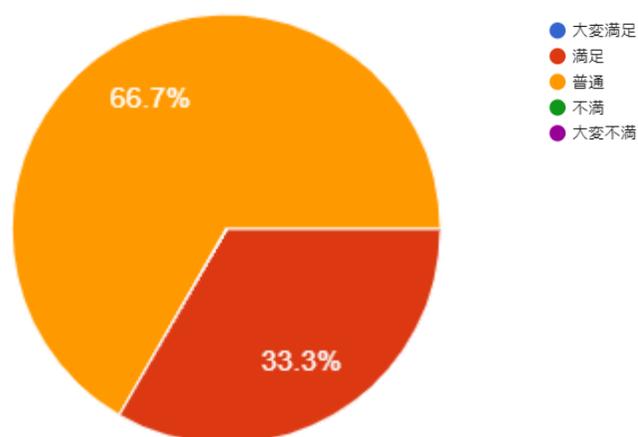
山口県立美術館についての感想を教えてください

3件の回答



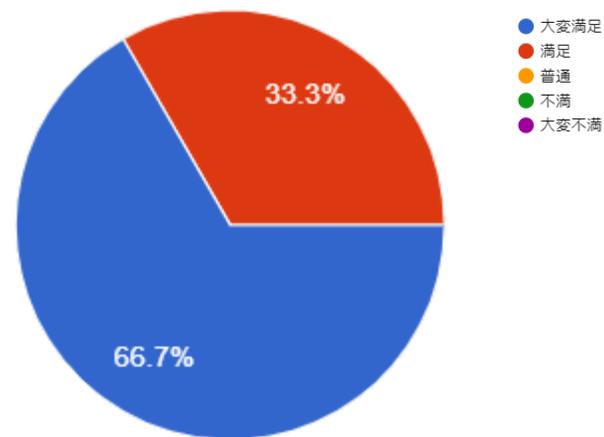
山口市内のサイクリングツアーについての感想を教えてください

3件の回答



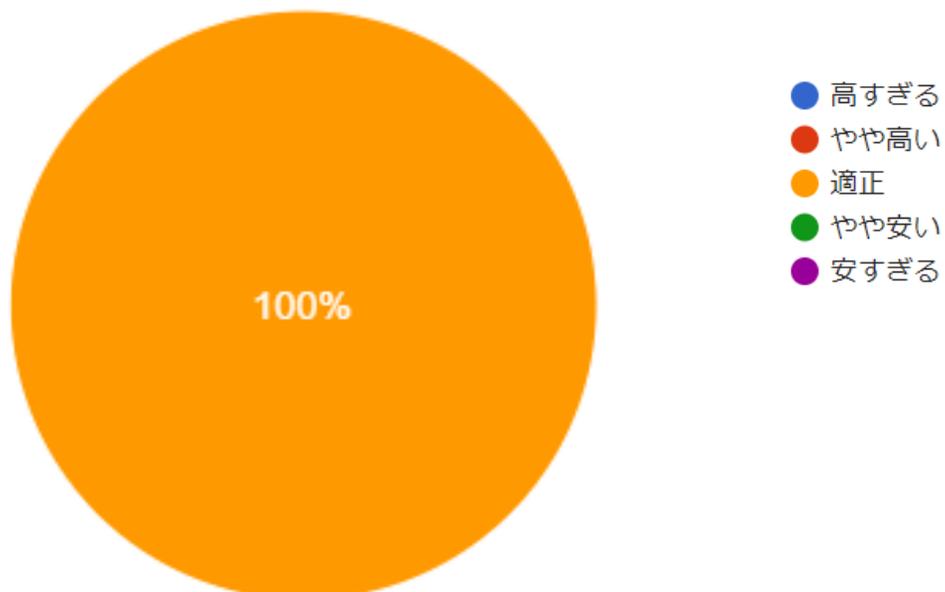
ツアーガイドについての感想を教えてください

3件の回答



今回のツアー参加費についての感想を教えてください

3件の回答



第2回目ツアーアンケート 全体の自由記述一覧

今回のツアーの感想や要望、課題などご自由にお書きください。（自由回答）

とても楽しかったです。ガイドはとてもフレンドリーで、英語を話すことができました。

よかったです。この旅行にもっと時間が取れるといいですね!

とても良かったです。良い経験になりました。自転車に乗るのは面白いです。

ガイドさんはとても親切でした。次回はもっと楽しみたいと思います。（あと2時間くらい）

自転車で行って運動できました。週末の生活体験みたいです。町の景色もよく見えますし楽しかったです。

ガイドさんの説明で雪舟および●●（解読不能）について非常に勉強になりました。

ガイドさん知識豊富でとても感じが良く楽しめました。

チャリツアー初だったので楽しかった。

①実証ツアーの実施

03 3回目ツアー

FIT 2名（国籍：スイス2名）
モニター 3名（国籍：ベネズエラ1名/インドネシア1名/イギリス1名）
観光関連事業者 4名

広島の日本酒文化を体験（西条・呉） ツアー

- ・日本三大酒どころで知られる“西条”の酒蔵見学。
- ・同じ広島県内でも瀬戸内海の芸予諸島に属する倉橋島の「呉市音戸町」に構える酒蔵見学。
- ・広島の気候の変化に応じた深い日本酒文化体験。

日程：2024年2月3日(土)
集合場所：広島駅2F JR中央口 おりづる時計前
募集人員：10名（最少催行人員：1名）
募集条件：訪日外国人旅行者の方
旅行代金：5,000円
食事条件：昼食1回
添乗員：同行します。

時間	行程
9:40	集合 広島駅 各自でお集まりください
9:50 10:30	出発 東広島市内 西条 到着
10:40 12:00 12:10 ~ 13:30	賀茂鶴酒造&福美人酒造 試飲/見学 美酒鍋のご昼食 出発
14:20	呉市内到着
14:30 15:30	榎酒造 蔵見学 出発
16:30	解散 広島駅



①実証ツアーの実施

03 3回目ツアー

チラシ作成



TOBU TOP TOURS

Sake Discovery Tour in the Climates of Hiroshima

Tour Outline
 This tour will provide visitors with an opportunity to experience the deep-rooted sake culture of Hiroshima. Participants will visit two seasonal breweries, each offering a unique window into the region's sake-making traditions. First, explore Saijo, one of Japan's three major sake brewing centers, and then journey to a quiet brewery in Onodo, Kurashiki-jima Island, part of the Seto Inland Sea's Geiyo Islands.
 In Saijo, we will visit the Kamotsuru Sake Brewery for a tour and sake tasting. This brewery is renowned for its specialty, Tokusai Hataimasa, the sake that former Prime Minister Abe shared with former President Barack Obama during his visit to Japan. Afterward, we will continue on for a tour and sake tasting at Fukubijin, which was founded in 1917 by a group of volunteer sake brewers from around the country. This unique spot boasts the tallest chimney on Sakaura-dori Street at 27 meters tall.
 In Onodo, Kure, we will visit Enoki Sake Brewery, which is said to be the first sake brewery in Japan to have produced a variety of sake known as Kijo-shu. There, we will enjoy another tour and sake tasting experience.

Saturday February 3, 2024
 meet at 9:40 a.m., depart at 9:50 a.m., return at 16:30 p.m.

How to apply
 Application Form
 OR Please apply directly to the tour conductor at the meeting place on 3rd Feb.
 The trip fee will be collected at Hiroshima Station on the day of the trip.

Entry <https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeT40Isitz-5Y6LU8wtl28AZIXkx0c8DLkx7zvlZV30BVvQ/viewform>
 inquiry: TOBU TOP TOURS Hiroshima Branch

QR Code

Saijo Sake Breweries

Sake brewing in Saijo, Backstory
 Saijo's sake brewing history dates back to 1675 when Hironori Tadamasu, the second son of warlord Shima Sakon, fled to Saijo. Aki-gun after the Battle of Sekigahara. His grandson, Hatakebe Hataimasa, established a sake brewery there, marking the beginning of Saijo—a long-standing tradition in sake making.

Originally, sake was solely an offering to the gods of agriculture, but in the 17th century, its production expanded throughout Japan, transforming it into a luxury beverage. The cold brewing process, ideal in Saijo's climate, involves slow fermentation during winter, producing a milder flavored sake. Despite the perfect conditions of climate, pure water, and delicious rice, Saijo didn't gain fame as one of Japan's three major sake brewing regions until the mid-Meiji period.

This rise in prominence coincided with the spread of the Ginjo-zukuri brewing method, developed by Senzaburo Miura, known as "the father of Ginjo-shu". However, Saijo's soft water posed challenges, being initially unsuitable for sake brewing. Senzaburo's innovative approach involved fully maturing the koji to enhance rice saccharification, enabling the production of sake that accentuates rice's rich flavor and aroma despite the soft water.

Today, Saijo stands alongside Nada in Hyogo and Fushimi in Kyoto as a major sake brewing area. It boasts nine dynamic breweries, each echoing with the dedication of toji (master brewers). These breweries are distinguished by their white or namako walls, a traditional Japanese style featuring plastered geometrical patterns resembling sea cucumbers (namako in Japanese) at the tile joints. The striking red brick chimneys, iconic symbols of sake breweries, punctuate the blue sky, adding to Saijo's enchanting atmosphere.

Enoki Brewery in Onodo, Kure

Kure City, set against the tranquil backdrop of the Seto Inland Sea, offers a contrasting sake experience with its varied breweries. Notably, Enoki Brewery stands out for producing sake that embodies the Seto Inland Sea's climate. This brewery is credited with creating Kijo-shu, a unique variety of sake. Despite being in a warmer region, Enoki Brewery leverages Onodo's pristine water and innovative cooling techniques to match the quality of sake from Japan's cooler areas. Kijo-shu, an exceptional sake, made using finished sake instead of water, resulting in an amber hue, thick, smooth texture, and a sweet, rich aroma that lingers delightfully. Its unique sweetness, potency, and refreshing finish set it apart. Hana Hato Kijo-shu, a long-standing product of the brewery, has gained global acclaim, consistently winning gold in the International Wine Challenge (IWC) since 2008. This recognition underscores its exquisite taste and quality, cherished by connoisseurs worldwide.

Schedule	
9:40	Hiroshima Station
9:50	Depart
10:30	Arrival at Higashihiroshima Saijo
10:40	Kamotsuru Brewery & Fukubito Brewery Tasting/Tour
13:30	Lunch Depart
14:20	Arrival at Kure city
14:30	Enoki Brewery
15:30	Depart
16:30	Dismissal at Hiroshima Sta.

JR Hiroshima Station



Meeting Place
 In front of "Orizuru" clock outside Central Gate on 2nd floor (2F) of JR Hiroshima Station (9:40 a.m.)

Cost

¥5,000

Items included in the above tour fee: Charter bus fee (Tsubame Kotsu) · Guide fee · Packed lunch · Cost of accompanying tour guide. Items not included in the above tour fee: Meals not listed in the itinerary · Personal expenses such as souvenirs, etc.

Contact

TOBU TOP TOURS Co.,LTD. HIROSHIMA Branch
 6-11 Hondori Naka-ku Hiroshima-city Hiroshima
 730-0035 Japan
 TEL : 050-9002-5442 FAX : 082-542-1333
 Mail : yuki.nakanoto@tobutoptours.co.jp

03 3回目・4回目ツアー

LIVEJAPAN掲載



Sake Discovery Tour in the Climates of Hiroshima

Date published: 25 January 2024



(Photo courtesy of Higashihiroshima City Tourism Association)

Sake Discovery Tour in the Climates of Hiroshima offers a journey through the rich tapestry of Hiroshima's sake culture. From the historic breweries of Saijo, with their deep-rooted traditions and adaptation to soft water, to the innovative techniques of Enoki Brewery in Kure City, facing the tranquil Seto Inland Sea. This 1-day tour offers a glimpse into how diverse climates within Hiroshima shape the distinct flavors of sake. Discover the contrasting sake brewing methods and the unique varieties like Kijo-shu, renowned for its rich taste and international acclaim.

*This article includes advertising content.

Tour Outline

- This tour will provide visitors with an opportunity to experience the deep-rooted sake culture of Hiroshima. Participants will visit two exceptional breweries, each offering a unique window into the region's sake-making traditions. First, explore Saijo, one of Japan's three major sake brewing centers, and then journey to a quaint brewery in Ondo on Kurahashi-jima Island, part of the scenic Seto Inland Sea's Geiyo Islands.
- In Saijo, we will visit the Kamotsuru Sake Brewery for a tour and sake tasting. This brewery is renowned for its Daiginjo Tokusai Gold Kamotsuru, the sake that former Prime Minister Abe shared with former President Barack Obama during his visit to Japan. Afterward, we will continue on for a tour and sake tasting at Fukiujin, which was founded in 1917 by a group of volunteer sake brewers from around the country. This unique spot boasts the tallest chimney on Sakagura-dori Street at 27 meters tall.
- In Ondo, Kure, we will visit Enoki Sake Brewery, which is said to be the first sake brewery in Japan to have produced a variety of sake known as Kijo-shu. There, we will enjoy another tour and sake tasting experience.

Saijo Sake Breweries



(Photo courtesy of Higashihiroshima City Tourism Association)

Sake Brewing in Saijo: Backstory

Saijo's sake brewing history dates back to 1675 when Hikotaro Tadamasu, the second son of warlord Shima Sakon, fled to Saijo, Aki-gun after the Battle of Sekigahara. His grandson, Rokurobe Harumasa, established a sake brewery there, marking the beginning of Saijo's long-standing tradition in sake making.

Originally, sake was solely an offering to the gods of agriculture, but in the 17th century, its production expanded throughout Japan, transforming it into a luxury beverage. The cold brewing process, ideal in Saijo's climate, involves slow fermentation during winter, producing a milder flavored sake. Despite the perfect conditions of climate, pure water, and delicious rice, Saijo didn't gain fame as one of Japan's three major sake brewing regions until the mid-Meiji period.

This rise in prominence coincided with the spread of the Ginjo-zukuri brewing method, developed by Senzaburo Miura, known as "the father of Ginjo-shu". However, Saijo's soft

<https://livejapan.com/en/in-tokyo/in-pref-other/in-pref-hiroshima/article-a0005461/>

想定PV2,000~3,000に対して2,428PVとなっており、他の2本に比べて数値が伸びづらい結果となった。

ツアー当日の2月3日までの数値はPV : 2,350、UU : 1,932となっていることから、実施前までに多く閲覧されていた。WEB上では、企画の目新しさに欠けていたところや、打ちだしの工夫について、課題を残した結果となった。

※日本語訳

広島を気候を感じる日本酒探求ツアー

広島を風土に育まれた日本酒発見ツアーは、広島を酒文化の豊かなタペストリーを巡る旅。歴史ある西条の酒蔵の伝統と軟水への適応から、穏やかな瀬戸内海に面した呉市の榎酒造の革新的な技術まで。この1日ツアーでは、広島を多様な気候風土が日本酒の独特の風味をどのように形成しているかを垣間見ることができる。対照的な日本酒の醸造方法と、豊かな味わいと国際的な評価で有名な貴醸酒のようなユニークな品種を発見してください。

ツアー概要

- 日本三大酒どころの1つである広島を「西条」の酒蔵、瀬戸内海の芸予諸島に属する島の倉橋島の「音戸」に構える酒蔵、と、同じ広島県内でありながら、気候が違う酒蔵を巡ることで、広島を気候の変化に応じた深い日本酒文化を体験いただくツアーとなります。
- 西条では、オバマ元大統領が来日したときに 安倍元首相 と 酌み交わした 日本酒『大吟醸 特製ゴールド賀茂鶴』を取り扱う「賀茂鶴酒造」の見学・試飲。ならびに1917年に全国の酒造業者ら有志の出資で創業した、酒蔵通りにある15本の煙突の中で最も高い、27mの煙突を持つ「福美人」の見学・試飲。
- 呉の音戸では、日本で初めて貴醸酒を造ったとされる酒蔵の「榎酒造」に訪問し、見学・試飲を体験いただく。

【西条の酒造り】

起源は1675年。関ヶ原の戦いに敗れた戦国武将島左近の次男彦太郎忠正が、敗戦の悲報を聞き西走して安芸国西条にとどまり、その孫である六郎兵衛晴正が「延宝3年酒造業を創む」と文献には記されています。それまで日本酒は農耕神への供え物として存在し、今のように所かまわず飲むものではありませんでしたが、17世紀に入ると酒造りが各地で盛んになり、嗜好品としての「酒」が広まっていくこととなりました。日本酒は寒い季節に造られたものほどおいしいと言われていました。寒い時期に造られた酒は醪[もろみ]の温度が低く保たれるので、醗酵が緩やかで喉ごしまろやかな風味になります。この「寒造り」に西条の気候は最適でした。

また西条には気候だけでなく、美味しい酒に必要な米と水も整っていたのです。

そんな立地や風土、酒造りに欠かせないまろやかな水と旨い米に恵まれた西条のお酒が前述した三大銘醸地として名を馳せるようになったのは時を経た、明治の中頃に入ってからです。

安芸津の街の酒造家で「吟醸酒の父」とも呼ばれる三浦仙三郎が生み出した「吟醸造り」が全国へ杜氏たちによって広まっていったことがきっかけです。

①実証ツアーの実施

03 3回目・4回目ツアー

LIVEJAPAN掲載

water posed challenges, being initially unsuitable for sake brewing. Senzaburo's innovative approach involved fully maturing the koji to enhance rice saccharification, enabling the production of sake that accentuates rice's rich flavor and aroma despite the soft water.

Today, Saijo stands alongside Nada in Hyogo and Fushimi in Kyoto as a major sake brewing area. It boasts nine dynamic breweries, each echoing with the dedication of toji (master brewers). These breweries are distinguished by their white or namako walls, a traditional Japanese style featuring plastered geometrical patterns resembling sea cucumbers (namako in Japanese) at the tile joints. The striking red brick chimneys, iconic symbols of sake breweries, punctuate the blue sky, adding to Saijo's enchanting atmosphere.



(Photo courtesy of Higashishiroshima City Tourism Association)



Enoki Brewery in Ondo, Kure

Kure City, set against the tranquil backdrop of the Seto Inland Sea, offers a contrasting sake experience with its varied breweries. Notably, Enoki Brewery stands out for producing sake that embodies the Seto Inland Sea's climate. This brewery is credited with creating Kijo-shu, a unique variety of sake. Despite being in a warmer region, Enoki Brewery leverages Ondo's pristine water and innovative cooling techniques to match the quality of sake from Japan's cooler areas.

Kijo-shu is an exceptional sake, made using finished sake instead of water, resulting in an

※日本語訳

実際に西条の水について調べていくと、驚くべき事実と酒造りの苦勞が隠されていました。

元々西条の水も酒造りには適さない軟水で、仙三郎の酒造りは前途多難な中、どうにか軟水で美味しい酒がつかれないものかから研究したようです。

軟水では麴の餌が少なく発酵しづらいため、できるだけ麴を育てて米の糖化を進めることにより、発酵を促すばかりでなく米の豊潤な味わいと濃厚な香りを放つ酒を生み出すことに成功したのです。

西条は、三大銘醸地として兵庫の灘や京都の伏見に並び、現在、9社の蔵元が軒を連ね、杜氏たちの仕事唄が聞こえてくるような活気に溢れています。酒造の白壁やなまこ壁(土蔵などに用いられる、日本伝統の壁塗りの様式の一つ。壁面に平瓦を並べて貼り、瓦の目地(継ぎ目)に漆喰を蒲鉾形に盛り付けて塗る工法のようなもの。目地の盛り上がった形がナマコに似ていることからその名が付く。)や酒造のシンボルともいえる赤レンガの煙突が青空に映える独特の雰囲気を感じています。

【呉・音戸の酒蔵「榎酒造」】

一方で、瀬戸内海に面した呉市にもいくつかの酒蔵がありますが、その中で、特に、瀬戸内海気候らしい日本酒造りをしている酒蔵が、「榎酒造」さん。日本で初めて貴醸酒を造ったとされる酒蔵があります。温暖な地域で酒造りを行うこの蔵では、音戸の水の綺麗さを糧に、寒冷な地域にも負けないような冷やす工夫をしています。

また、貴醸酒は、水の代わりに日本酒で醸す特別な日本酒。

①実証ツアーの実施

03 3回目・4回目ツアー

LIVEJAPAN掲載

Kijo-shu is an exceptional sake, made using finished sake instead of water, resulting in an amber hue, thick, smooth texture, and a sweet, rich aroma that lingers delightfully. Its unique sweetness, potency, and refreshing finish set it apart. Hana Hato Kijo-shu, a long-standing product of the brewery, has gained global acclaim, consistently winning gold in the International Wine Challenge (IWC) since 2008. This recognition underscores its exquisite taste and quality, cherished by connoisseurs worldwide.



※音戸第二大橋（半前）もしくは音戸大橋（奥）を渡り、榎酒造のある宮橋島へ。出典：兵市観光協会*We cross Daini Ondo Bridge (front) or Ondo Ohashi Bridge (background) to Kurashiki Island where Enoki Sake Brewery is located. (Photo: Kure Tourism Association)

Tour Date and time

Saturday, February 3, 2024

Meet at 9:40 AM

Depart at 9:50 AM

Return at 5:10 PM

Tour Fee: 5,000 yen

Items included in the above tour fee:

- ・ Charter bus fee (Tsubame Kotsu)
- ・ Guide fee
- ・ Packed lunch
- ・ Cost of accompanying tour guide

Items not included in the above tour fee:

- ・ Meals not listed in the itinerary

※日本語訳

その色は琥珀色に輝き、とろりとした飲み口で、口中では甘い風味と豊かな香りが広がる。日本酒度が-50前後と極甘であるにもかかわらず、その後口はすっきりとしているのが特徴です。先代から造り続ける貴醸酒「華鳩」は、今や世界でもそのおいしさが認められている。IWC(インターナショナル ワイン チャレンジ)古酒の部では、2008年の出場以来、出場するほとんどで金賞を受賞。

■実施日時

- ①2024年2月3日（土）集合9:40 出発9:50～17:10戻り
- ②2024年2月7日（水）集合9:40 出発9:50～17:10戻り

■金額：¥5,000円（①②各回）

（上記旅行代金に以下のものが含まれます。）

- ・ 貸切バス代（つばめ交通）
- ・ ガイド費用
- ・ 昼食1回
- ・ 添乗員1名の同行費用

〈上記旅行代金に含まれないもの〉

- ・ 日程表に記載のない食事代

①実証ツアーの実施

03 3回目ツアー

ツアー企画のポイントとプレゼンテーション

1. Sake in kanji
2. Roots of Sake
3. What is Sake made from ?
4. Sake Making



Rice cultivation comes from the mainland

Sake began to be made from rice



Sake brewing is the job of the shrine maiden.

酒 さけ
Sa Ke



What is Sake made from?

rice

water

malt

yeast



「さ sa」 was the sound that refers to deity

「け ke」 meant something to put into the mouth



????



The biggest difference between
wain making and sake making



Grapes already
contain sugar



A mysterious drink powered by spirits

In ancient times, sake brewing was the role of women.



How to make with starchy rice ?

First, we must cook the rice



Change
rice to
sugar

「酒」を学ぶ

～酒の成り立ちと文化・つくりかた～

漢字の「酒」平仮名の「さけ」を用い、日本における酒の意味の説明を行い、酒の原料である米について、また、米が酒になる手順についての説明をした。

①実証ツアーの実施

03 3回目ツアー

ツアー実施

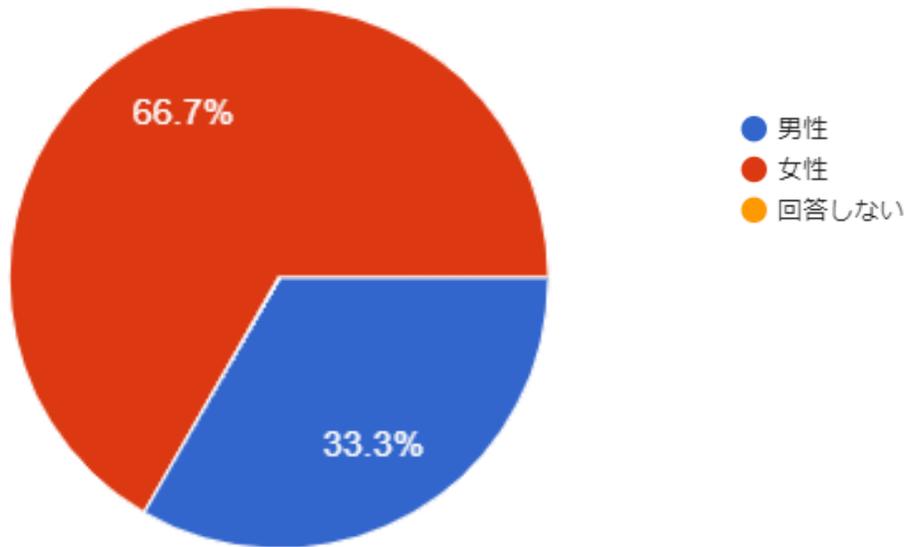


アンケート回答者属性

- 回答者数：**モニター3名**（国籍：ベネズエラ1名/インドネシア1名/イギリス1名）

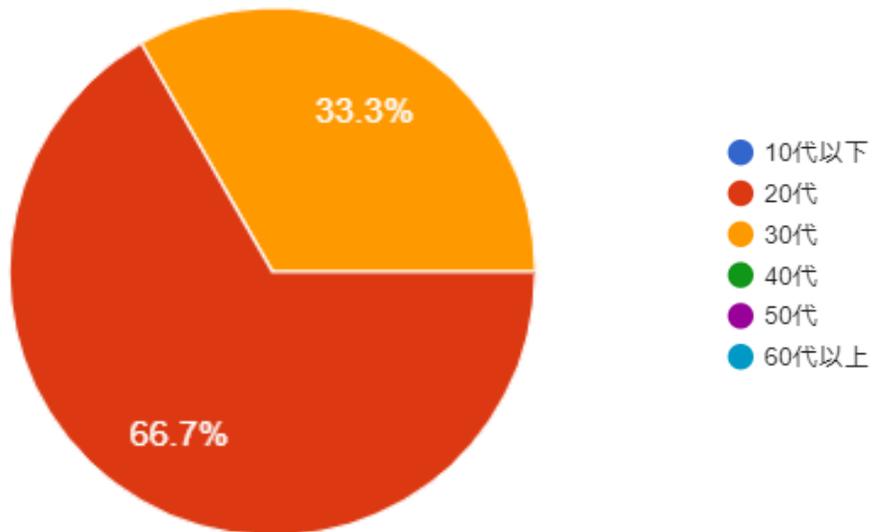
性別

3件の回答



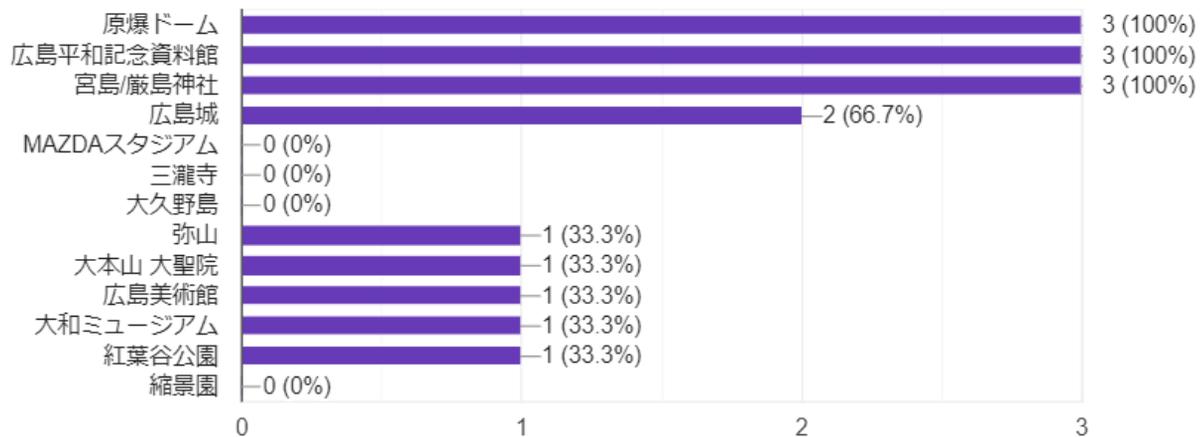
年代

3件の回答



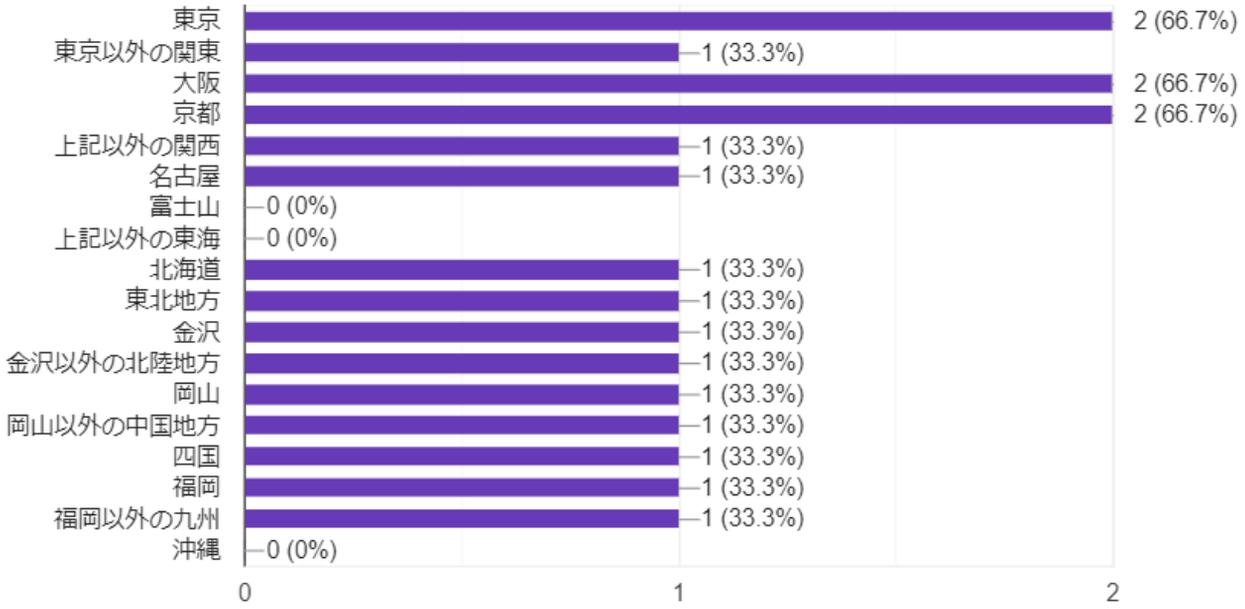
外国人旅行客におススメしたい場所について教えてください。（いくつでも）

3件の回答



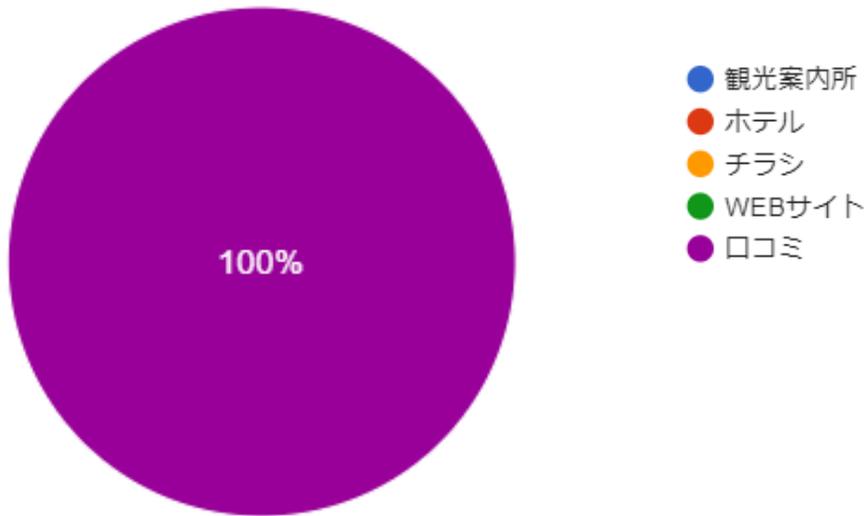
外国人旅行客におススメしたい場所について教えてください（いくつでも）

3件の回答



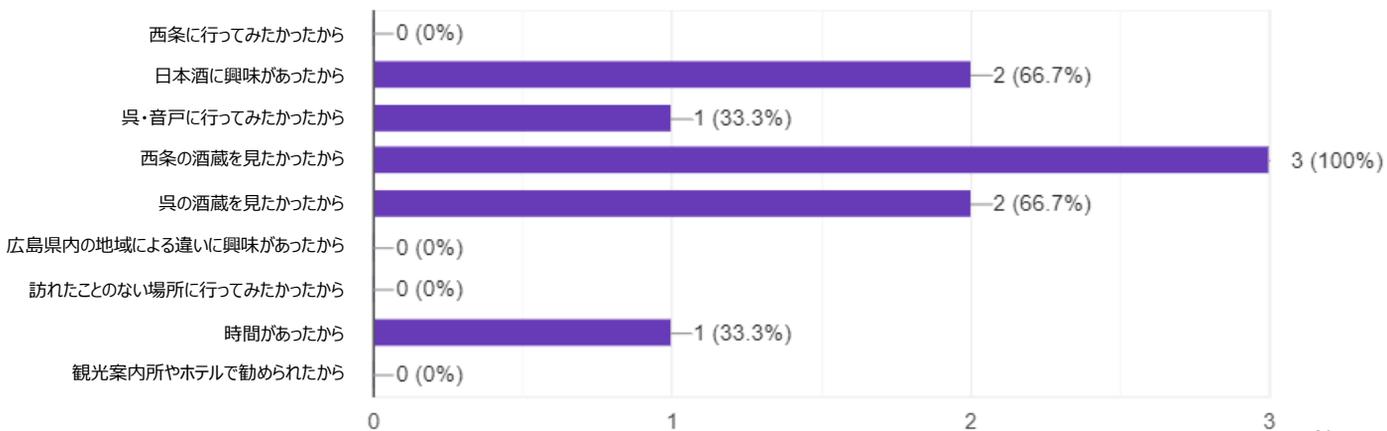
今回のツアー企画を何で知りましたか？

3件の回答



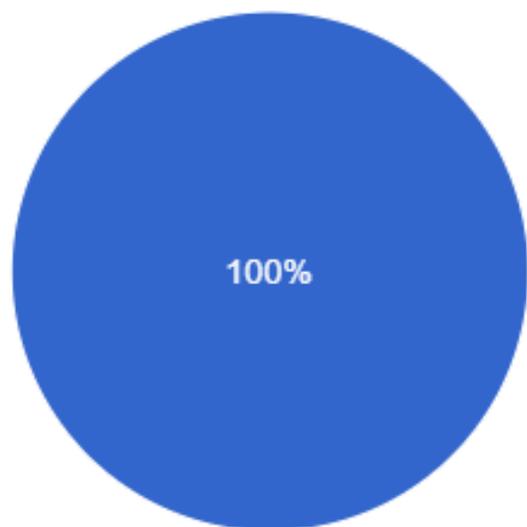
今回のツアーに参加した理由を教えてください。（いくつでも）

3件の回答



今回のツアー全体の満足度を教えてください。

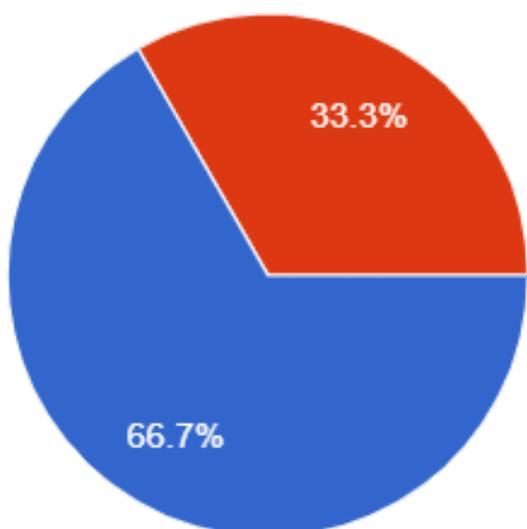
3件の回答



- 大変満足した
- まあ満足した
- あまり満足できなかった
- まったく満足できなかった

集合場所のわかりやすさについての感想を教えてください

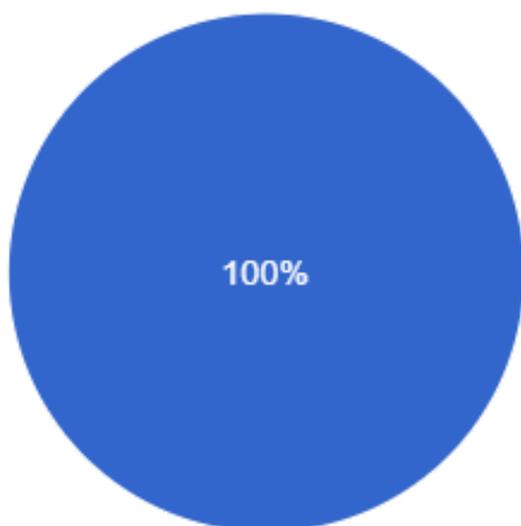
3件の回答



- 大変満足
- 満足
- 普通
- 不満
- 大変不満

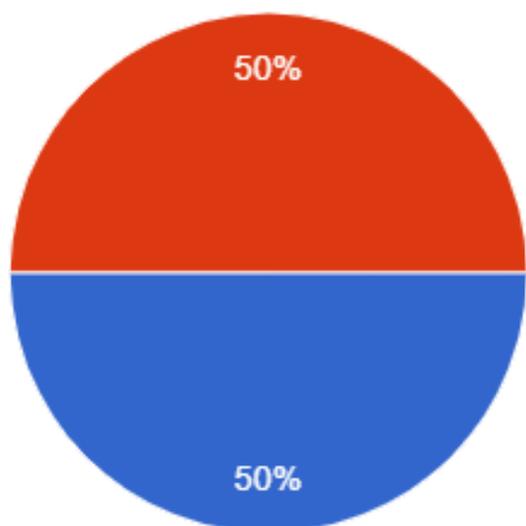
移動手段の快適さについての感想を教えてください

3件の回答



移動時間の長さについての感想を教えてください

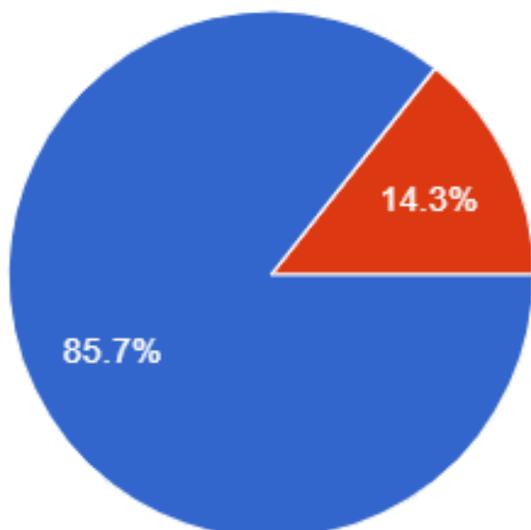
2件の回答



- 大変満足
- 満足
- 普通
- 不満
- 大変不満

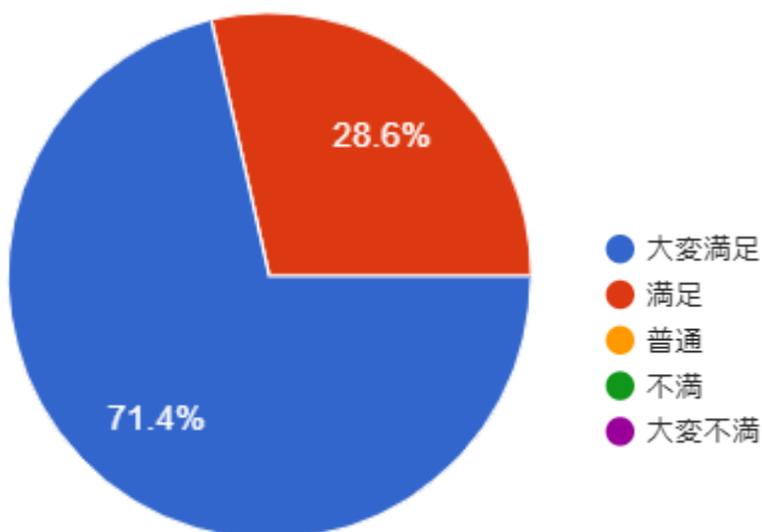
西条・加茂鶴酒造についての感想を教えてください

3件の回答



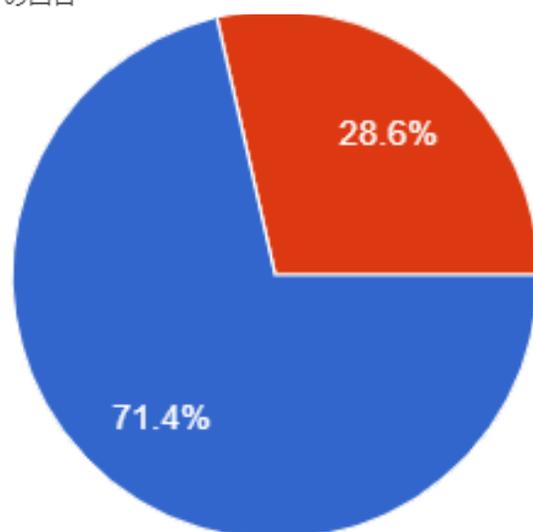
西条・福美人酒造についての感想を教えてください

2件の回答



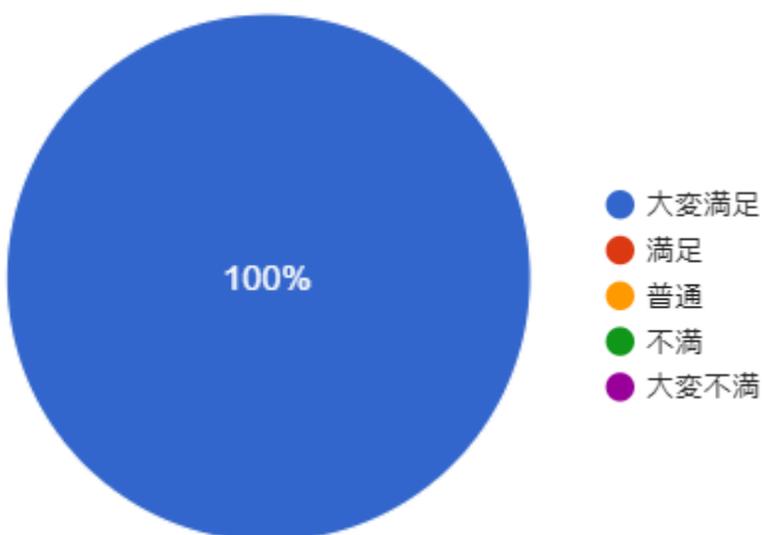
食事についての感想を教えてください

3件の回答



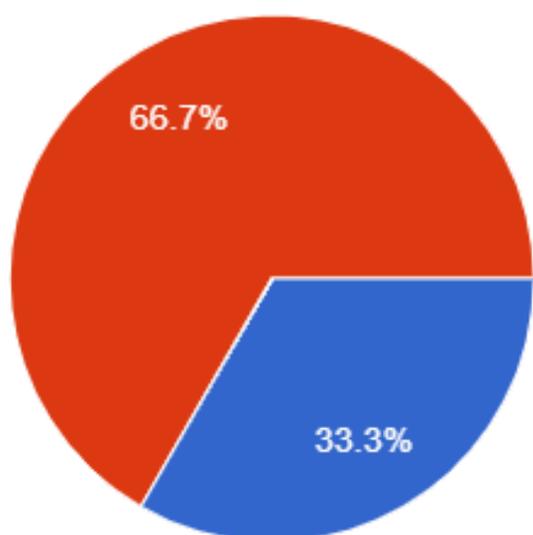
呉・榎酒造についての感想を教えてください

3件の回答



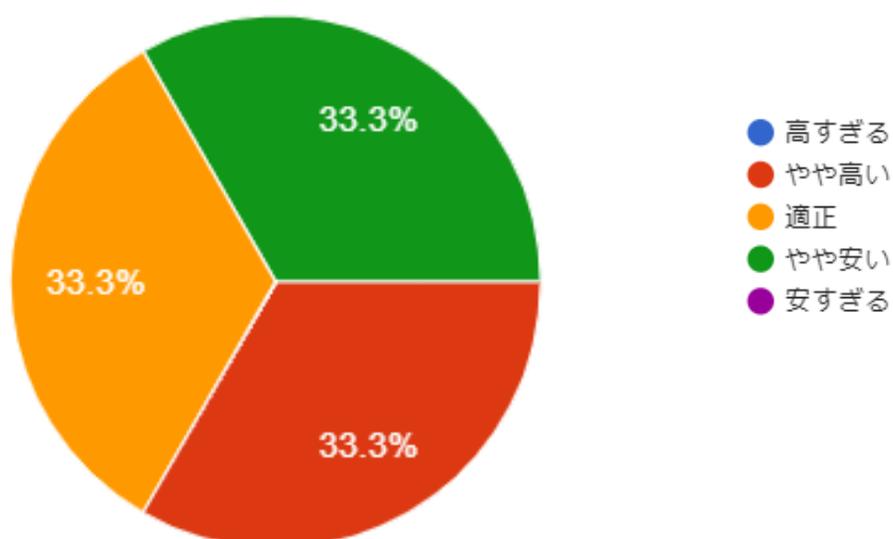
ガイドについての感想を教えてください

3件の回答



今回のツアー参加費についての感想を教えてください

3件の回答



アンケート回答者属性

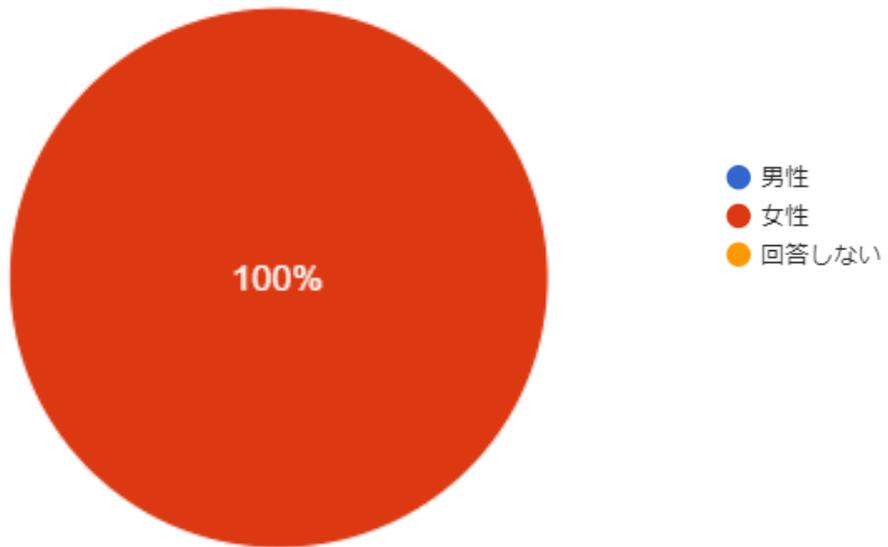
- 回答者数：**FIT 2名**（国籍：スイス 2名）
- ・性別：男性 2名 ・年代：20代 2名 ・国籍：スイス 2名 ・居住地：スイス 2名
- ・滞在日数：14日～20日未満 1名 20～30日未満 1名
- ・同行者数：1人（+自分）
- ・訪日目的 ①食・グルメ 2名 ②温泉 1名
③自然・景勝地 2名 ④繁華街の街歩き 2名
⑤美術館・博物館 2名 ⑥歴史・文化体験 2名
⑦日常生活体験 2名
- ・今回の訪日旅行で本ツアー以外に訪れた場所について教えてください
①原爆ドーム 2名 ②広島平和記念資料館 1名
③宮島/厳島神社 2名 ④広島城 1名
- ・今回の訪日旅行で本ツアー以外に訪れた場所について教えてください
①東京 2名 ②大阪 2名 ③京都 2名
④富士山 1名 ⑤岡山 2名 ⑥福岡 1名
- ・今回のツアー企画を知ったきっかけ：チラシ×2名
- ・今回のツアーに参加した理由を教えてください
①日本酒に興味があったから 2名
②訪れたことのない場所に行ってみたかったから 1名
- ・今回のツアー全体の満足度を教えてください：大変満足した 2名
- ・集合場所のわかりやすさについての感想を教えてください：大変満足 2名
- ・移動手段の快適さについての感想を教えてください：大変満足 2名
- ・移動時間の長さについての感想を教えてください：大変満足 1名 満足 1名
- ・休憩場所の快適さについての感想を教えてください：大変満足 2名
- ・西条/賀茂鶴酒造についての感想を教えてください：満足 1名 普通 1名
- ・西条・福美人酒造についての感想を教えてください：大変不満 1名 不満 1名
- ・食事についての感想を教えてください：大変満足 1名 満足 1名
- ・呉/榎酒造についての感想を教えてください：大変満足 2名
- ・ガイドについての感想を教えてください：大変満足 2名
- ・今回のツアー参加費についての感想を教えてください：やや安い 2名
- ・ツアー参加費はいくらぐらいが適正だと思いますか？：7,000円～8,000円 1名

アンケート回答者属性

- 回答者数：観光関連事業者4名

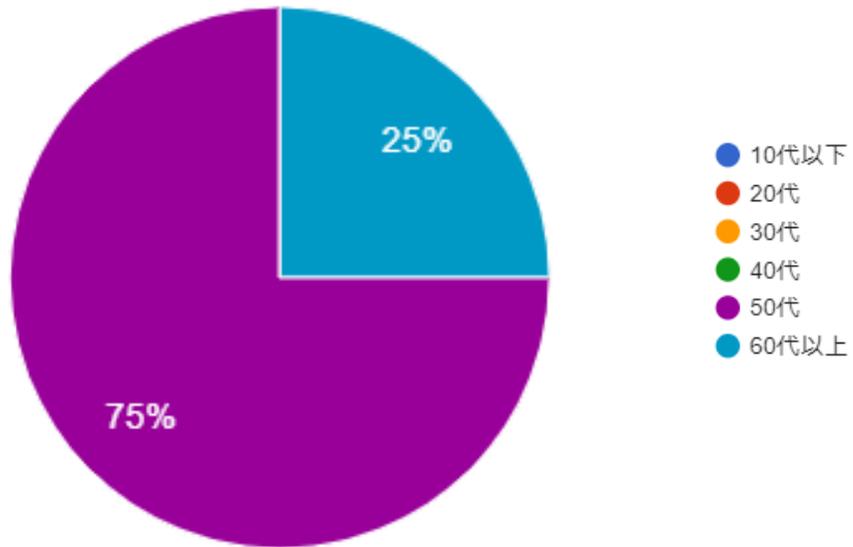
性別

4件の回答



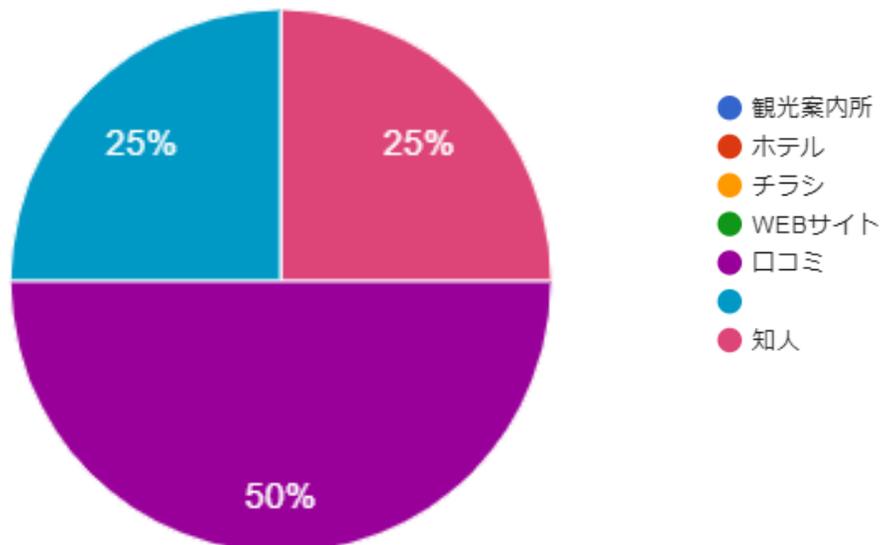
年代

4件の回答



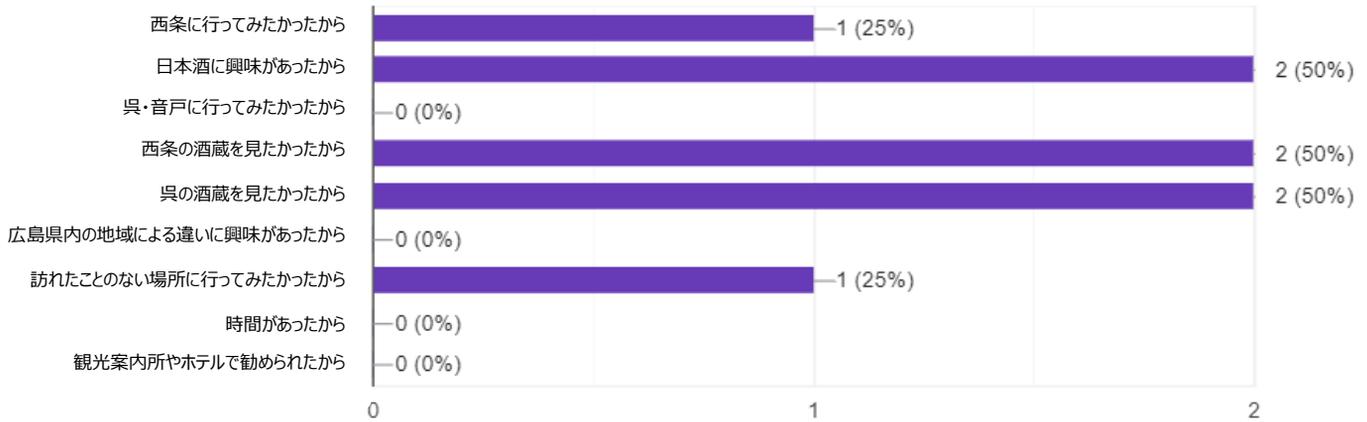
今回のツアー企画を何で知りましたか？

4件の回答



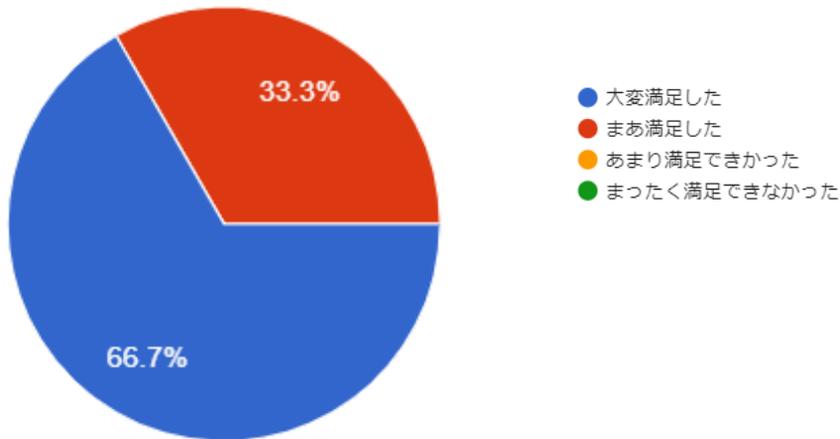
今回のツアーに参加した理由を教えてください。(いくつでも)

4件の回答



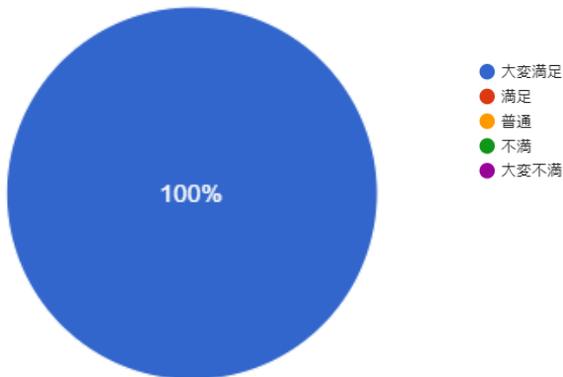
今回のツアー全体の満足度を教えてください。

3件の回答



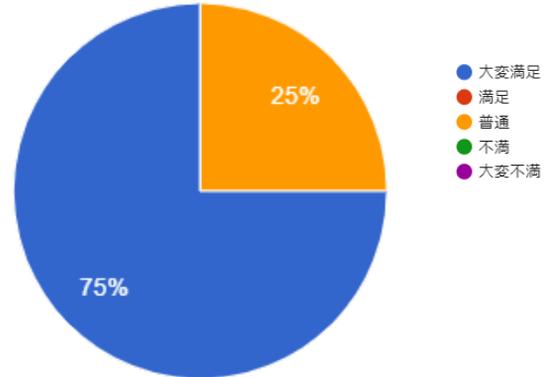
集合場所のわかりやすさについての感想を教えてください

3件の回答



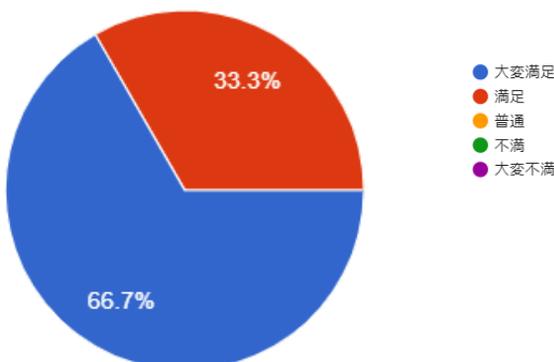
移動手段の快適さについての感想を教えてください

4件の回答



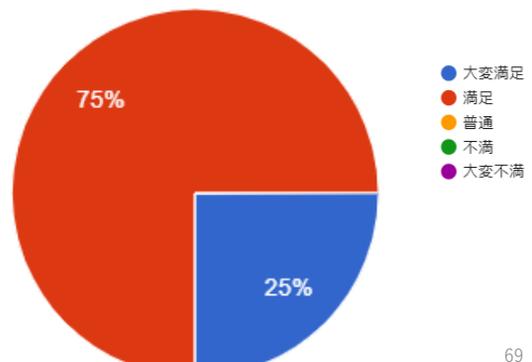
移動時間の長さについての感想を教えてください

3件の回答



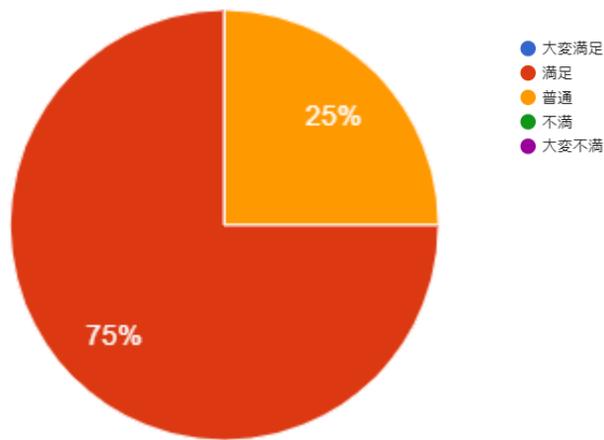
西条・加茂鶴酒造についての感想を教えてください

4件の回答



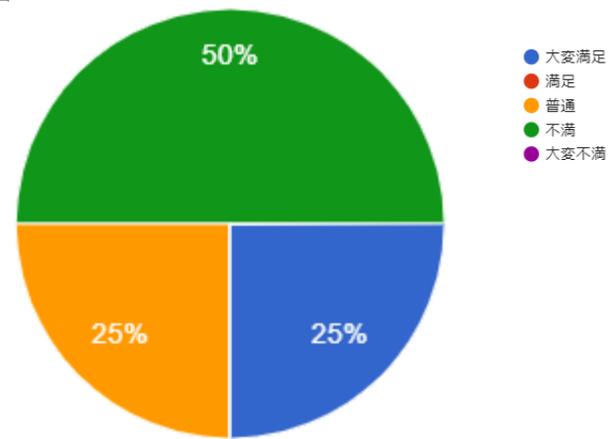
西条・福美人酒造についての感想を教えてください

4件の回答



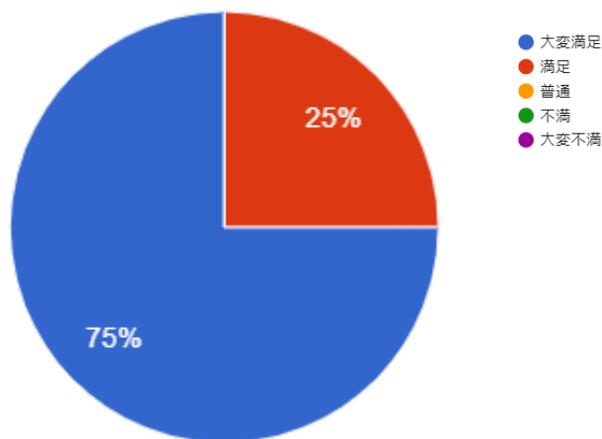
食事についての感想を教えてください

4件の回答



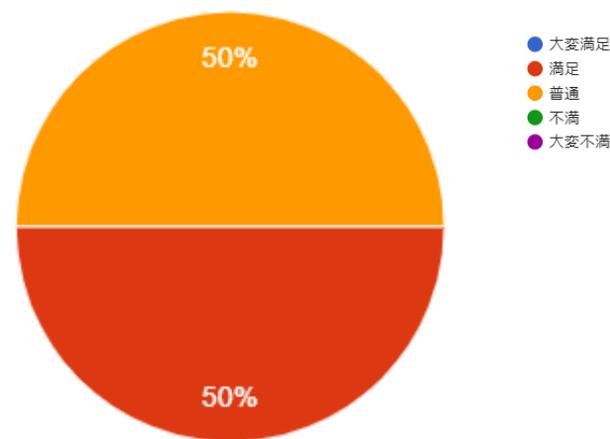
呉・榎酒造についての感想を教えてください

4件の回答



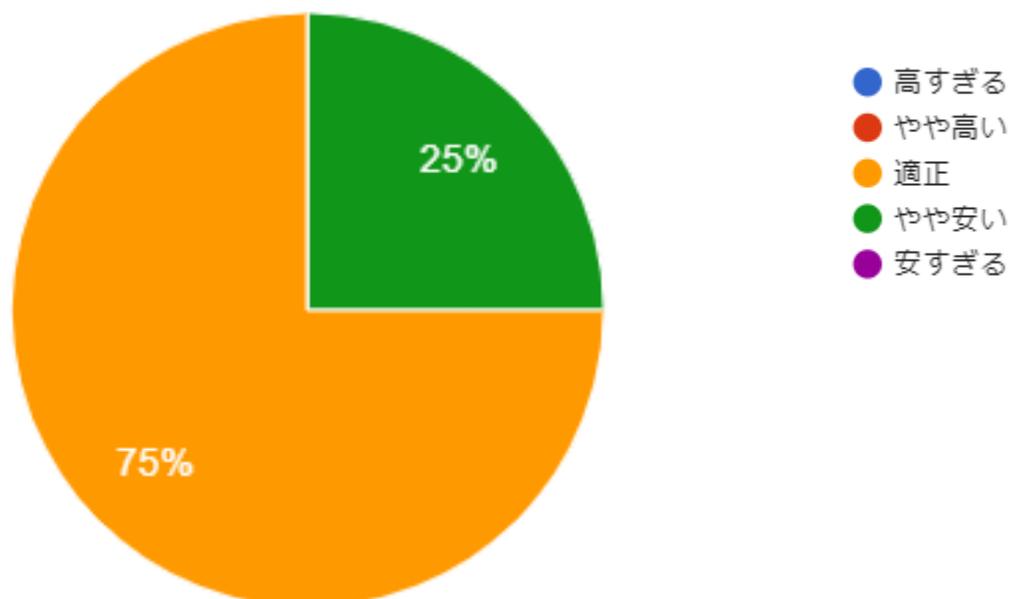
ガイドについての感想を教えてください

4件の回答



今回のツアー参加費についての感想を教えてください

4件の回答



第3回目 ツアーアンケート 全体の自由記述一覧

ツアーの参加費はいくらぐらいが適正だと思いますか？（自由回答）

- ・ 7,500円
- ・ 7,000 – 8,000円

ツアー参加理由（自由回答）

西条のような有名所ではない日本の地に根ざした呉の酒造を拝見したかった。
あたたかい対応と細やかな酒造りに感動しました。

今回のツアーの感想や要望、課題などご自由にお書きください。（自由回答）

ガイドはとても親切で、集合場所についても柔軟に対応してくれます。気持ち良く楽しい時間を過ごせました。ツアーもとても面白くて、日本酒についてたくさん学びました。

賀茂鶴酒造の内部を榎酒造と一緒に見学してみたいです。

英語が苦手なホスト/場所に通訳を提供します。

ショップエリアだけではなく、醸造所の中に行きたいので、最後の醸造所が一番気に入りました。

賀茂鶴と榎酒造の対照的な2つの酒造をめぐり満足するものでした。酒づくりや町などよく分かり新たなツアーとして魅力あるものでした。帰りは瀬戸内で呉の港などが見れて喜ばれていました。そういった所もガイドさんが説明していけば付加価値が上がると思います。今日は大満足でした。ありがとうございました。

西条の有名な酒造と、榎酒造という対照的な3つの酒造を訪れることができよかった。賀茂鶴さんのビデオで概略を理解し、それから個別の蔵をめぐる、という順序もよかった。ガイドについては、西条ボランティアガイドさんは、内容はよかったけれど、声が小さくて聞こえなかったのが残念。もう少し少人数のグループならともかく、10人余なので大きな声が必要。榎酒造は、蔵ツアーの通訳がいたらよかった。店の女性は英語OKでしたが。

楽しかったです。榎酒造がよかったです。ガイドの方、マスクもあるしもう少し大きな声ではっきりと話してほしかったです。食事や見学時、滞在時間、出発時間の案内があればよかったかな～と思います。でも楽しく過ごせました。ありがとうございました！

①実証ツアーの実施

04 4回目ツアー

モニター 2名 (国籍：パキスタン1名/韓国1名) (当日2名欠席 フランス・ベトナム)
観光関連事業者 4名

広島の日本酒文化を体験 (西条・呉) ツアー

- ・日本三大酒どころで知られる“西条”の酒蔵見学。
- ・同じ広島県内でも瀬戸内海の芸予諸島に属する倉橋島の「呉市音戸町」に構える酒蔵見学。
- ・広島の気候の変化に応じた深い日本酒文化体験。

日程：2024年2月7日(火)

集合場所：広島駅2F JR中央口 おりづる時計前

募集人員：10名 (最少催行人員：1名)

募集条件：訪日外国人旅行者の方

旅行代金：5,000円

食事条件：昼食1回

添乗員：同行します。

時間	行程
9:40	集合 広島駅 各自でお集まりください
9:50 10:30	出発 東広島市内 西条 到着
10:40 12:00 12:10 ~ 13:30	賀茂鶴酒造&福美人酒造 試飲/見学 美酒鍋のご昼食 出発
14:20	呉市内到着
14:30 15:30	榎酒造 蔵見学 出発
16:30	解散 広島駅



①実証ツアーの実施

04 4回目ツアー

チラシ作成



TOBU TOP TOURS

Sake Discovery Tour in the Climates of Hiroshima

Tour Outline

This tour will provide visitors with an opportunity to experience the deep-rooted sake culture of Hiroshima. Participants will visit two exceptional breweries, each offering a unique window into the region's sake-making traditions. First, explore Saijo, one of Japan's three major sake brewing centers, and then journey to a quaint brewery in Onodo on Kurahashi-jima Island, part of the scenic Seto Inland Sea's Geiyo Islands.

In Saijo, we will visit the Kamotsuru Sake Brewery for a tour and sake tasting. This brewery is renowned for its Daiginjo Tokusai Goto Kamotsuru, the sake that former Prime Minister Abe shared with former President Barack Obama during his visit to Japan. Afterward, we will continue on for a tour and sake tasting at Fukubito, which was founded in 1917 by a group of volunteer sake brewers from around the country. This unique spot boasts the tallest chimney on Sakasura-dori Street at 27 meters tall.

In Ondo, Kure, we will visit Enoki Sake Brewery, which is said to be the first sake brewery in Japan to have produced a variety of sake known as Kijo-shu. There, we will enjoy another tour and sake tasting experience.

日本酒探求
Exploration of Japanese sake
広島 in Hiroshima
広島市の日本酒文化を体験

Wednesday
February 7, 2024
meet at 9:40 a.m., depart at 9:50 a.m., return at 16:30 p.m.

How to apply
Application Form
OR Please apply directly to the tour conductor at the meeting place on 7th Feb.
The trip fee will be collected at Hiroshima Station on the day of the trip.

Entry <https://forms.gle/AaoJGVEo2QCPsQhG9>
Inquiry: TOBU TOP TOURS Hiroshima Branch

Saijo Sake Breweries

Saijo, Backstory
Saijo's brewing history dates back to 1675 when Jimasa, the second son of warlord Shima no Saito Akiyumi after the Battle of Sekigahara, founded the Enoki Brewery. In 1868, a sake brewery there, marking the birth of Saijo, a long-standing tradition in sake brewing. Saijo was solely an offering to the gods of rice, but in the 17th century, its production spread throughout Japan, transforming it into a sake. The cold brewing process, ideal in Saijo, involves slow fermentation during winter, resulting in a milder flavored sake. Despite the harsh climate, pure water, and delicious rice, Saijo gained fame as one of Japan's three major sake brewing regions until the mid-Meiji period.

Enoki Brewery in Onodo, Kure

Kure City, set against the tranquil backdrop of the Seto Inland Sea, offers a contrasting sake experience with its varied breweries. Notably, Enoki Brewery stands out for producing sake that embodies the Seto Inland Sea's climate. This brewery is credited with creating Kijo-shu, a unique variety of sake. Despite being in a warmer region, Enoki Brewery leverages Onodo's pristine water and innovative cooling techniques to match the quality of sake from Japan's cooler areas. Kijo-shu is an exceptional sake, made using finished sake instead of water, resulting in an amber hue, thick, smooth texture, and a sweet, rich aroma that lingers delightfully. Its unique sweetness, potency, and refreshing finish set it apart. Hana Hato Kijo-shu, a long-standing product of the brewery, has gained global acclaim, consistently winning gold in the International Wine Challenge (IWC) since 2008. This recognition underscores its exquisite taste and quality, cherished by connoisseurs worldwide.

This rise in prominence coincided with the spread of the Ginjō-zukuri brewing method, developed by Senzaburo Miura, known as "the father of Ginjō-shu". However, Saijo's soft water posed challenges, being initially unsuitable for sake brewing. Senzaburo's innovative approach involved fully maturing the koji to enhance rice saccharification, enabling the production of sake that accentuates rice's rich flavor and aroma despite the soft water.

Today, Saijo stands alongside Nada in Hyogo and Fushimi in Kyoto as a major sake brewing area. It boasts nine dynamic breweries, each achieving with the dedication of toji (master brewers). These breweries are distinguished by their white or namako walls, a traditional Japanese style featuring plastered geometrical patterns resembling sea cucumbers (namako in Japanese) at the tile joints. The striking red brick chimneys, iconic symbols of sake breweries, punctuate the blue sky, adding to Saijo's enchanting atmosphere.

JR Hiroshima Station



Meeting Place
In front of "Orizuru" clock outside Central Gate on 2nd floor (2F) of JR Hiroshima Station (9:40 a.m.)

Precautions
As alcohol will be consumed, this tour is not for minors (under age 20). One packed lunch will be provided during the tour.

Schedule	
9:40	Hiroshima Station
9:50	Depart
10:30	Arrival at Higashihiroshima Saijo
10:40	Kamotsuru Brewery & Fukubito Brewery Tasting/Tour
13:30	Lunch Depart
14:20	Arrival at Kure city
14:30	Enoki Brewery
15:30	Depart
16:30	Dismissal at Hiroshima Sta.

Cost

¥5,000

Items included in the above tour fee: Charter bus fee (Tsubame Kotsu) - Guide fee - Packed lunch - Cost of accompanying tour guide. Items not included in the above tour fee: Meals not listed in the itinerary - Personal expenses such as souvenirs, etc.

Contact
TOBU TOP TOURS Co.,LTD. HIROSHIMA Branch
6-11 Hondori Naka-ku Hiroshima-city Hiroshima
730-0035 Japan
TEL: 050-9002-5442 FAX: 082-542-1333
Mail: yuki.nakanoto@tobutop tours.co.jp

①実証ツアーの実施

04 4回目ツアー

ツアー実施

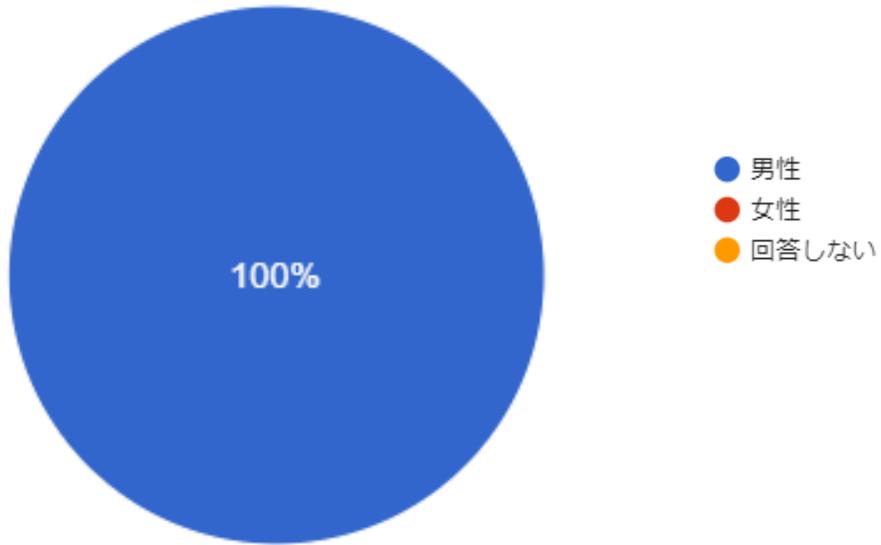


アンケート回答者属性

● 回答者数：モニター2名（国籍：パキスタン1名/韓国1名）

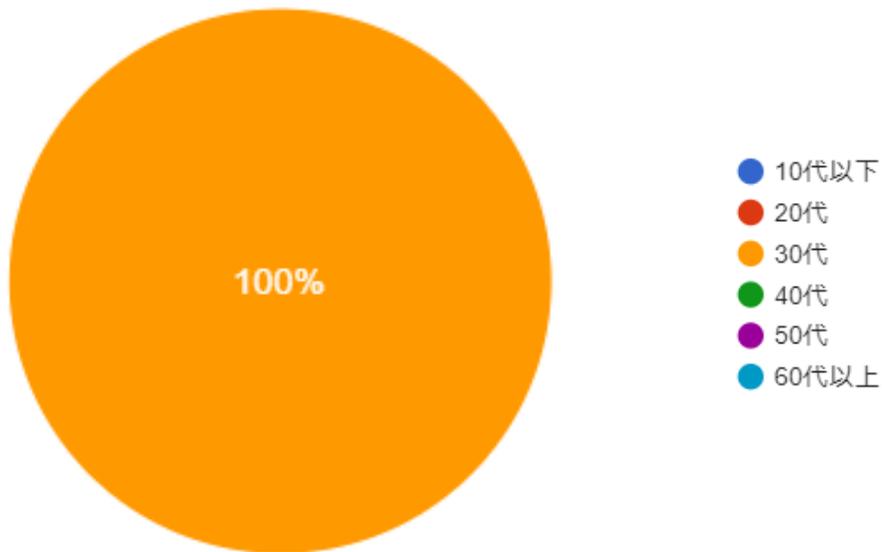
性別

2件の回答



年代

2件の回答



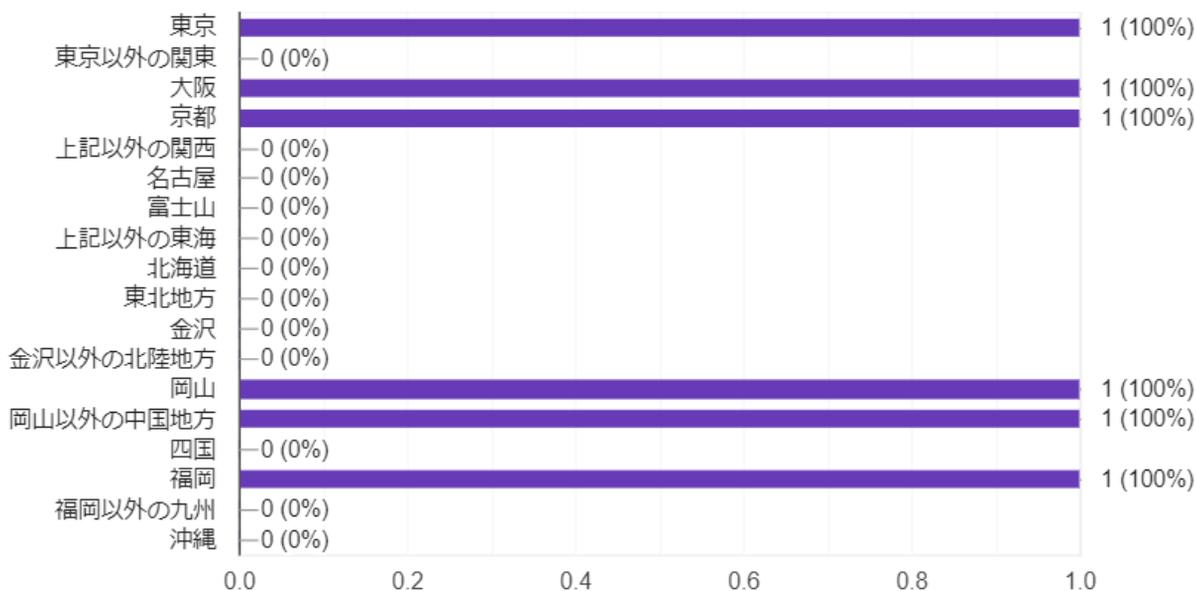
外国人旅行客におススメしたい場所について教えてください。（いくつでも）

2件の回答



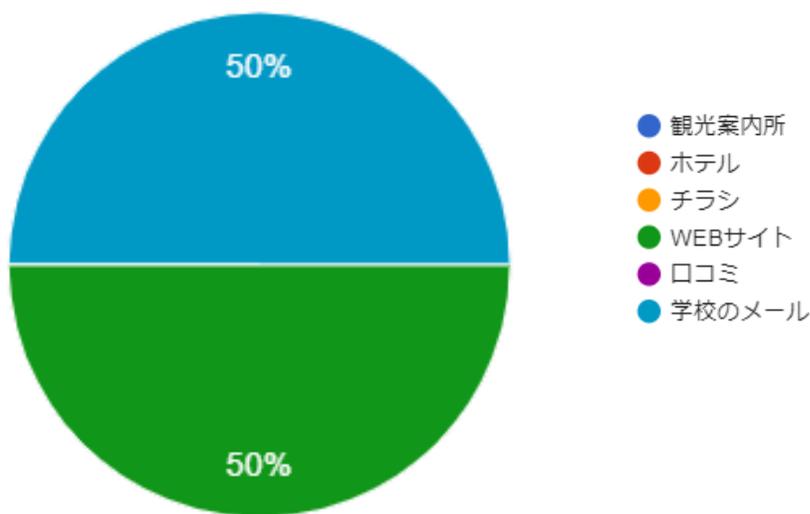
外国人旅行客におススメしたい場所について教えてください（いくつでも）

1 件の回答



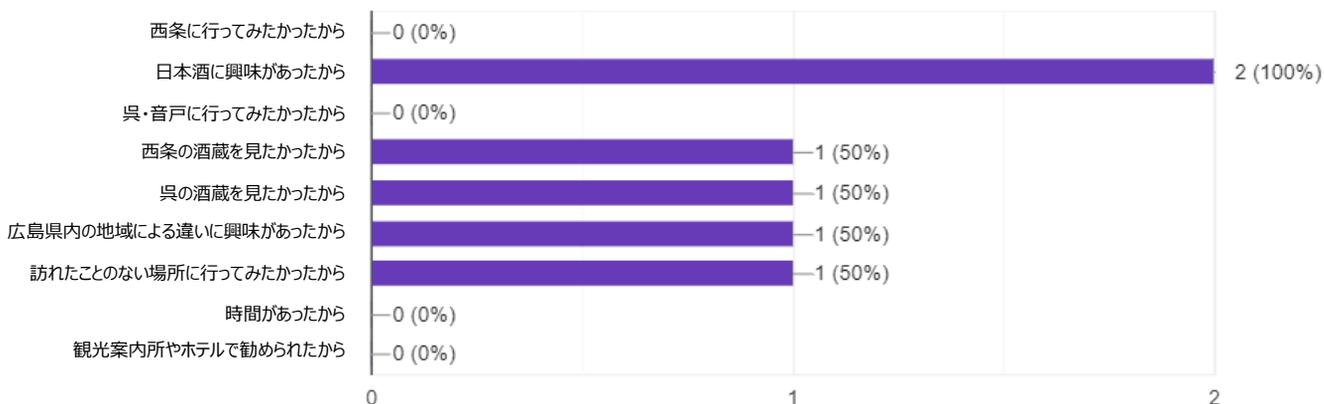
今回のツアー企画を何で知りましたか？

2 件の回答



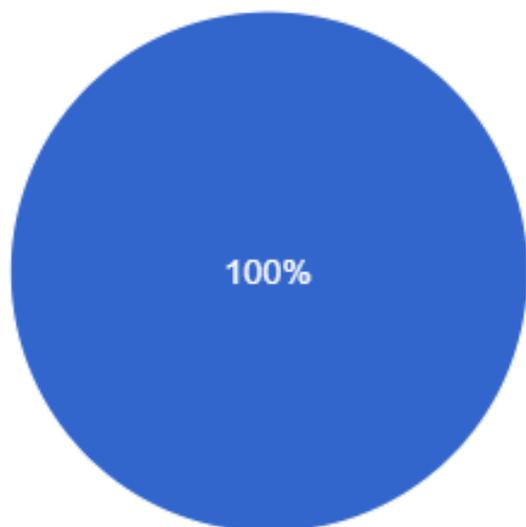
今回のツアーに参加した理由を教えてください。（いくつでも）

2 件の回答



今回のツアー全体の満足度を教えてください。

2件の回答

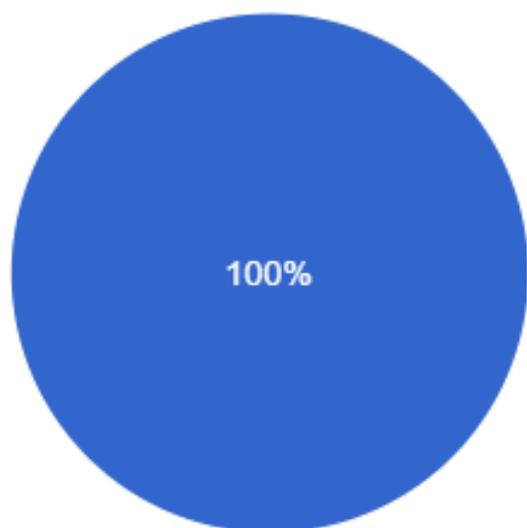


- 大変満足した
- まあ満足した
- あまり満足できなかった
- まったく満足できなかった

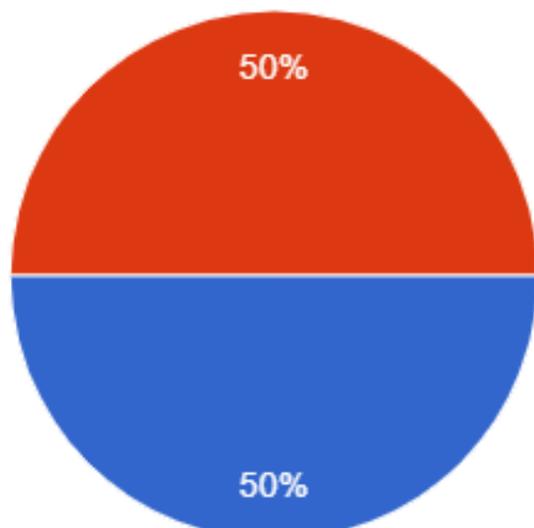
集合場所のわかりやすさについての感想を教えてください 移動手段の快適さについての感想を教えてください

2件の回答

2件の回答



- 大変満足
- 満足
- 普通
- 不満
- 大変不満

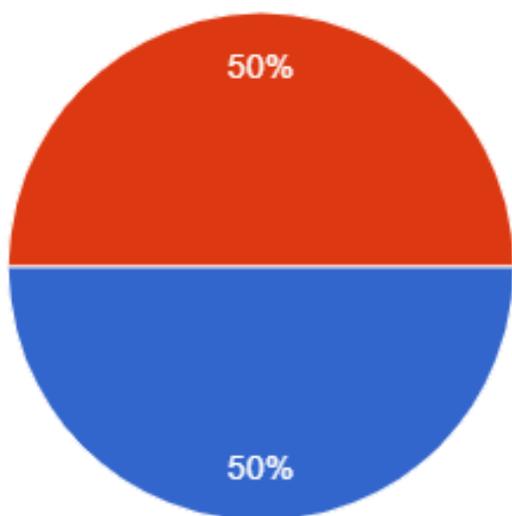


移動時間の長さについての感想を教えてください

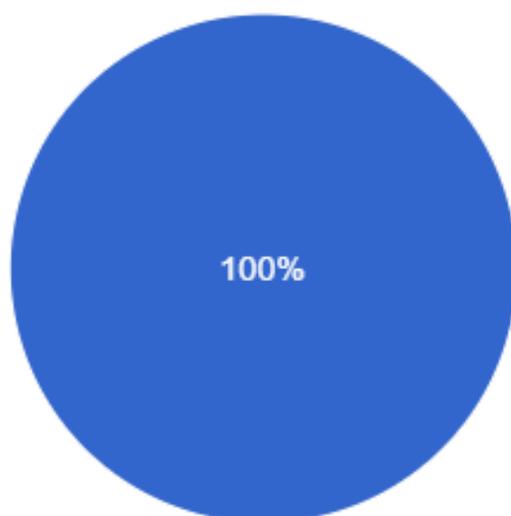
2件の回答

西条・加茂鶴酒造についての感想を教えてください

2件の回答

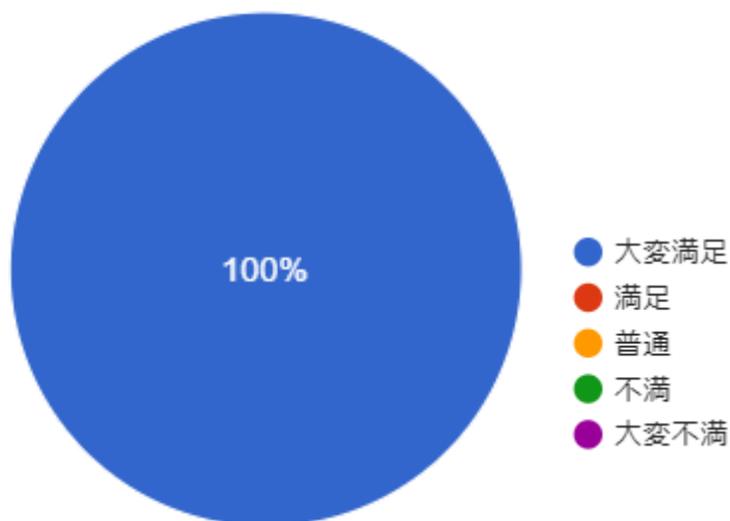


- 大変満足
- 満足
- 普通
- 不満
- 大変不満



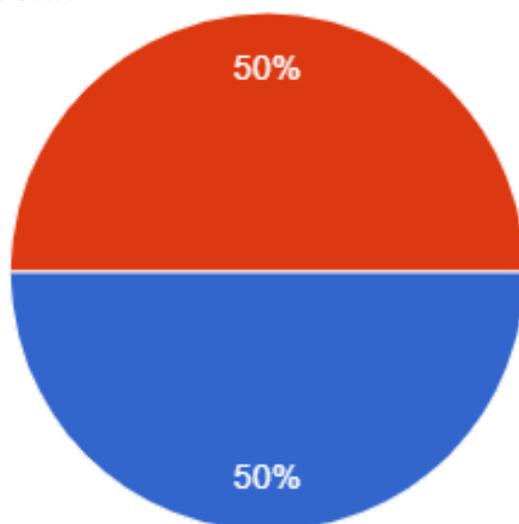
西条・福美人酒造についての感想を教えてください

2件の回答



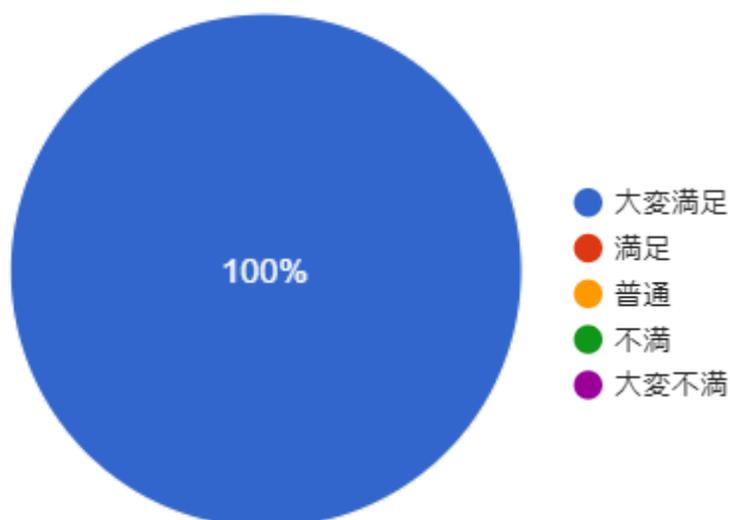
食事についての感想を教えてください

2件の回答



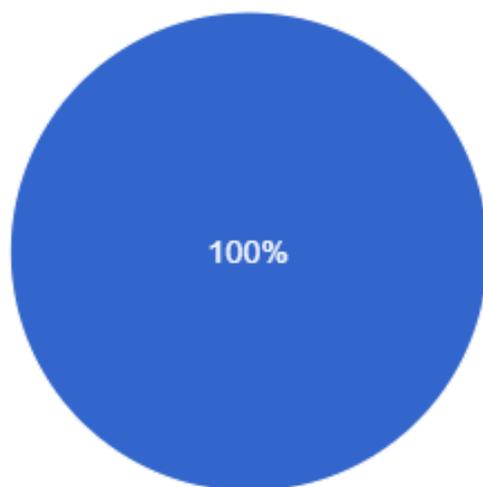
呉・榎酒造についての感想を教えてください

2件の回答



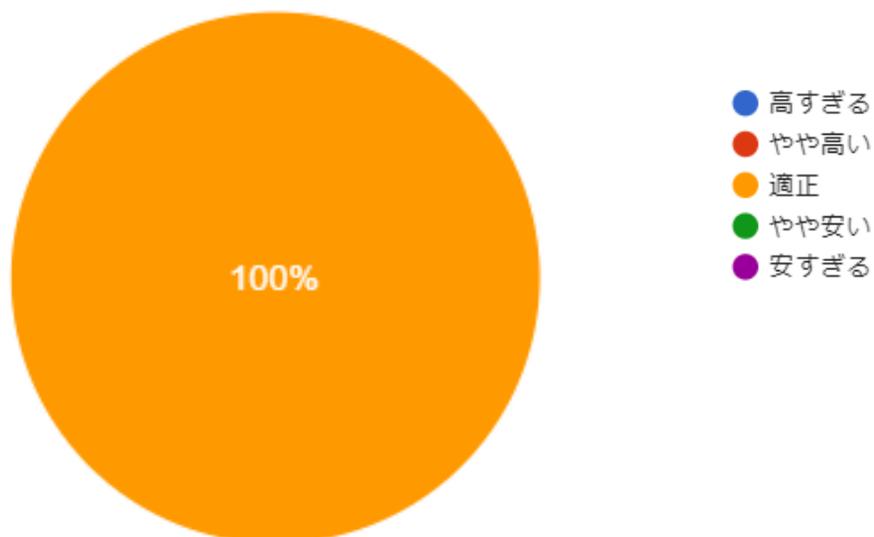
ガイドについての感想を教えてください

2件の回答



今回のツアー参加費についての感想を教えてください

2件の回答

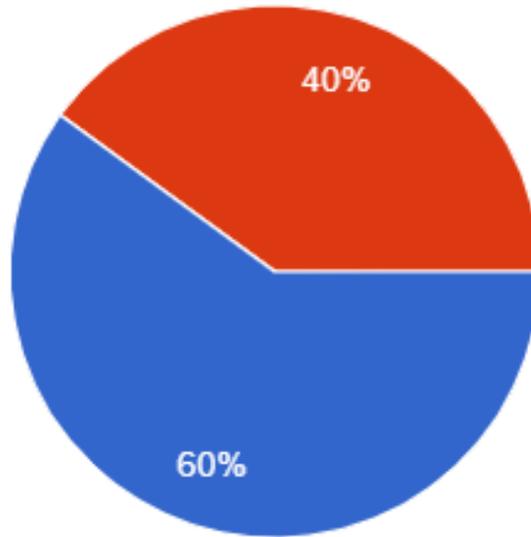


アンケート回答者属性

● 回答者数：観光関連事業者4名

性別

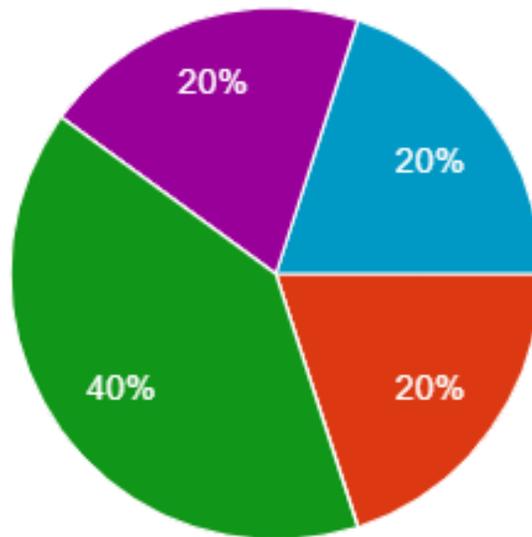
5件の回答



- 男性
- 女性
- 回答しない

年代

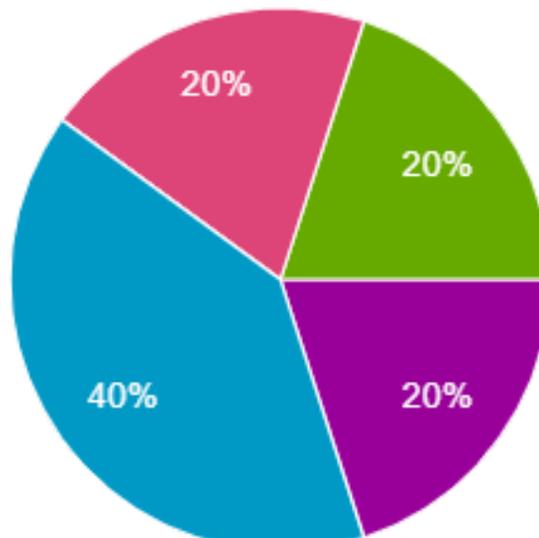
5件の回答



- 10代以下
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代以上

今回のツアー企画を何で知りましたか？

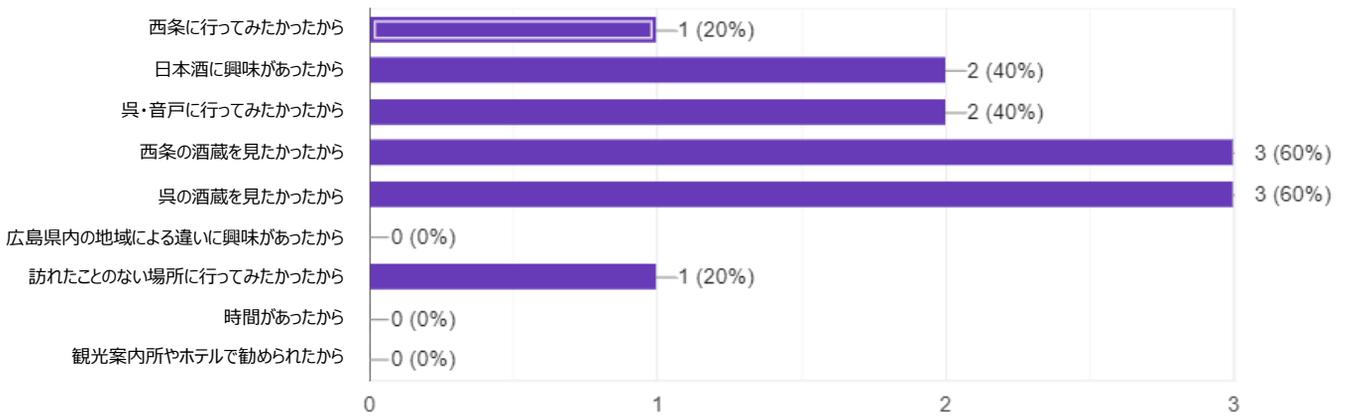
5件の回答



- 観光案内所
- ホテル
- チラシ
- WEBサイト
- 口コミ
- 紹介
- メール
- 知人

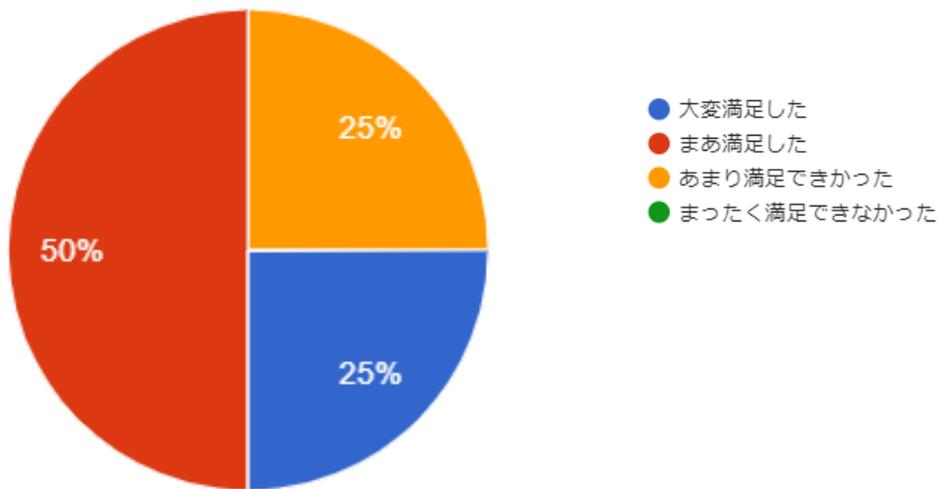
今回のツアーに参加した理由を教えてください。（いくつでも）

5件の回答



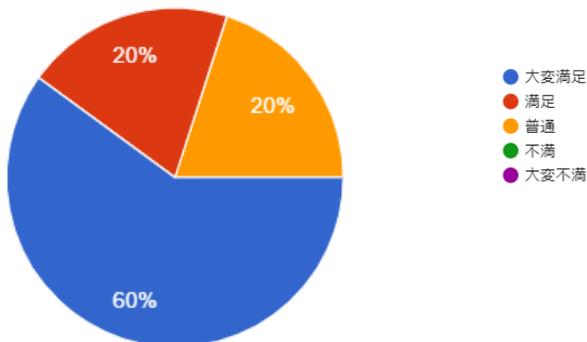
今回のツアー全体の満足度を教えてください。

4件の回答



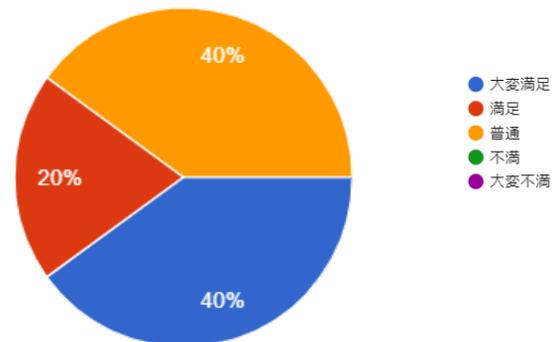
集合場所のわかりやすさについての感想を教えてください

5件の回答



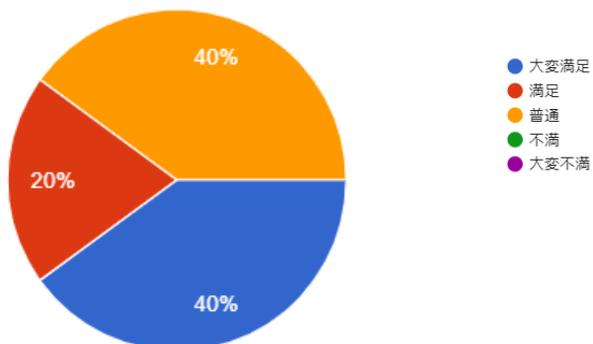
移動手段の快適さについての感想を教えてください

5件の回答



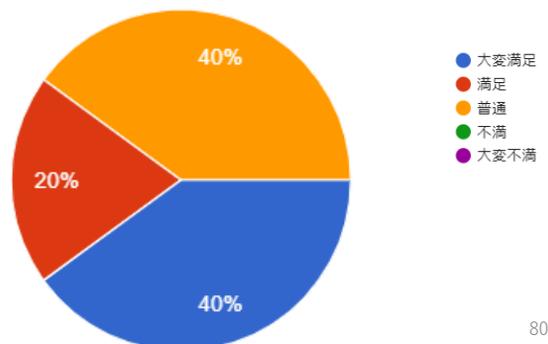
移動時間の長さについての感想を教えてください

5件の回答



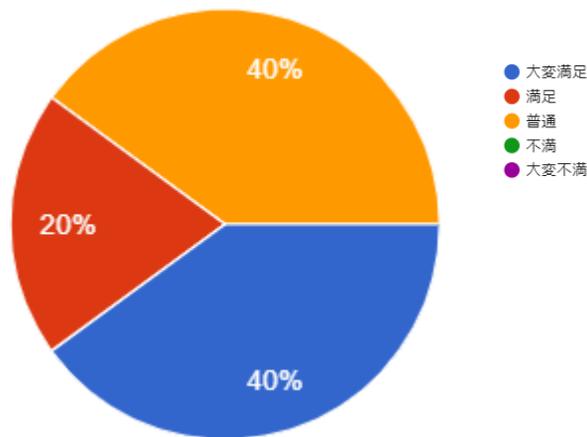
西条・加茂鶴酒造についての感想を教えてください

5件の回答



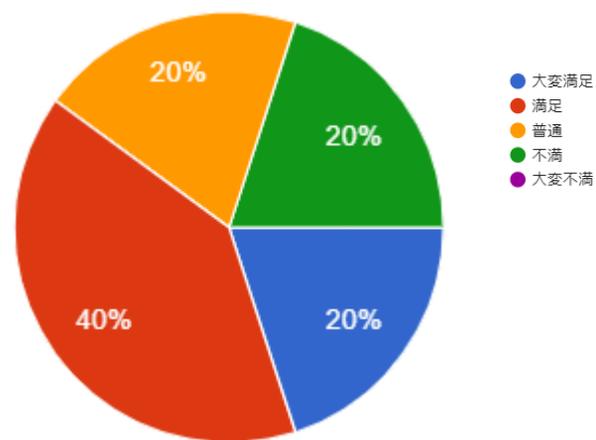
西条・福美人酒造についての感想を教えてください

5件の回答



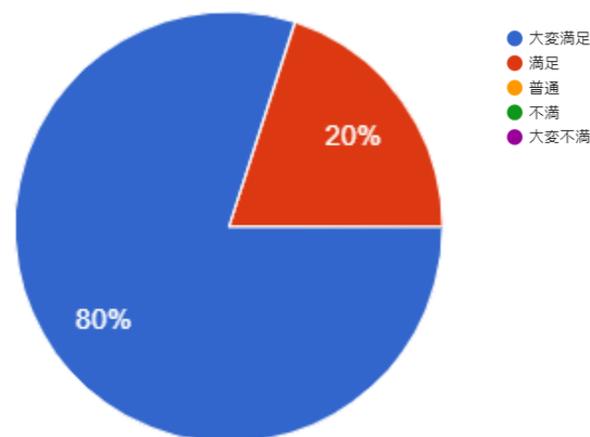
食事についての感想を教えてください

5件の回答



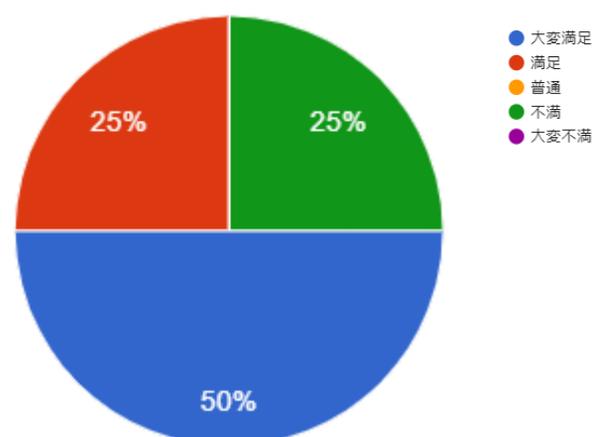
呉・榎酒造についての感想を教えてください

5件の回答



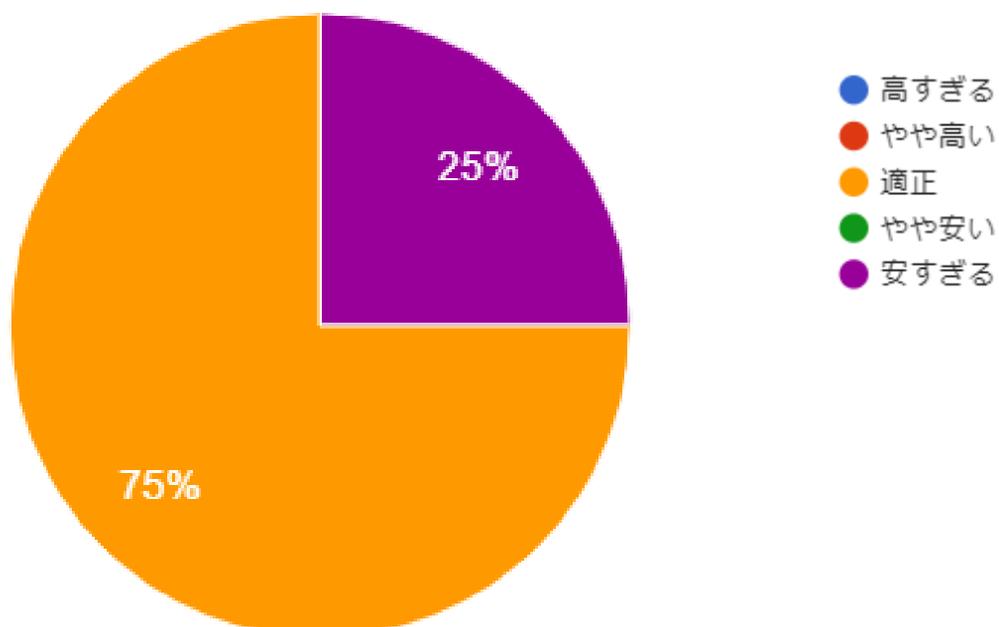
ガイドについての感想を教えてください

4件の回答



今回のツアー参加費についての感想を教えてください

4件の回答



第4回目ツアーアンケート 全体の自由記述一覧

ツアー参加理由（自由回答）

- ・ハナハトのお酒をお店で飲んだことがあり、とても興味があった。またテレビでも観て行ってみたかった。
- ・日本酒の製造過程を見てみたかった。団体客受入施設で働く者としてお客様の立場になってみたかったことと他施設での受入体制を学びたかった。
- ・榎酒造に関心があったため
- ・広島でいろんな経験をしたい
- ・日本酒ツアーに参加したいと思ったのは、日本酒を試飲したことは何度もあるのですが、日本酒がどのように造られるのか全く知らなかったからです。それが私がこのツアーに興味があり、大好きな理由です。

今回のツアーの感想や要望、課題などご自由にお書きください。（自由回答）

バス席でのガイド／説明はあった方が良い！
唯一ゆっくりと話が聞ける空間と時間だと思います。（パンフも同様に）
"Sake"ツアーなら、試飲だけでなく食事と共にとか、従業員との会話、何か体験できるとおもしろい。
ホテル宿泊者をターゲットにして、Trip+dinner/supperにすると集まる？（＝滞在日数が増える）

- ・西条と音戸の酒造での過ごし方が異なり楽しめた。
- ・西条でも、もっと試飲したかった。（もう一カ所できてもいいかも）
- ・西条のガイドさんの声が雑音で聞こえない時があった。でもガイドさんの話は勉強になった。
- ・音戸では試飲数が多くとても満足した。とてもおいしかった。
- ・とてもいいツアーだと思いました！

ツアー開始時のご説明で、インバウンドの方々がなかなか長時間滞在されないという課題をお聞きしましたが、やはり自力で西条や呉の酒蔵まで行くのはハードルが高いと感じました。従って、今回のようなツアーがあればアクセスしやすく、また専門性の高い内容でもガイドの方がいらっしゃることでより楽しむことができました。
どこにでもある工場ではなく、地域の生活感、文化も感じられるような今回のルートは日本人である私も新鮮なものでした。いつか山口でも造成していただければ幸いです。

- ・榎酒造さんは丁寧に教えてくださったと思います。
- ・特徴のある酒づくりをしている蔵元を訪ねてみたいと思いました。

日本酒を作り方から飲むまでできてよかったと思います。蒸留所（*醸造所）に留まる時間が短くて残念でした。たくさんのお酒を飲んでみて良かったですが、急いで飲んでしまって残念でした。

経験豊富な専門家から日本酒造りの豊かな歴史と繊細な味わいを巡る魅惑的な旅に出かけ、絵のように美しい風景に囲まれた伝統的な醸造所を探索し、プレミアム日本酒の種類のガイド付きテイastingを満喫しましょう。日本酒のペアリングの芸術について学び、お気に入りのビールと一緒に本格的な料理を楽しみながら、日本文化にどっぷりと浸りました。忘れられない経験のために、このようなツアーに参加することをお勧めします。ありがとうございました。

2. 業務内容

(4) 報告会の実施

概要

日帰りツアー造成によるFIT旅行者の旅ナカ動向調査事業 報告会

報告会の概要

開催日時	2024年2月20日（火） 13:15開場 13:30開始 15:00終了予定
開催場所	TKP広島本通駅前カンファレンスセンター 4階カンファレンスルーム4A
主催者名	中国運輸局（受託事業者：東武トップツアーズ株式会社）

報告会のスケジュール

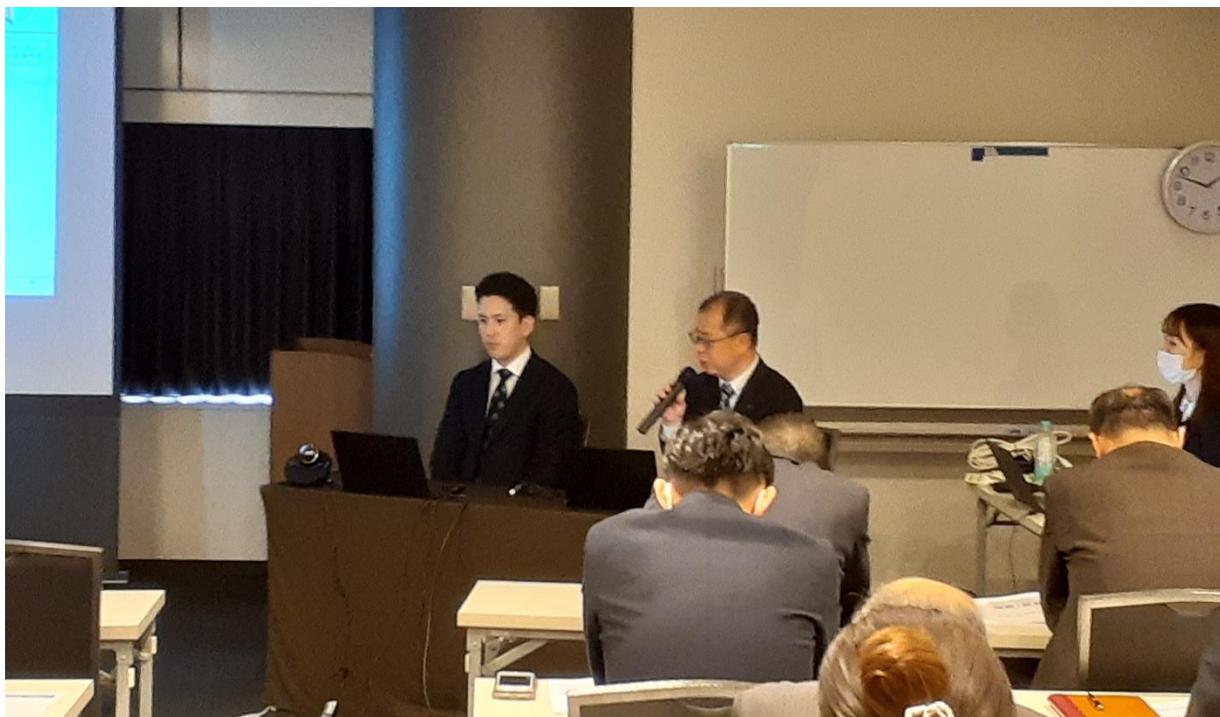
開始時刻	終了時刻	内容
13:30	13:35	主催者 挨拶
13:35	14:15	事業内容の紹介 (文献調査・宿泊事業者等への第1回～4回ツアー実施アンケート結果の紹介)
14:15	14:25	モニターツアー結果報告、結果を踏まえた課題、今後に向けて
14:25	14:45	現 株式会社NKB 欧米豪エキスパート 元 日本ミシュランタイヤ株式会社 社長室長・ガイド事業部担当 地域資源の活用・商品化のスペシャリストで、観光庁「広域周遊観光促進のための専門家派遣事業」の専門家に選定されている森田哲史による助言
14:45	15:00	質疑応答

実施会場：TKP広島本通駅前カンファレンスセンター



報告会実施

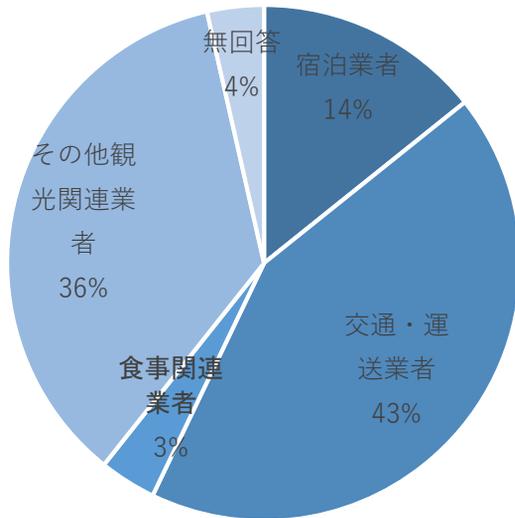
参加者：28名



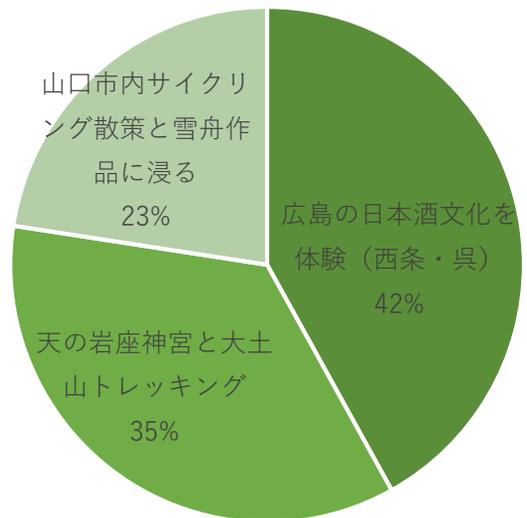
アンケート回答者属性

● 回答者数：28名

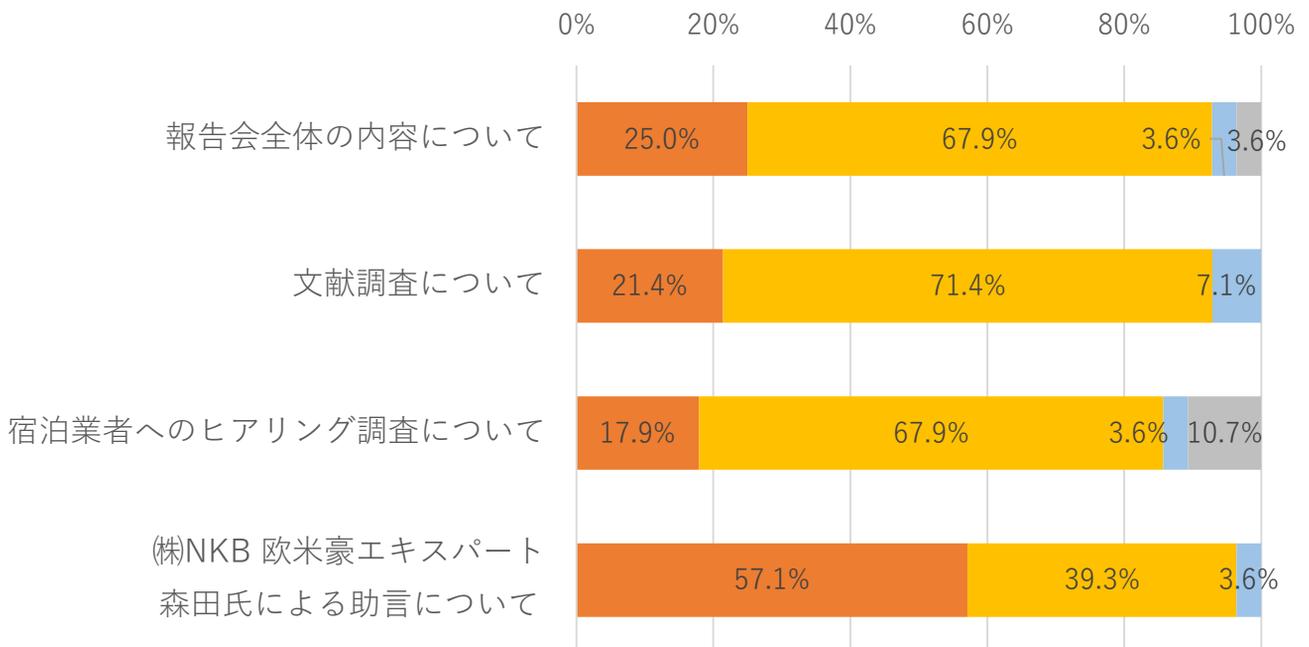
属性



実証ツアーについて：
最も興味が湧いたツアー



報告会の感想について



- Q. 中国地方を盛り上げるためにご意見がございましたらご記述お願いいたします。
その他本日の感想等ございましたらご自由にお書きください。(自由回答)

●中国地方を盛り上げるためのご意見

- ・中国五県が各県個々に観光誘致をしている。中国全体を活性化させる為に、点を線にして、五県全体と一緒に観光誘致を行うなど検討してはどうか。
- ・身近なツアーを沢山企画(楽しい、目的のある物)ガイドの育成を考えたコース設定も必要と思います。
ツアー参加者が楽しめて、案内する方も楽しめるような企画で、FITの方は自分で見学する所は決めていると思うのでツアー参加には短くて内容の濃い物を提供。
- ・2025年春開業の新広島駅ビルを活用し民間行政が協力インバウンドに対する情報提供を強化していく。
- ・外国人はその場所のスタンプを欲しがっています。(スタンプ帳を持っている人が多い)
宿、交通機関、見学施設のスタンプの充実を・・・

●その他感想等

- ・これからの日帰りツアー造成の大事さ、必要性を感じました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・今回、参加させていただき誠にありがとうございました。森田様によるととても素晴らしいプレゼンテーションでした。またこのような機会があれば是非参加したいです。
- ・(実証ツアーについて)③西条・呉の感想の違いがおもしろい。思ったとおりだった。
(感想)人と人とのふれあい=FITにはもってこい。
- ・広島観光客は欧米の方が多いいのは理解している。なぜ中国の観光客が少ないのか? すごく不明。
いろいろな原因を考えて、中国の観光客に広島の魅力がうまく伝わってない、それとも中国との観光連携かかわってないかな、ずっと気になっていたことでした。
- ・FIT旅行者が何を求めているのか良く分かりました。これからも多くのコンテンツが出てきて、FIT旅行者に喜ばれることを期待しています。
- ・訪日旅行者が大切に「特別な体験、そこにしかない価値」というのを私たちはつつい難しく考えがちだが、訪日旅行者の心に刺さる価値、感動は近くに、もっと傍にあり、その素晴らしさを届けるのはモノではなく、ヒトなんだと改めて感じる事ができた。大変勉強になりました。
ありがとうございました。
- ・せっかくニューヨークタイムズで山口市が第3位になったので、そこを中心に中国地方を展開する“実証ツアー”を企画して欲しい。森田氏のお話を聞くと“テーマのある旅行”であるならば防府天満宮や人丸神社も良い場所かと思えます。どんどん企画して欲しい! 参加したいです!
- ・スポーツ、神楽など芸能の分野体験も良いのではと思います。どうしても原爆について? が多くなってしまふので。森田さんの話がわかりやすかった。
- ・(実証ツアーについて) 商品化は次年度以降ですか?
- ・一流のガイドはちゃんと場の空気と客層を読んで喋る内容を決めていると思います。
客と一体感となれるようそれなりに努力している、楽しんでもらえるようがんばっています。

2. 業務内容

(5) 事業全体のまとめ

(5) 調査事業 サマリー

1. 文献調査について

◎ 広島を訪れる訪日外国人観光客の特徴

- ・年代：20～30代
- ・人数：2人組で、友人または家族
- ・日数：広島県内のホテルで2～3泊
- ・観光の特徴…公共交通機関を使って移動、広島平和記念資料館や厳島神社、広島城などを1～3箇所訪れる。
- ・観光目的…世界遺産など「歴史・伝統文化」が多く、欧米圏でよりその傾向が顕著。

◎ 訪日外国人観光客の興味・関心項目

- ・顕在ニーズ…その土地に実際に訪れないとできない経験が好まれる傾向にある。
⇒キーワード：「文化・歴史」「自然」「食」
- ・潜在ニーズ…自由な旅程の中で地元住民との交流や、観光地化されていない場所での体験が好まれる傾向。
⇒キーワード：「体験」「ローカル」「交流」

◎ 広島（中国エリア）周遊観光における課題

- ・二次交通（周遊交通）の問題
- ・広島県内の宿泊客が少ない
- ・観光地の知名度の低さ
- ・言語・飲食店対応

◎ 広島（中国エリア）周遊観光のターゲットペルソナ

- ・対象地域：欧米豪
- ・旅行形態：個人旅行（FIT）

【新たな魅力発見型】

「観光地化されていない場所」や「地元の人との交流」を目的とし、定番観光スポットから脱却した新しい魅力を発信する。

【自然・アクティビティ体験型】

主に20～30代を対象とし、瀬戸内海や中国地域の自然の中でアクティビティを楽しみながら地元の人との交流を図る。

【魅力深堀型】

訪日リピーターで歴史や文化に対する知的好奇心が高い層を対象に、より深い魅力を知っていただけるようなコンテンツを提供。

2. ヒアリング調査について

◎ 周遊観光について、現状の課題感やハードル

- ・滞在中の予定は概ね確定しているが、数時間～半日程度の空きあり
- ・多言語対応やフードダイバーシティ対応に課題
- ・2次交通の解消・行きにくい場所へのサポートが必要
- ・JRパスが利用できないエリア（山陰・四国）には周遊していない
- ・貸切バスやレンタサイクル利用はハードルが高い

◎ 周遊観光の需要について

- ・地方周遊ツアーの需要はやや高い
- ・歴史的なものに関心・興味あり
- ・自然系・ハイキング・キャンプ・湖畔（釣り）等のアクティビティは欧州系に人気が高い

(5) 調査事業 サマリー

3.コンテンツ調査について

文献調査、ヒアリング調査を踏まえ、本周遊観光ツアー造成にあたり、ターゲットとするペルソナを想定しながらコンテンツ調査を試みた。

想定される周遊ツアーのタイプとして、1つ目が「まだ観光地化されていない、新たな魅力を発見するもの」、2つ目が「ただ眺めるだけではなくアクティビティを通じて自然を体感するもの」、3つ目が「日本の歴史や文化、自然への知的好奇心が高く、価値のあるものにはお金を惜しまない、魅力深堀型のもの」を基に提示。

ピースツーリズムや宮島は有名だが、神楽や寺社仏閣といったそれ以外のコンテンツに対する情報発信や、そこでのお寺での写経体験といった文化的体験を掛け合わせることで、瀬戸内海や中国地域独自の自然の景観の魅力のほかに、ウォーキング、植物観察・森林浴、ハイキング等、観光客があまり行かない場所で、地元の人と一緒に、ローカルの場所での食事やイベントを実施すること。こういった地元の人と交流できたという思い出は強く印象に残り、再訪意向の向上にも繋がるということが考えられる。



欧米豪からの個人旅行者（FIT）を対象に、歴史や自然をテーマにした日帰りツアーを造成する

4.集客・募集調査について

◎宿泊事業者・観光案内所・飲食店

- ・チラシ 訪日FIT客に対して、「宿泊施設」「外国人に人気の飲食店」では成果が見えた。
- ・WEB LIVEJAPANで展開。一定の注目数があった。最終集客に対しての寄与度は可視化できていないが、WEB上にはアーカイブとして各種記事が残るため、ツアーの実績を活かすという点においては、有益である、と感じている。

⇒今回はチラシ・WEBとも実証ツアーの1週間前程度での展開だったが、実施の1ヶ月から2週間前までに展開することで、より成果が出る、と感じている。商品化の際の注意点として、留意したい。

◎調査結果ペルソナ設定および欧米豪ツアー4要素から考えるツアー企画の視点評価について

- ・1～3回目のツアーでは、参加者アンケートのツアー満足度のTOP2BOX「大変満足」「まあ満足」が100%であった。
- ・4回目のツアーでは、「あまり満足できなかった」という方が数名いらっしまった。
※1～3回目では、ツアーリーダー的な役割のガイド参加を行うことで、ツアー中での丁寧なプレゼンテーションなどストーリーの説明を行い、頻りにコミュニケーションが取れていた。

⇒欧米豪FIT日帰りツアー企画開発の視点・プロセスは、1つの方法として、評価を得られたと実感。

⇒ストーリーのわかりやすい説明とコミュニケーションをツアー中に対応する必要があることを1～3回目ツアーと4回目ツアーとの比較で検証できた。

5.報告会について

報告会全体の内容については、概ねアンケートの結果より、「大変満足した」「満足した」の評価で全体の93%と観光事業者を中心に一定の評価を得られることが出来た。

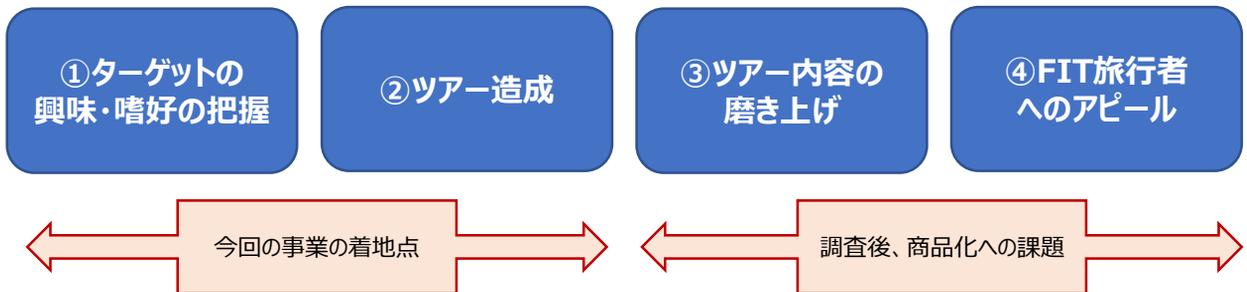
また、参加者からの意見でも中国地方全体の活性化の為の意見や、訪日外国人と事業者視点の違い、興味、また異なる意見やお考えも頂き、活発な意見交換会の場となった。一つの事業報告の答えというよりは、今後につながる各事業者の気づき、お互いの連携、長期的なビジョンの取り組みなどを通して今後の展開の重要性を認識できた。

(5) 事業の今後についての展望

ツアー造成の課題・次年度以降の販売に際して

ツアー造成に際しては今回、文献、ヒアリング、コンテンツ調査・ツアー造成によるアンケート結果から、欧米豪の訪日外国人が興味をもつ傾向、ツアー造成に関しては一定の結果を得ることが出来た。

今後は欧米豪をターゲットとして、以下4つのタームでツアー商品化へつなげていく



①ターゲットの興味・嗜好

今事業の実証より、テーマ性のあるコース設定、知的興味へ訴えかけるコミュニケーションなどを取り入れることで満足度向上などの傾向がみてとれた。第一段階としては相手の深掘りからのスタート。

②ツアー造成

外国人旅行者は多様なニーズや興味を持っているが、ツアープランの種類はまだ不足している。より多様で魅力的なツアープランを提供することが、増加しているインバウンド旅行者の求めているツアー催行につながる。欧米豪の興味を知り、理解し、テーマを設定の上、ツアー造成が有効と考えられた。

その他参加者よりアンケート結果からツアーの内容以外にも意見が得られた。

移動時間の設定：移動時間は半日前後の場合、大変満足・満足の評価であるが、終日8時間になると各個人の感じ方も異なり、普通・不満の意見が生じてくる。ツアー内容にもよるが、募集の観点からもコンパクトなツアーの方が訪日外国人にとっては参加しやすいと考えられる。

また、今回は移動時間の快適さというアンケート項目を入れた。これは、参加者の興味度、メンバー同士のコミュニケーション醸成を図る為に、バス移動中、各ツアーの目的をプレゼンテーション形式で試みた。各コース平均8割の参加者が大変満足という回答である事から、移動空間を参加者の楽しめる場、コミュニケーションの場にすることで、ツアーの期待度を高められる工夫が必要であると再認識した。

③ツアー内容の磨き上げ 外国人向けガイドの確保・育成・レベルアップ

外国人旅行者に対して、専門的な外国人向けガイドが不足しているが、ツアー後のアンケート結果からも、文化や歴史について深く理解し、外国人旅行者にわかりやすく案内できるガイドはツアー参加者の満足度に大きな影響を与える。スムーズなコミュニケーションを図るために、外国語スキルの向上と参加者への興味に応えられる深い知識とコミュニケーションが大事である。

課題：高いレベルのガイド＝ツアーリーダーの人材不足。深い知識とコミュニケーション能力を持った者が、国内においてガイド専門では就業として成り立たない現状。長期スパンで何らかの育成サポートが必要であると考えます。

(5) 事業の今後についての展望

④FIT旅行者へのアピール：マーケティングの課題：ツアー広告・宣伝活動の充実
適切にターゲット層にアプローチするには、効果的なマーケティング戦略の策定と実施が必要と考える。今回のWEB事前周知でアクセス結果は出ているものの、ターゲット独自のサイト文化へリーチするには、更なる工夫が必要。紙媒体のチラシ周知でも設置場所などの手渡し、積極的なコミュニケーションでのインフォメーションによる集客は収穫となった。

課題：事業として商品化する上で一番の課題は催行率の定着化である。予めプランを完成して来日するFIT参加者へ如何に予めリーチを行うと同時に、半日程度の余暇をノープランで持て余すFIT参加者からも、両者へ予約を取り込めるスキームが重要である。

まとめ

中国地方へ訪れる際に2次交通の課題が挙げられる。今事業でも、モニター参加者から近距離である西条、呉方面ですら、訪日外国人にとって自力ではハードルが高いとの意見を得た。増えつつあるインバウンド需要を周遊へ導くには、やはりこの課題へのアシストは必要である。

しかし、この事業を次の商品化へ進める際に最も大きな課題は、最少催行の未達によるツアーキャンセルである。出発直前までの募集を行うことが難しく、催行率を高める手法が必要である。敢えて訪日外国人限定のツアーとせず、国際交流に興味のある日本人（観光客・地域住民）にもツアー参加の間口を広げる手法もある。人材教育としても、学校・企業を問わず、外国人交流ツアーなどのコミュニケーション研修という需要は決して少なくないと考えられる。今後も多様な販売手法でリスクを軽減し、商品化の開発を検討していかなければならない。

販売会社としては、成功例の積み上げが大事である。更なるターゲットへの理解と商品化にするためのストーリー企画を育み、観光業界・地域社会と事例を共有しながら、継続的な旅行商品開発を行い続ける必要がある。